

751-311



1200501594580

71

311

拓
け
大
陸

大阪市役所産業部貿易課編
(大陸視察の果)

71
311

拓け大陸

751
311

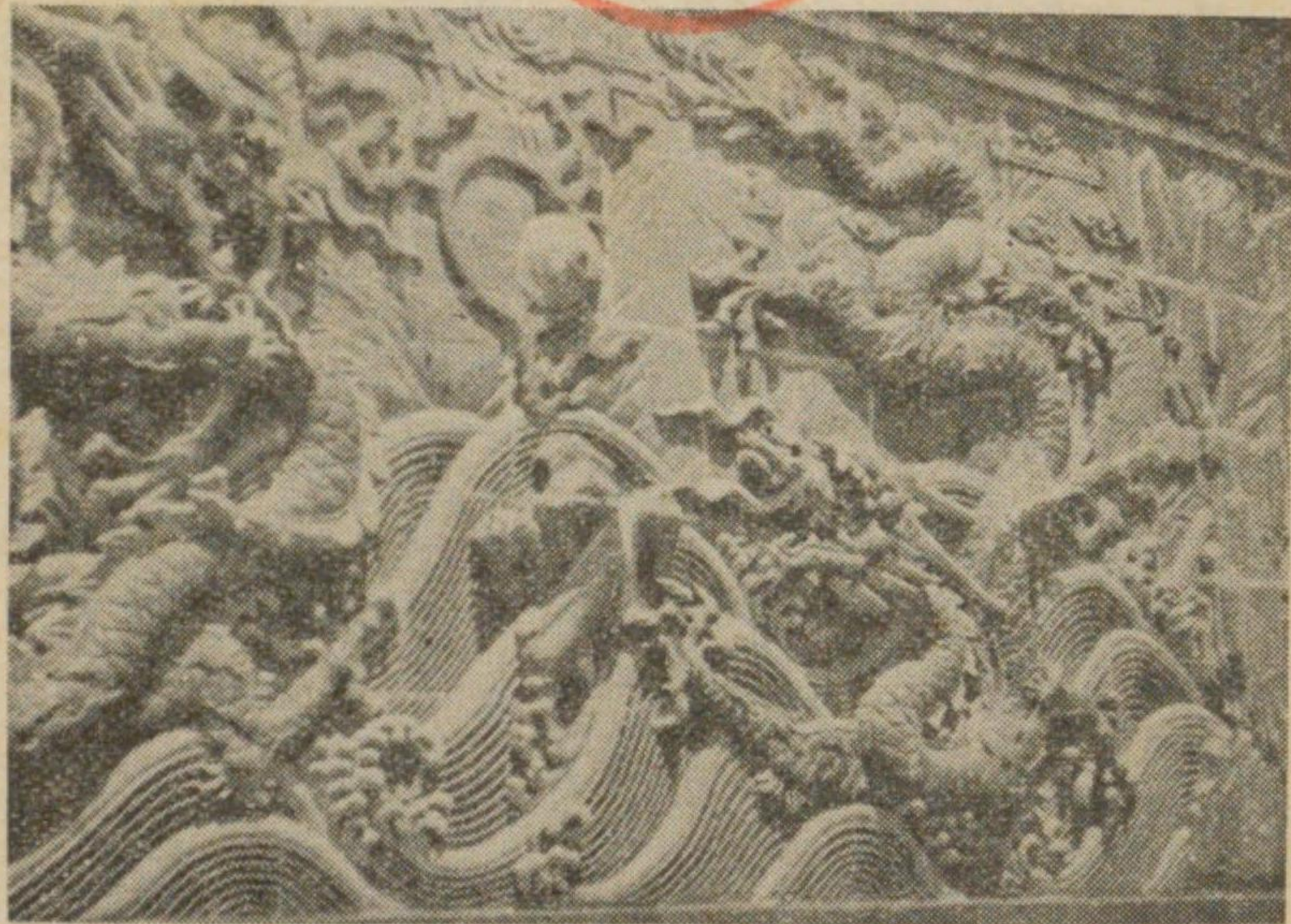
—大陸視察の葉—

593



大陸 拓 け

—大陸視察の葉—



北京紫禁城内の九龍壁



—喇 嘛 踊—

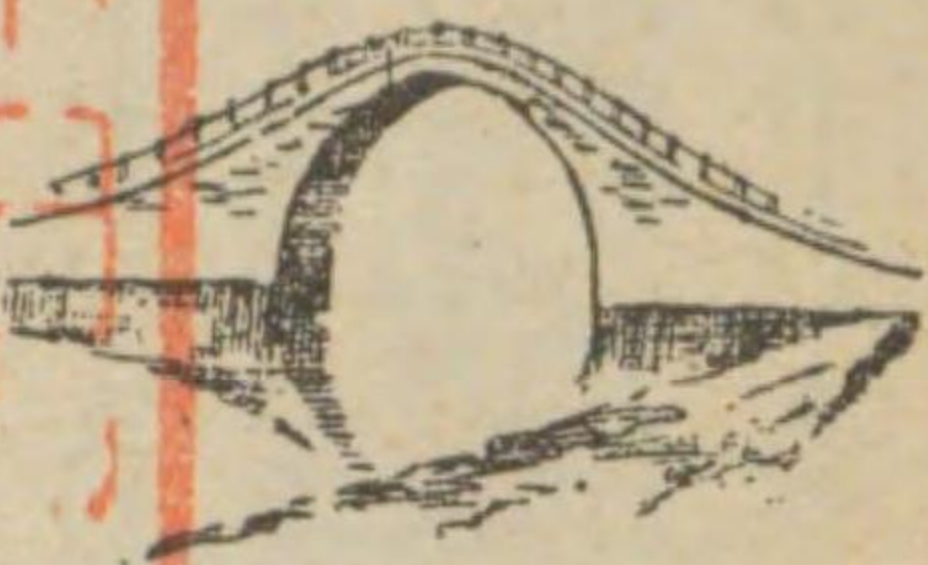
751
311

内 容

一、大陸の横顔	一
二、旅出の準備	三
渡支手續	三
兵役關係	六
所持金の制限	七
特殊持出品	八
稅關	一〇
旅具	一三
旅程	一五
氣候と衛生	一九
通貨	二二
言葉	二六
三、都市とところどころ	二八
一、北支	二八
中華民國臨時政府	二八
海關接收と關稅改正	二九
産業と資源	三一
都市(山海關・塘沽・天津・北京・濟南・青島・保定・石家莊・太原)	三三
二、蒙疆	四六
蒙疆新政權	四七

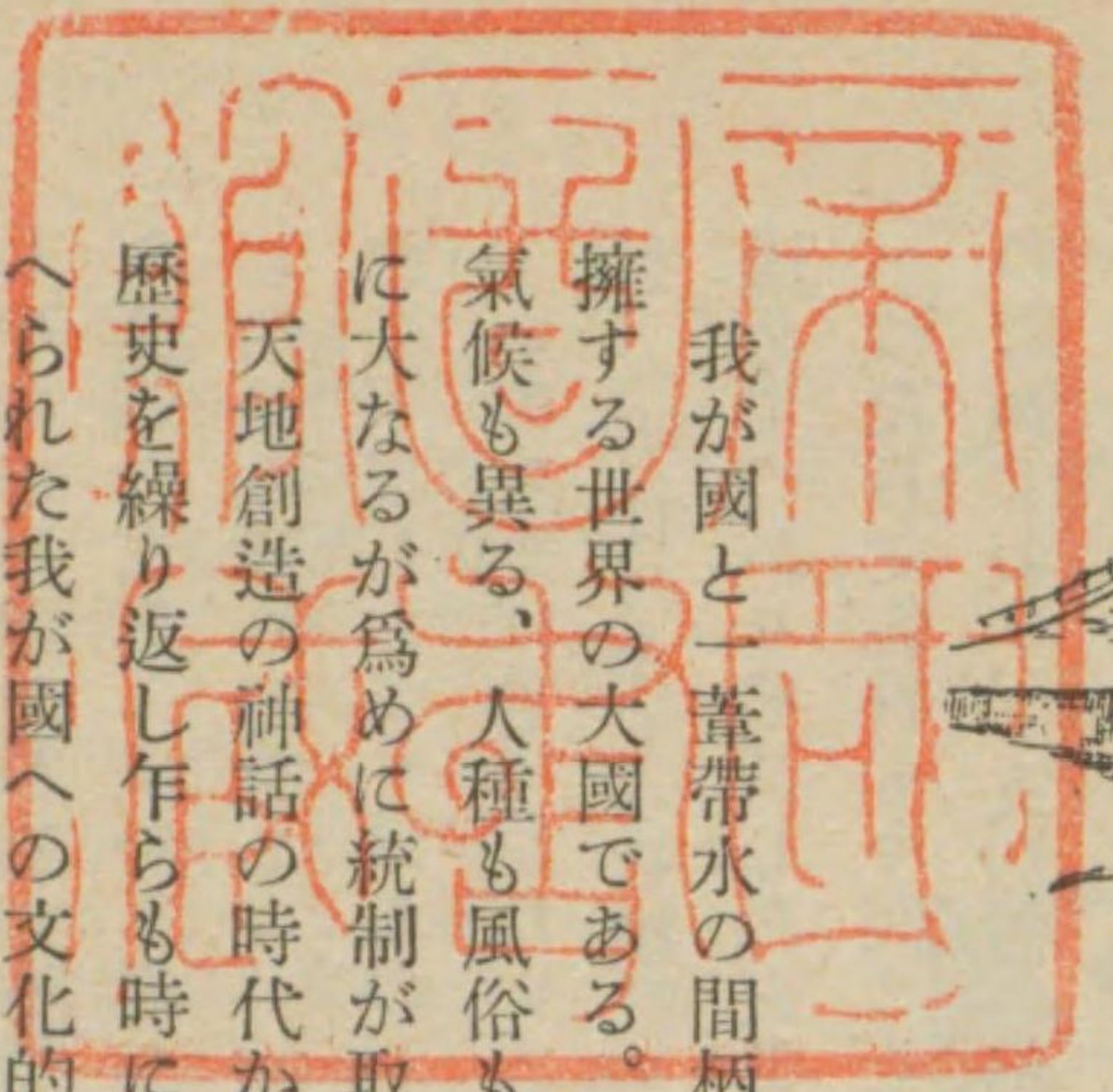
二

産業と資源	四八
都	五〇
市(張家口・大同・厚和・包頭)	五〇
支	五五
三、中	五五
中華民國維新政府	五五
中支と揚子江	五六
産業と資源	五八
中支振興會社の現状	六〇
買	六一
都	六二
市(上海・蘇州・南京・漢口・杭州・徐州・開封)	六二
支	七五
四、南	七五
産業と資源	七五
買	七六
都	七七
市(廣東・沙面・香港)	七七
四、旅の資料	八〇
簡単な支那語	八〇
簡単な支那會話	八四
船舶發着時刻と船賃	八六
定期航空路と料金	八八
支那主要資源と生産額	八九
支那對外貿易累年表	九〇
大阪港對外貿易累年表	九〇
現地主要幹旋機關一覽表	九一



大陸の横顔

はしがきに代へて



我が國と一葦帯水の間柄にある支那は實に一千万平方料、我が十五倍の地域と四億の人口を擁する世界の大国である。北は朔北沍寒の蒙古から、南は亞熱帶の南海の涯迄、地形も違へば氣候も異なる、人種も風俗も變る、同じ國內でありながら處が變れば言葉が通じない、國土餘りは大なるが爲めに統制が取れぬと云ふ惱みを持つ國である。

天地創造の神話の時代から優に五千有餘年を経た老大国支那は幾度か榮枯盛衰、興亡治亂の歴史を繰り返し乍らも時に絢爛多彩なる東洋文化の華を咲かせた。遣隋使、遣唐使によつて傳へられた我が國への文化的影響は高く評價されてよからう。

不運にも近世支那は列強から準植民地と云ふ芳しからぬ汚名を蒙つて來た。自國の領土内に外國租界を壓しつけられてゐるのは未だしも、香港を割讓し、外蒙を失ひ、西藏、新疆の邊境

も亦危機に瀕し、財政、金融、産業、貿易、交通等總ゆる方面に列強の支配を甘受せなければならぬ支那としてはこの汚名も強ち不當とは云へず、一九二二年華府會議で支那とは何ぞやと誠しやかに討論されたのも多少の眞理は含まれてゐる様にも思はれる。同文同種の我が國民ですら眞劍に支那に就いて考へ出したのはつい最近のこと、同様に支那が我が國に就いて研究し出したのも極めて新しい。云はば相互に餘りに近かつたが爲めに餘りに知ることが少なかつた。燈臺下暗しとでも云ふのか、これが今日の事變の最も大きな原因だとしても言過ぎであるまい。

いま支那は曾て見ない大きな試練に直面してゐる。蔣政權の壓制から脱れ、列強の侵害を排し、「明日の支那」を建設しやうとする一大試練である。誤謬と蒙昧との爲めに持つ醜い對日感情をすつかり拂拭した支那民衆はいま心から日提携を感じ出した。從來單に口頭禪に過ぎなかつた日支親善も今回こそは結實しやうとしてゐるが、これこそ聖戰に燈れた英靈への何よりの贈物であり、支那側の損失をして敢て徒爾たらしめぬ道でもあらう。既に豊富なる埋藏資源、幼稚な産業は我が優秀な技術と資本とで開發に着手された。

わけの分らない國、眠れる國、昨日の支那に對する觀念はもう今日の支那にはあて簀まらない。防共樞軸の一環として東亞經濟ブロックの完成に精進する新支那、大陸に志す者はしつかりとこの新しい支那の姿を見究めなければならぬ。



旅出の準備

◇ 渡支手續 ◇

支那に渡るには先づ何よりも先に居住地所轄警察署に出頭して身分證明書を貰はなければならぬ。之がなければ乗船券も購入出来ないから是非共出發の準備第一に入手して置く必要がある。この證明書は國境通過の際及び船車乗降の際取締官憲によつて檢閲を受け、

又旅行中隨時提示を命ぜられる場合もあるから常に身邊に携帶してゐなければならぬ。

この證明書は所轄警察署に出願して約一週間、永くて一ヶ月位で下附される。府縣によつては出願に際し寫眞を必要とする場合もある。所要記入事項は本籍、現住所、職業、氏名、生年月日、渡支の目的及理由、滞在期間

等である。

さて出願に對する許可であるが天津、北京、青島、上海は手続きは比較的簡單で、前科者（破廉恥罪）、浮浪者、要監視者などでなければ大抵は許可される。思想犯におちた者でもその後の轉向が確實と認められると許される。南京も餘り難しくはないが安慶、漢口になると少々難かしく、厦門、廣東は今のところ軍關係か、領事館の證明のある人か、前の居住者か、緊急の用事のある人に限られてゐる。その他の奥地へは上海なり、北京なりへ一應落着いてから現地軍當局の許可を受けて進めばよい。

○ 蒙、疆へは直接は行けないので先づ警察で北京迄の許可を得て北京の軍當局で更に許可を貰ふことになつてゐる。これは蒙古地帯旅行者の身邊保護の目的から出たもので昭和十三年七月一日から入蒙者取締暫行規則が制定實施され、爾後蒙古方面旅行者はこの規則によることゝなつてゐる。

○ 尙漢口、廣東方面は特殊な注意が必要なのでこの點に觸れて見やう。

漢口は事變前、日本租界に住んでゐた人に先づ復歸の優先權が與へられ、次は租界

以外の漢口にゐた人、相當資金を有する者（一千圓以上の携帶は大藏省の許可を要す）、一藝一能に秀でた腕を持つ者（例へば大工、醫師等）が普通に許可される。然し乍ら上海から先は御用船以外は通はないのでこれに便乗させて貰ふより外はない。最近では漢口方面の邦人商店は既に飽和状態に達して居り、中にはどうかと思はれる様な質の好くない商人もあると云ふので、一時緩和された漢口方面への渡航は身元調査が相當嚴重になつてゐる。

○ 廣東は軍關係か、領事館の證明ある人以前の居住者、緊急用事のある人に限られて

ゐるが、内地で身分證明書を所轄警察署で貰ひ更に種痘證明書を準備して置かねばならぬ。

普通には先づ臺灣に渡り臺北で臺灣軍司令部の便乗許可證と便船の指定を受けて廣東に渡航するのであるが、臺灣で相當日數待機することを念頭に置いて旅程を作らねばならぬ。

だが廣東を初め南支一帶は云はゞ事變の第一線であるから、必ず廣東上陸の際出迎へに來て呉れる位確實に頼りになれる人がなければ渡航は禁物である。殊更廣東に限つた譯でないが「行けば何とかなるだらう」と云ふ様

な考へでは現地に働いてゐる人に厄介をかけるばかりだから呉々も注意を要する。

○

何れの場合にも身分證明書は絶対必要で、時と處によつては種痘證明も必要であるが、この種痘證明は云はれる迄もなく衛生的見地からしても進んで種痘をして置くべきである。

尙乗船券も相當前から豫約して置かぬと豫定の日に出發出来ない事もあるから注意が必要である。

◇兵役關係◇

時局柄兵役に關係ある者は充分この點を注

意し、必ず市區町村役場の兵事係に就いて疑問點は確めて置かなければならぬ。

總て豫備兵役、後備兵役、補充兵役など兵役關係にある人が旅行する時には出發二週間前に市町村長を経由して聯隊區司令部へ届出を要する。

まだ徴兵検査を受けてゐない者は支那では現地で受検するのであるが、現地受検の者は三月三十一日迄に現地領事館へ出願すると共に、原籍地の區役所、町村役場へ届け出で、合格すれば内地に歸つて入營することになつてゐる。

豫備で支那へ行つてゐる人の勤務演習は届

出てあれば召集免除になるのが普通である。

然し乍ら日本軍人である以上何時如何なる場所でも召集に應ずる準備を整へてゐる必要があることは敢て注意する迄もなからう。

◇所持金の制限◇

自分の金を持ち出すのに何の制限が要るかとも考へられるが國家の前には個人のこととは云つて居られない。我が國の國外流出を防ぐ爲めに昭和八年以來一千圓以上は海外へ持出すことが外國爲替管理法によつて禁止されてゐたが、更に昨年十月八日以降たとへ千圓以下であつても百圓札の持出は禁止されてゐる。然るにこの新法令が徹底せず、大陸發展

の爲めには相當資本が必要だとばかりとんでもない了見違ひから税關の世話になる人が尠くない模様である。この一千圓と云ふのは旅費として認められてゐるので、然も一世帯を通じてのことであるから主人が九百圓、奥さんが二百圓を持つて同行すれば違反となること勿論である。

所持金は乗船直前税關の旅具課へ通貨携帶高報告書で申告することになつて居る。若し商賣の資本として一千圓以上を所持して行き度い時には日本銀行本支店を通じて大藏大臣の許可を得て置かなければならぬ。何故こんな窮屈な制限が設けられてゐるのか、一概に

國策と云つてしまへばそれ迄であるが、これ等の経緯に就いては通貨の項で述べることとする。

◇特殊持出品◇

所持金に一千圓以下と云ふ制限がある點から見ても、金貨、金塊、金製品の携帯が禁止されてゐることは自明である。但し金時計、金指環等の装身具は身分相應の程度であれば差支へないが、どの程度迄が身分相應であるかは税關吏の認定によることになつてゐる。國寶、重要美術品は文部省の許可がなければ持ち出せないし、護身用の刀劍、銃器類は警察署の許可がなければ携帯出來ない。そし

てこれを携帯の節は必ず許可證を持つてゐなければならぬ。

○

寫眞機、小型撮影機は旅の伴侶として一般に携帯されるものであるが、日本製以外は税關の旅具課で携帯品積出證明書を貰つて置かないと日本へ歸る際輸入品として輸入税を賦課される懸念があるから必ずこの證明を得て置かねばならぬ。手續は簡單で乗船前に旅具課で受ける事が出来る。

尙軍事上の秘密保持の爲め撮影禁止の場所も多いから、各種制札に注意すると共に、常識を以て誤らない様に注意しなければなら

ぬ。

○

次は商品見本の携帯である。遊覽兼商用の旅行が漸次増加して商品見本を持出すものが尠くない様であるが之に就いての注意を述べやう。

總て商品（見本を含む）を持つて行く者は必ず乗船地の税關に前以て輸出申告し、輸出免狀の交付を受けて所持し、乗船の際に税關官吏に示して「認船積」の承認印を受けて所持しなければならぬ。

特に商品見本で注文を取つて再び歸國の際に持ち歸らうと云ふ様な場合この手續を取つ

て置かぬと、その見本が日本で作つたものに違ひないことが分つてゐても「關税法」によつて輸入税を課せられる。

普通輸出免狀は出帆當日の申告では仲々出來ぬから、數日前から手配して置かぬと、身柄は乗船出來ても手荷物波止場に残つたと云ふ様なことになるので吳々も注意すべきである。この手續は公認税關取扱人に委せば簡單にして呉れる。

尙百圓以上の商品を持參輸出する時には別に輸出申告の時に全部「無爲替輸出報告」と云ふ書式で、その商品代金はどうして我が國に回收するかを豫め報告せなければならず、

大藏大臣より「無爲替輸出許可書」を貰つてゐるものはやはり税關にその旨を申告せなければならぬ。

以上は外國爲替管理法から見た注意であるが、この外に臨時輸出入許可規則により商工大臣の許可を必要とするもの、或は圓ブロック向け輸出制限に牴觸するものもあるので専門家の意見を聞いて實行する必要がある。

尙先方の税關であるが、見本を處分せず再び持ち歸るものは輸入税を免除されるが、この際税關長よりその見本の輸入税に相當する擔保物の提供又は供託を命ぜられる。旅行先で處分するものは種類、金嵩等によつて課

税、免税を税關吏が認定することになつてゐる。

◇税關◇

税關は輸出入禁制品の検査や、正當なる輸出入を保護する爲めに設けられた機關で、検査は夫々税關吏によつて行はれるのであるが、検査に際しては税關吏の質問には正直に答へ、分らぬことは積極的に相談すべきである。通關と云へばうるさいと云ふ誤解もないでもないが意識的違反でない限り毛頭そんな心配はない。土産と税關検査、誰しも懸念になることであるが、通關の秘訣は「正直なる申告」であることを念頭に入れてさへ置けば

問題を起すことはない。

大陸に着くと夫々到着地の海關で検査をうける。船で直航する場合北支では塘沽、天津青島の各海關で、中支は上海海關で行はれるが、朝鮮經由滿洲を経て北支に入る場合は朝鮮、滿洲國境の安東、滿洲、支那國境の山海關（錦州、承德經由の際は古北口）と二回の検査を受けなければならぬ。

陸路による場合手廻品は列車の中で検査が行はれるが、手荷物は列車から一應プラットホームに下して行はれるので、手廻品の検査の済み次第ホームに下りて検査に立會はぬと積殘されるおそれがある。

從來支那海關は英國人の勢力下に置かれ税關吏も英國人萬能であつた爲め、検査や課税が日本人に厳しく外人は殆んど無検査でパスさせると云ふ様な差別的待遇があり日本人を憤慨させたものであつたが、既に各港とも支那新政權の下に歸屬し、日本人税關吏の定員も相當増加してゐるのでこんな懸念は解消し、寧ろ日本人には有利な立場におかれてゐる。

○

次に歸途に於ける税關検査であるが支那旅行者に取つて最も懸念になるのは土産物に對して税關が如何に評價するかと云ふことであ

る。

天津、大連、上海方面から内地に歸航する場合携帶品は夫々船内で検査が行はれるのが普通であるし、陸路滿鮮經由による場合は山海關、承古線では古北口と安東及び釜山の税關で検査をうける。

煙草に就いては往々間違が生ずるがこれは自用として左記數量が免税されてゐるので土産物として免税されてゐるものと誤解してはならぬ。そして必ず検査済の證印をうけなければならぬ。

紙 捲 百本以内
葉 捲 五十本以内
但し一人につき何れか一種に限られ葉捲、

一割乃至一割五分位の税が課税されるし、麻雀には一組三圓の骨牌税がかかるから無闇と買はぬことである。

公安又は風俗を害する懼ある書籍、圖書、彫刻等は云ふ迄もなく輸入を禁止されてゐる。

この外人に貰つた物、依頼されたものも當然本人の所持品と見做され、これは人のものである等と云ふ言譯は絶対に認められず、課税品はどしどし課税されるから注意を要する。

◇ 旅 具 ◇

服装、携帶品等は身軽く少ない程旅行に便

紙捲兩方の場合各々その半量宛
刻 三十匁以内

次に掲げるものは旅行者の身分、職業、旅行の目的等を斟酌して税關吏の認定によつて免税されるのであるから、これを定量として主張することは出来ないがこの程度の土産なら免税されるものと見てよい。

砂糖菓子類は十斤以内
織物（絹紬一反以内、絹緞子十尺以内、緞子十尺以内）一人に付一品
支那素麵は十斤位迄
甘栗は七百匁位迄
次に寫眞機、毛皮、麻雀、雙眼鏡、寶石類等の奢侈品は市價十割位、外に物品税として

利である。況んや各種交通機關のスピードアップに伴つて支那大陸も我が内地の延長としか考へられない今日、仰山らしい準備は禁物出来るだけ心易く出掛ける様に努むべきである。旅行用の服を仕立てたり、不必要な携帶品に尠なからぬ浪費をすることは物資の節約が強調される今日吳々も注意しなければならぬ。又氣候に就いては後で一言するが、支那旅行の好季節は春秋の二季に盡きると云へる。

然し乍ら只の遊覽旅行ならばいざ知らず、商用を兼ねた旅行ともなればその様な贅澤も許されず、必要な時期に出發しなければなら

ぬ。

従つて先づ春夏秋冬の三季はその温度の差は多少の相違こそあれ、春秋は内地同様合服、夏は夏服と餘り汚れ目の眼立たぬものを着用する程度で足りやう。とは云へ大陸には大陸特有の氣候があつて晝夜、朝夕の氣温の變化が著しいから、莫大小のシャツ、ズボン下の厚手薄手を準備してこれで加減する方が、嵩高い澤山な上衣を持つて行くよりどれ程便利であるか知れない。

止むを得ず冬季に出掛けねばならぬ時は特別防寒保温の準備が大切である。北支から蒙疆にかけての寒さは凡そ日本で想像されぬ、

常自己の生活から判断して夫々準備すべきで、殊に衛生上の見地からは非持参の要があらう。

同時に氣候風土の相違から来る食あたり、水あたり、或は些細な外傷に對する救急薬として普通に考へられるクレオソート、仁丹、メンソレータム、絆創膏、熱冷し、風邪薬は必携すべきであらう、空氣枕、風呂敷、紐、地圖、手帳、萬年筆、砂塵除眼鏡(北支、蒙疆の場合)、マスク等の零細なるものも準備するに越したことはない。

さて之等の携帶品は出來得る限り一纏めにして、手荷物の數を少くする方が得策である。紛失の懼

之等の地方は夫々特有の皮衣又は綿服、風帽等で大陸的酷寒を凌いでゐるのであるから冬季だけは充分の準備を整へなければならぬ。

○ 服裝の中で雨具はどうするかと考へられるが支那殊に北支方面は雨が少い。乾燥期には數ヶ月も降雨も見ないこともあるから、防寒を兼ねてレインコートを持参して行くのが實用的であらう。

○ 細々した身廻り品例へば齒ブラシ、石鹼、剃刀、タオル等は、旅館、船舶に備品のあるところもあるが、こう云つた種類のものは日

れあることも勿論だが、荷物を驛に預けたり、赤帽、苦力等に運搬させる場合に一箇當り計算されるのでこの經濟も決して馬鹿に出來ない。

◇ 旅 程 ◇

支那に渡るにはどんなコースがあるか。旅程を立案するには所要經費と日數とを睨み合せてかゝらねばならず頗る厄介な問題であるが、茲では大陸要地迄の經路を掲げて參考迄に二、三の日程表を示すこととする。

北支方面

- (一) 大阪—下關—釜山—北京 大阪から下關迄省線、關釜聯絡線で釜山から北京直行に乗ると天津迄四十圓六十二錢、北京迄四十二圓七十二錢。
- (二) 大阪—三宮(神戸)—大連—奉天—山海關—天津

—北京— このコースは神戸から大連迄汽船で後は奉天經由滿洲を経て陸路北京に入るもので、天津迄三十七圓八十六錢、北京迄三十九圓九十六錢。

(三) 上述コースを大連で白河溯航の天津行汽船に乗り換へる。天津迄二十七圓八十九錢、北京迄二十九圓九十九錢。

(四) 大阪—三宮(神戸)—天津 これは神戸から天津直航のコースで白河々口塘沽で汽車に乗り換へ天津に入る。天津迄二十三圓五十九錢、北京迄二十五圓六十九錢。

(五) 大阪—三宮(神戸)—青島 二十圓八十九錢。

中支方面

(一) 大阪—三宮(神戸)—上海 神戸から上海迄船によるコースで大洋丸によると二十三圓八十九錢。

(二) 大阪—長崎—上海 大阪から長崎迄省線、長崎から上海丸か、長崎丸によつて上海に渡るコースで兩船に乗ると二十六圓八錢。

(二) 津浦線 天津驛から德縣迄三圓六十錢、濟南迄五圓四十錢、徐州迄十圓十錢。

(三) 京包線 北京から張家口迄三圓、大同迄五圓八十錢、厚和迄十圓、包頭迄十二圓三十錢。

(四) 膠濟線 青島から濟南迄五圓九十錢。

(五) 海南線 上海から蘇州迄一圓三十錢、南京迄四圓七十錢。

(六) 海杭線 上海から杭州迄二圓八十五錢。

以上の汽船、汽車賃は三等計算によつたが二等では略々二倍、一等では略々三倍見當、汽車の急行券、寢臺券は別である。尙内地から往復切符を求めると相當の割引がある。

○
本市に於て實施した中、北支經濟視察團の日程表、その他參考日程を示すと次の通りで

南支方面

(一) 大阪—三宮(神戸)—基隆 神戸、基隆間三等二圓。これから先は渡支手續に述べた通りで、詳細は不明。

○
奥地へは内地から聯絡切符を賣らないので現地で買ふより他はない。又戦地では汽車に乗るには便乗を許して貰ふと云ふ形式の所がある。たとへば上海方面では軍當局の許可が必要であるから現地に着いてから研究の必要がある。主要奥地行の汽車賃を見ると左の通りである。

(一) 京漢線 北京前門驛から保定迄二圓二十錢、石家莊迄四圓二十錢。

あるが、この程度ならば忙しい中にも相當用達も出来る。

北支蒙疆方面

- 第一日 大阪發—神戸出帆
- 第二日及第三日 船中
- 第四日 大連着(市内視察)—大連出帆
- 第五日 天津着
- 第六日 天津 滞在
- 第七日 天津發—北京着
- 第八日及第九日 北京 滞在
- 第十日 北京發—張家口着
- 第十一日 張家口 滞在
- 第十二日 張家口發—大同着
- 第十三日 大同發—厚和着
- 第十四日 厚和發

旅出の準備

第十五日 北京着

尙第十六日より熱河の承德、錦州、奉天を視察し朝鮮經由にて第二十二日目歸阪。

石家莊太原方面

北京迄は前述のコースによる。

第十日 北京發—石家莊着

滞在

第十一日 石家莊

第十二日 石家莊發—太原着

滞在

第十三日 太原

第十四日 太原發—石家莊着

第十五日 石家莊發—北京着

尙十六日天津出發海路によれば第二十日に歸阪出来る。

青島方面

第一日 大阪發—神戸出帆

中支方面

第一日 大阪發陸路汽車で長崎へ

第二日、第三日及第四日船中

第五日 天津着

第六日 天津

第七日 天津發—濟南着

第八日 濟南

第九日 濟南發—青島着

第十日 青島

第十一日 青島出帆

第十二日及第十三日船中

第十四日 神戸着發—大阪着

尙青島直航では左の通り四日間を要する。

第一日 大阪發—神戸出帆

第二日及第三日船中

第四日 早朝青島着

◇氣候と衛生◇

一千万平方料と云ふ廣汎な國土であるだけに氣候も北と南とで著しく違つてゐる。夏と冬とで極端な差があるのみならず、一日中에서도晝と夜とで相當氣温が上下する。一言にして云へば大陸氣候で降雨量の比較的少いことが一層その大陸性を濃厚にしてゐる。

先づ氣候の良いのは内地同様春秋二季で、北支の秋、江南の春が旅行の好シーズンと云はれてゐるが、この期間は比較的短く、北支の加きは僅か一ヶ月餘り、江南の春はもつと短い。

第二日 長崎着—同出帆

第三日 上海着

第四日、第五日及第六日上海滞在

第七日 上海發—南京着

第八日 南京

第九日 南京發—上海着

第十日及第十一日上海滞在(この間杭州見物も一案)

第十二日 上海出帆

第十三日 長崎着—同地汽車にて出發

第十四日 大阪着

南支方面

第一日 大阪—三宮(神戸)出帆

第二日及第三日船中

第四日 基隆着

以降は渡支手續に述べた通り軍の指定船に乗るので日程の作成は困難である。

旅出の準備

北支の夏は北京で七月の平均温度が二十六度乃至二十七度で略々大阪と大差がないが烈しい太陽の直射を受けると餘程暑く感ずる。奥地に入ると暑さは段々厳しくなる。冬は北京で一月平均温度氷點下四度で大阪の四度に比べると相當の寒さであることが分るが、漸次奥地に入るに従つて寒暖計は下り、張家口では同じく氷點下十五度となつてゐる。

中支の寒さは問題でないが暑さは相當厳しい。七月の平均温度は上海二十七度、漢口二十八度で、大阪の二十七度と大差はないが、漢口方面は周圍の濕地の影響を受けてその蒸し暑さは特別に酷い。

南支廣東方面は熱帯に近く氣候は我臺灣に似てゐる。七月の平均温度二十九度、大阪に比べて二度も高い。参考迄に昭和十二年度各地氣温並に降水量を示すと左の通りである。

	氣 温				全年降水量(耗)
	一月	四月	七月	十月	
大阪	四・八	一三・五	二七・二	一七・六	一、〇九七
北京(一四・四)	一三・九	二六・三	二二・四	一一・六	六四五
上海	三・五	一三・五	二七・五	一八・〇	一、一三二
漢口	三・七	一六・三	二八・八	一八・四	一、一六三
廣東	一四・八	二二・〇	二九・二	三四・二	三三五

○ 氣候はこの様に大陸的である。而も衛生的思想が發達せず、無理遣りに自然の暴威と病魔に抗してゐるのが支那人である。

旅に出て病魔に冒される位悲惨なことはない。旅ともなれば内地でさへ水あたりや、食あたりによられるのであるから、氣候と風土を異にする大陸では充分衛生に心懸けねばならぬ。

先づ第一に注意を要するのは生水である。黄河も揚子江も、大陸に第一步を印して驚くのはその汚濁した水で、支那人なればこそ平氣でこの水でも使用するのであるが、内地から來た者には到底使用に堪えない。北京、天津、上海等大都市の水道の水も生では危険で慣れる迄は涼開水リヤンカイスイと云つて一度煮沸して冷した水を飲まなければならぬ。サイダー、ラ

ムネ類、生野菜類にも吟味が肝要である。

夏季にはマラリヤ、チブス、コレラ、赤痢天然痘等が流行する。大陸に出掛ける際はチブスの注射なり、種痘なりは是非心懸けねばならぬ。そして飲食後クレオソートでも服用して置けば少々身體は弱くても萬事安全である。何も恐れるには當らないが慣れない間は用心に越したことはない。

大陸では車中でも、家庭訪問の際にも随分茶が出るし支那人自身よく茶に親しむ。これは氣候が乾燥するので自然さうさせるのであるが、茶を通じて支那の一面を知り得たら誠に面白からう。

◇ 通 貨 ◇

支那の貨幣は古くから想像も出来ない程複雑を極めて来たが、昭和十年の幣制改革以來は法幣が強制通貨となり各種通貨は漸次整理されて、事變前には支那貨幣と云へば先づ法幣を指す迄になつてゐた。然し乍ら事變發生以來様子は又多少變つて来た。

目下北支では中國聯合準備銀行券、蒙疆では蒙疆銀行券、中南支は法幣と我が軍票及び圓が通貨となつてゐるので、北支、蒙疆方面に入るには入出境の際に國境驛や埠頭にある無料兩替所で兩替をせなければならぬ。この兩替は夫々等價であるから計算の面倒もな

く、圓紙幣の氾濫を防ぐと云ふ國策にも資するのであるから必ず兩替して直接日本金を使用しない様に心掛けねばならぬ。歸途は又使残りを日本金と交換すればよい。これは極めて簡單に見た通貨の現状であるが尙地方によつては夫々特殊事情もあるから少しこの點に觸れて見やう。

○

北支 昭和十三年三月十日中華民國臨時政府の中央銀行である中國聯合準備銀行の聯銀券が、舊法幣を北支より驅逐すると云ふ重大使命を以て市場に現れた。この聯銀券の發行と同時に舊通貨整理辦法が公布され、これ

によつて從來の法幣で南方で發行された所謂南方券は三ヶ月間の流通期間を許してこの間に聯銀券との等價交換を行ひ、一方北支で發行された北方券に對しては一ヶ年の流通期間を許容した。この北方券の期限も本年三月十日で流通期間が切れたが、この間事變の進展に伴ひ法幣の對外價值が著しく下落してゐるので、聯銀券と北方券の交換比率は昨年八月七日に一割、本年二月二十日に三割、この二回で四割の切下げが行はれてゐる。聯銀券の發行高は既に二億元を突破し、この三月十日以降は法幣（北方券）の流通が禁止されたので、聯銀券の發行高は急激に増加すべく、や

がて北支は聯銀券一色に塗り潰されるであらうと期待されてゐる。

○

蒙疆 北支、中支に比較して蒙疆の通貨は最も早く完全に統一され、察南、晋北、蒙古の三自治政府の全地域に互り蒙疆銀行券が流通してゐる。

蒙疆地域では昭和十二年十月一日公布の緊急通貨防衛令、同年十一月二十二日公布の蒙疆銀行條例により新通貨が發行された。この通貨は日本竝に滿洲國の圓に等價を以てリンクし、蒙疆銀行と滿洲中央銀行とは創立早々等價交換協定を締結し、自由に貨幣の等價交

換を行ひ滿洲國幣を通じて日本圓にリンクした。更に中銀、正金、鮮銀、住友各銀行と爲替契約を結び、日滿蒙北支間は等價を以て爲替取引が實行されてゐる。

蒙疆銀行は創立と共に察南銀行、綏遠平市官錢局、農業銀行を合併し、新紙幣の發行と共に舊法幣並に各種雜券の回収に努め、現在では蒙疆銀行券の外には少額の滿洲國幣及び金票を残すのみで、それ以外の通貨は流通禁止となり舊法幣は姿を沒した。通貨に對する國民の信頼は圓紙幣との等價交換と軍の肅清工作進展とによつて微動だに示さない。昨年未蒙疆銀行通貨發行高は三千八百萬圓であ

○ 中支 中支の通貨は今尙混亂状態を繰り返してゐる。從來の支那紙幣法幣と、我が圓紙幣と軍票が入り混つてゐるのであるが、上海を除けば圓紙幣よりも軍票でと云ふ建前で軍票の流通が旺んになつてゐる。

目下上海では旅行者、商人、兵士等によつて齎される圓紙幣の流入で不當な圓安を招來し、圓と法幣との交換は全く爲替相場と無關係に錢莊によつて勝手に市中相場が成り立つて行く。最近の爲替相場では百元に對し六十圓餘りに過ぎないのに、實際の市中相場は百

元に對し九十何圓と云ふ様な状態となつてゐるのである。

色々複雑な原因があるにしても圓の氾濫がその一因をなしてゐることは争へないので、その對策として所持金の制限が設けられ、或は中支方面を圓ブロックより除外して日本品を輸出し圓紙幣を回収しやうと云ふ様な議論も出て來てゐる。法幣のこの根強い態度はその背後に英國の香港上海銀行があることによるのであるが、何れにしても中支の通貨は中々厄介な問題である。

○ 南支 廣東には從來廣東省獨特の毫幣、

即ち廣東省銀行及び廣東市銀行の發行紙幣が流通し、支那事變前は毫幣三億元餘、法幣五千萬元餘の流通を見てゐた。この外廣東からクリーク一つ距てた沙面(英、佛租界で正金、臺銀、三井物産、郵船、商船も事變前本據を茲に持つてゐた)には香港上海、チャータード、マーカンタイルの英國系三銀行の發行する香港弗が廣東の對外貿易通貨として絶大な勢力を持つてゐる。

この間に日本通貨として軍票が登場して來たのである。

然し乍ら廣東占據以來日尙淺く今のところは軍關係に限られてゐるのであるから、その

將來を注視するの外はなからう。

◇ 言 葉 ◇

我々が支那を旅行して最も多く不便を感じるのは言葉を知らぬ點である。旅先に知人でもあればこれに越したことはないが、これもないとすれば一日五圓か六圓位で通譯を頼まねば滑かに用達をすることは困難であらう。

然しこの通譯も奥地に入ると見當らないから土地に頼る人がなければ不便である。勿論日本宿が相當奥地に迄進出してゐるので之等宿屋の人を頼むことも便法であらう。

支那語と云つても北支では北京語、蒙疆では蒙古語、中支では上海語、南支では廣東語

が大體當該地方の標準語となつて居り、この中の北京語が共通に話され先づ教養ある人は北京語を解する。土語に至つては際限がないので先づ早道としては北京語の簡單なるもの挨拶の言葉、買物の言葉、錢勘定の言葉、地方名、旅館名等を覚えて置くこと便利である。出發の際手頃な會話の本を準備して船中や、車中の徒然を消すのも面白からう。

近頃北支では日本語熱が旺盛で番頭や車夫等も少しづつ日本語を解する様になつて來てゐるので、日本人でも少しの支那語を解する様になれば、手眞似や筆談等を混へて容易に意志を通することも出來やう。又相手がイン

テリならブロークンの英語でも通ずるから英語の話せることも便利である。

支那語を知つてゐるに越したことはないが言葉が判らないから渡航を遂ふ様なことがあつてはならぬ。手眞似筆談でも用達が出来るのであつて、況んや北中支の至る處で邦人に出遇ふのであるから、その應援も求められる。同じ支那人同志でも北と南では言葉が同じないから、言葉の分らないと云ふことは不便ではあるが心配はない。

以上は會話に就いてであるが支那語にはこ

の外に時文と稱する現代文がある。判り易く言へば會話は日本の口語體、時文は日本の文語體とでも言へやう。現代の支那の新聞雜誌は全部時文で書かれてゐるし、手紙もこの文體が用ひられてゐる、中々難解の語が多い。讀むことは多少の努力で出来るが、手紙でも書く段になれば二年や三年の努力は必要である。

もう一つ支那語には古文があるがこれは所謂漢文でその代表的なものが四書五經であることは周知の通りである。



都市とところどころ

(一) 北支

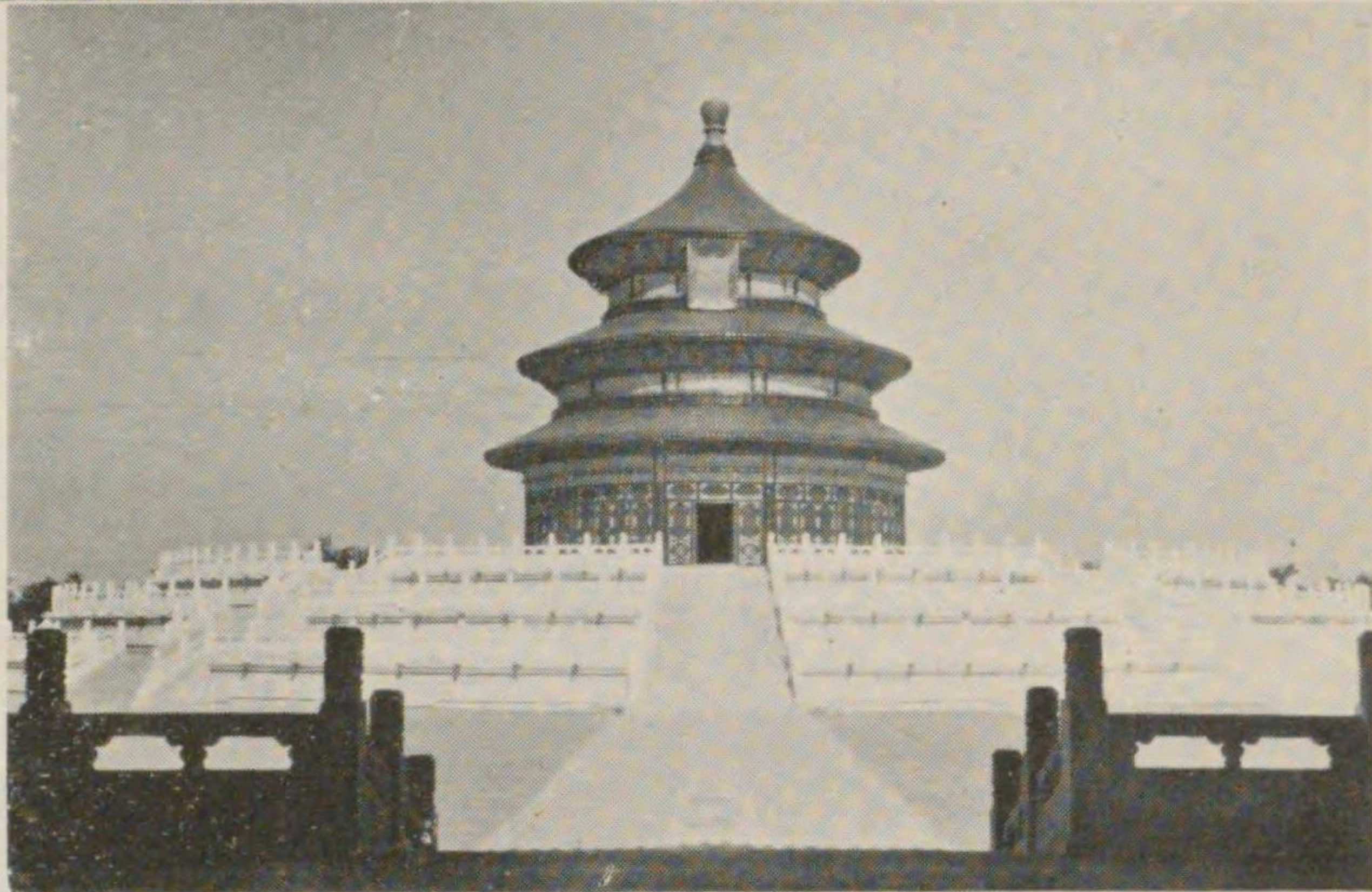
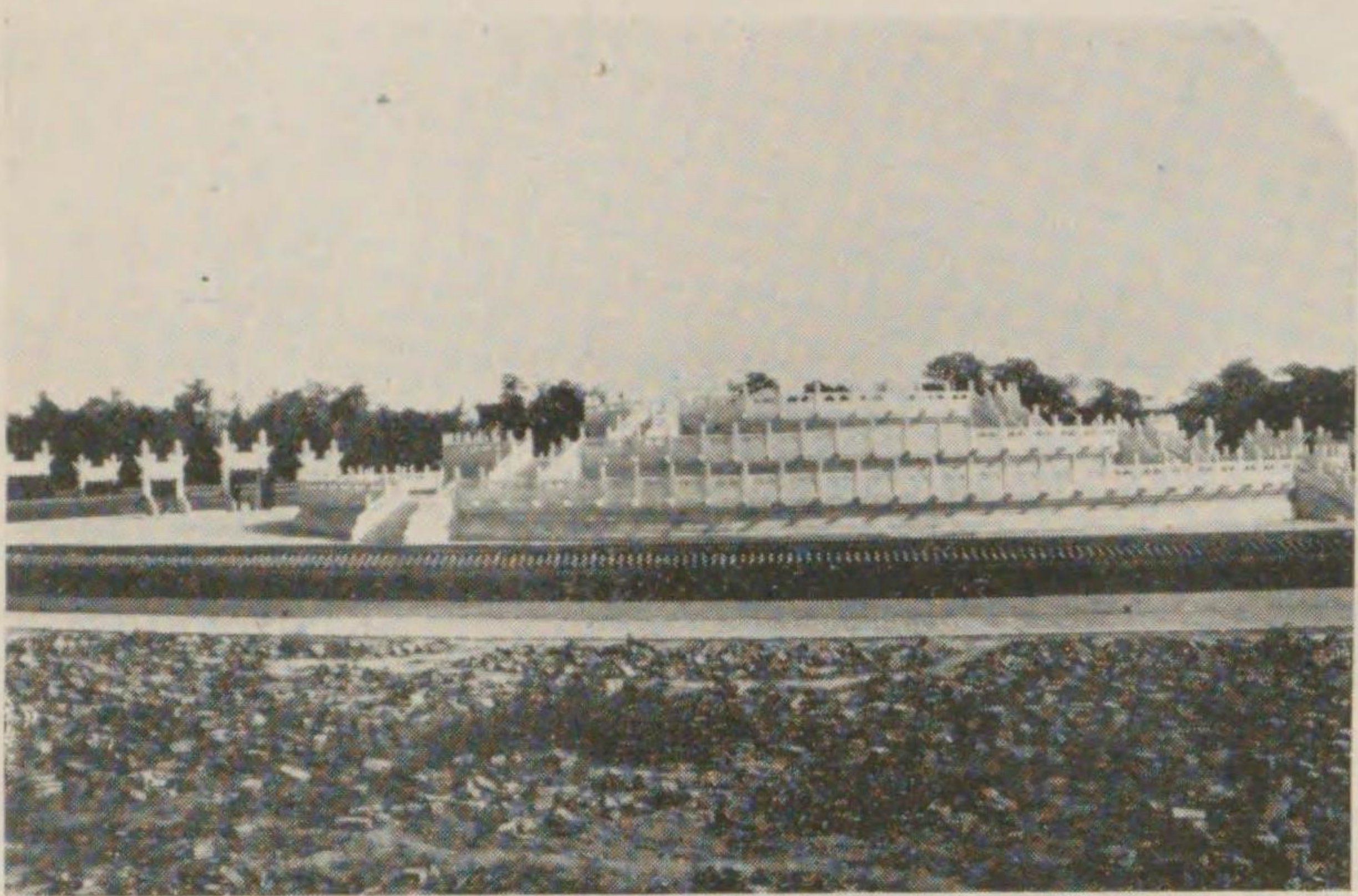
陸路支那に向ふと滿支を境する山海關で支那大陸への第一歩を印することとなるし、海路によれば濁つた黄海の水で大陸の接近が分る。散在する土の家、河岸に並ぶ楊柳、大陸の風景が車窓に、舷側に展けて行く。事變以來日に日に新しくなる北支の姿、北支に入るに先立つてその概念を把握して置かう。

○

中華民國臨時政府 蘆溝橋事件發生後北支の日本軍占領地域内に於ける民衆の要望により、

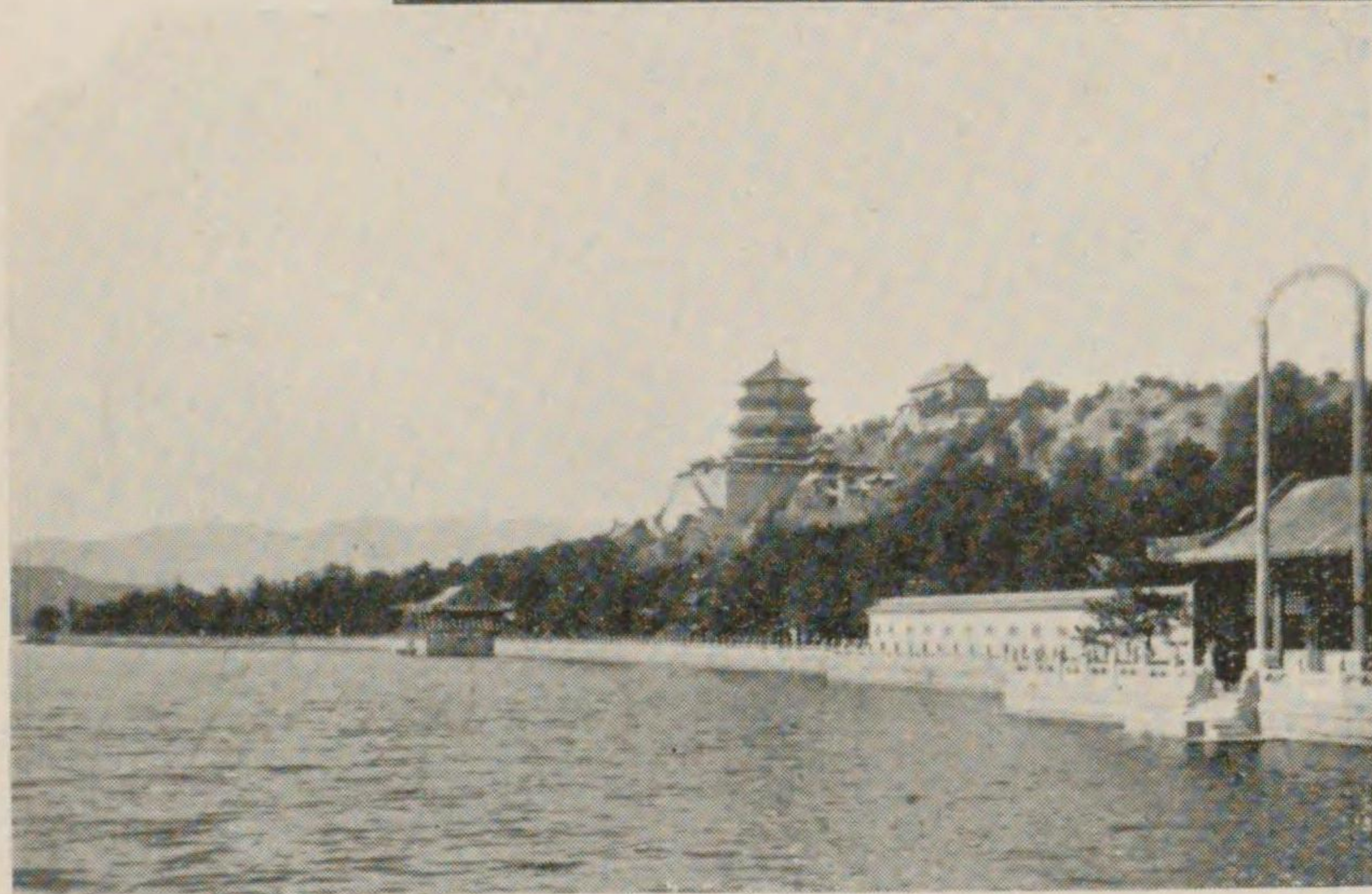
▼北京▲

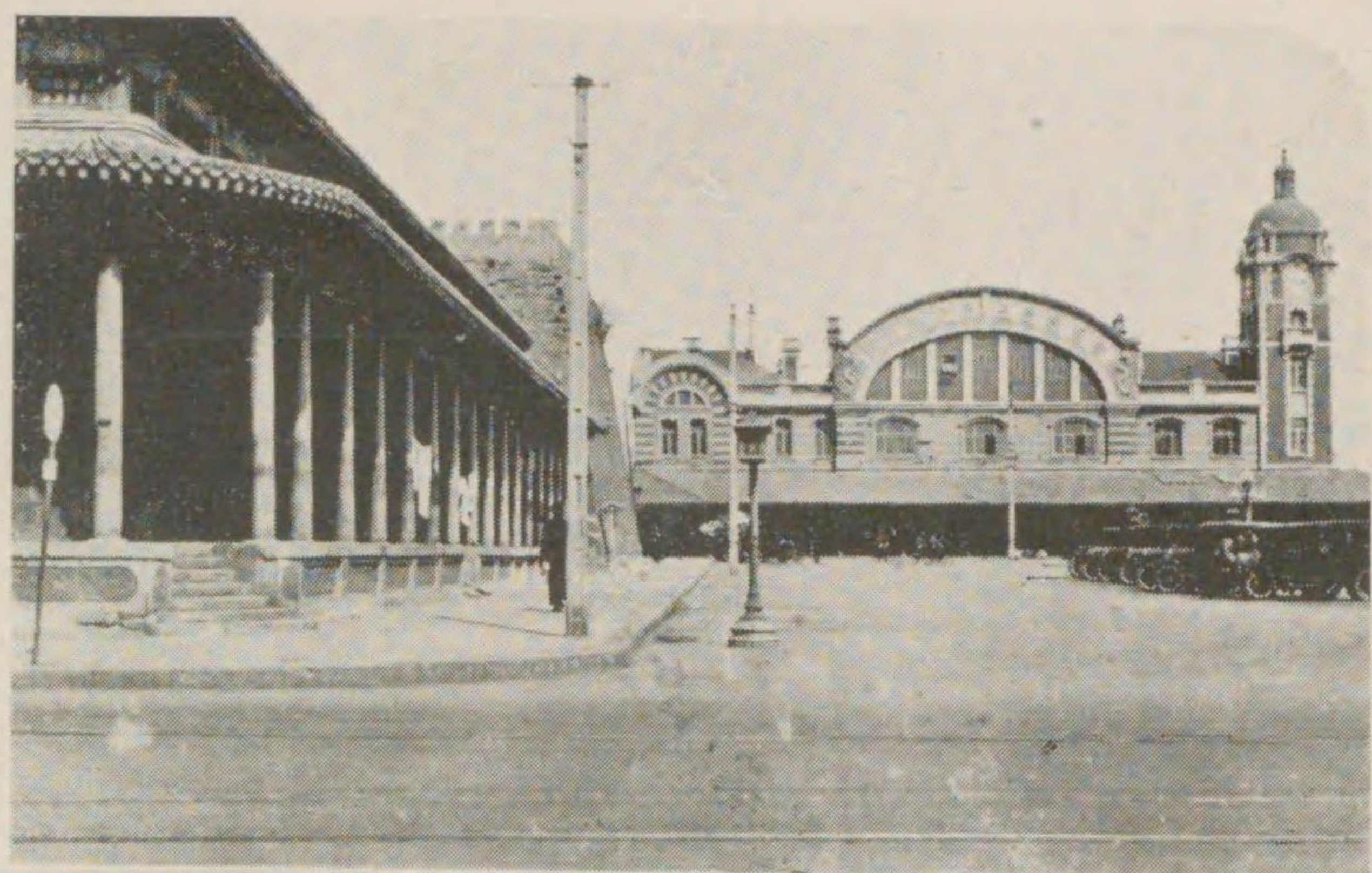
天壇



天壇祈年殿

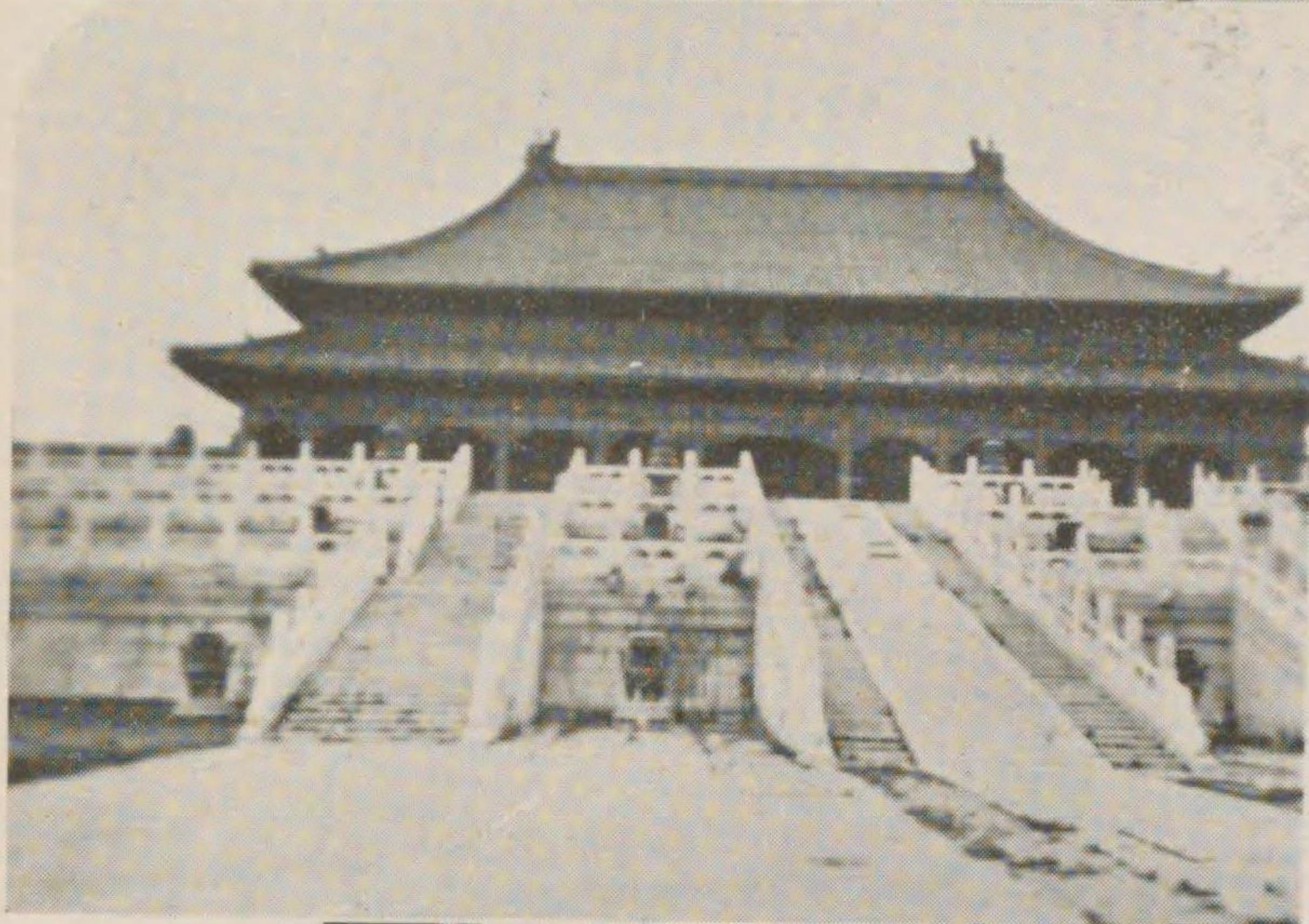
萬壽山





東停車場

▼北京▲



太和殿(紫禁城)



前門大街

昭和十二年十二月十四日、即ち國民政府の首都南京陥落の翌日を以て、更生支那の中央政府として中華民國臨時政府が北京居仁堂に成立し、從來の青天白日旗に代る五色旗は河北、山東、山西の三省、八千萬民衆、四十萬八千軒の廣汎なる地域に翻へるに至つた。

政府組織の根本方針は議政、行政、司法の三權分立で、國民黨一黨政治の排斥、共產主義の排撃、友邦との敦睦、産業の開発と民生の向上、人材の採用等を政綱とし明朗北支の建設に邁進することゝなつた。

又新政府の經濟政策は日滿支ブロック經濟の完成にあつて、從來南京政府によつて阻まれてゐたこの三國間の經濟提携は茲に洋々たる希望を以て生れ出たのである。同政府成立後間もなく實施した關稅改正と海關接收はその顯著な成果であつて、今後未開發の儘放置されてゐた豊富な天然資源は我が國及び土着資本との合辦によつて積極的に開發されるであらうし、更に鐵道、港灣、通信機關等の整備改善によつて之等の開發は益々促進されることゝなつた。

○ 海關接收と關稅改正

昭和十二年十二月十六日行政委員長王克敏氏は事變發生以來事實上天

津治安維持會及び冀東政府の監督下にあつた天津、秦皇島兩海關が欣然新政權の指揮監督下に服することゝなつた旨發表し、兩海關の接收を完了した。この兩海關接收によつてさしも問題となつてゐた冀東特殊貿易は完全に消滅し日滿兩國と北支との經濟提携は促進強化されたが、その後青島海關の接收も終り、北支の各海關は全部新政府の下に置かれることになつたので、先づ第一次關稅率の改正が一月二十日を期して實施された。

そしてこの改正は民生向上、資源開發を主眼とし輸出稅十六種、輸入稅六十種目に互る全面的な減免を行ひ、特に主要民食たる小麥粉の免稅、機械類及び栽培種子等の免稅等新政府の革新政策が現れて注目を牽いた。

一方中支方面に於ても昭和十三年三月二十八日中華民國維新政府の誕生を見、五月二日には上海海關の接收にも成功したので、茲に兩政府は關係列國との關係に鑑み、兩政府に於て統一あり且時勢に適應した新關稅を實施すべき必要に迫られたため、兩政府當局間に折衝の結果現行關稅率の根本的改變を行ひ六月一日より實施した。

この第二次關稅改正は荒廢地の復興、民衆救濟の外に産業振興の爲めと云ふ差迫つた必要に

出た爲めであるが、これによつて一名排日關稅と迄云はれてゐた關稅率は略々一九三一年の國定稅率に復歸し、正常貿易の保護及び確保が實現したのである。實に海關の接收と關稅率の改正は新政權に最も確實なる財源を招來せるものとして注目すべきものがあつた。

○

産業と資源 北支資源開發の指導原理は東亞新情勢に即應した日滿支經濟ブロックの完成にあると云はれてゐる。従つて開發の方向もこの目標に向ふて行くことは當然で必要な資材を最も適した場所から求めることになる。北支の資源は先づ石炭を第一とし、棉花、鹽、羊毛、鐵等の順序となる。

北支の鑛業と云へば先づ石炭である。北支に於ける埋藏量は概算二千百七十億噸で、内地の百七十億噸の十三倍、山西一省のみでも千二百七十億噸と云ふ豊富さである。事變前北支年産千四百萬噸の中年額百萬噸以上を産出するものは河北の開灤(英系)、山東の魯大(日系)、中興(支系)の三社、十萬噸以上は六河溝、中福(河南省)、悅昇、博東(山東省)、井陘、正豊、門頭溝、怡立(河北省)、保晋、晋北鑛務局(山西省)等に過ぎず、その他は土法によつて極めて少額の

産出を見るのみであつた。目下輸送路の研究、採掘技術の改良等専らその増産が計られてゐるが、大體の開發計劃によれば昭和十七年度に於て採炭量三千萬噸（うち對日輸出千萬噸）、二十二年度に於て五千七百萬噸（同三千萬噸）と豫定されてゐる。石炭に次いで鐵の二億噸であるがこれは蒙疆の項に於て述べることにする。

農業に於ては棉花を第一位に麥類、高粱、玉蜀黍、煙草、落花生、甘藷等であるが、特に棉花が日滿支經濟に多大の關係を有してゐる。事變前の一九三三年より一九三六年に至る四ヶ年の平均年産額は五百十六萬擔であるが、目下華北棉花改進會を中心として八ヶ年増産計劃が立案されて居り、作付面積の擴張と栽培法の改良によつて八ヶ年後には年産一千萬擔を得んとしてゐる。蓋しこの計劃實現の曉は我が國需要の大部分は北支により供給されることとなるのである。

鹽業も亦北支主要産業の一つである。雨量が少く乾燥地であること、無限の平野を有する北支に製鹽業の興るも當然で、塘沽、秦皇島を中心とする長蘆鹽、渤海、黄海兩海に跨る山東鹽等はその主なるもので、蒙疆には岩鹽、湖鹽もあるが工業資源としては問題にならない。北支

鹽業の現有能力は山東鹽五百萬擔、長蘆鹽四百萬擔であるが、これは主として蔣政權の抑壓政策の爲めで、一九三三年の如きは山東鹽九百萬擔、長蘆鹽六百萬擔の産額を示してゐるので、今後の増産は容易であらうとされてゐる。北支鹽の對日輸出は本年度四十萬噸、明年度五十萬噸、鹽田擴張の實現する昭和十九年度には九十萬噸の輸出を豫定してゐる。

工業は輕工業で河北、山東兩省に比較的よく發達してゐるが規模小さく技術もまた幼稚である。主なるものは紡績工業、製粉業、窯業等で、河北、山東兩省の主要製造工業は日本の投資が多く、特に天津を中心とする紡績工業に於ける邦人紡の勢力は斷然他の追従を許さぬものがある。

山 海 關

陸路支那大陸に向へば先づ山海關でその第一步を支那の領域に踏み込む。滿支國境の要地で、古來漢民族と朔外民族との堪えざる争鬪の巷となつたところである。坐ろ旅人をして東西千古の祕史に興味を催さしめるが、今は有名な萬里の長城の起點として知られてゐる。此の長城は今より千三百年前、隋の煬帝が築いたもので明の蕭顯の筆になる「天下第一關」の扁額が掲げ

られてあり、興亡幾星霜老大國の歴史を秘めてゐる。長城を見やうと思へば先づ此處で一泊するのが適當であらう。

人口四萬餘、既に二千人餘の邦人が活動を續けてゐる。

旅館 東洋本館、大和館、オリエンタルホテル等（五圓乃至十圓）

塘沽

水路大陸に渡航の際天津迄の溯行不能の場合は此處から鐵道によらねばならない。この場合汽船は太沽沖合八哩の所謂太沽バーに投錨するので、それからランチで塘沽に聯絡する。

市街は白河の水岸に沿ひ河口から約八軒、天津、北京の咽喉に位し水陸兩運の接續點である。棧橋に面して塘沽驛あり船車連絡便利である。

旅館 塘沽ホテル、富士屋（二圓—三圓）

天津

北京を日本の京都とすれば天津は將に大阪に當るとも云へやう。八千萬の人口を擁する北支

五省の門戸として或は北支第一の大貿易港として、交通の中心地として、實に北支要衝の地である。人口百二十五萬、各國租界に在住する英國人、佛蘭西人、伊太利人、白系露人等は合計五千人餘、邦人は事變以來急激に増加して四萬人に達せんとしてゐる。支那と租界も興味ある問題であるがこれは上海の項で述べることにする。

○ 天津は一八六〇年の北京條約によつて開港された北支那第一の貿易港であつて青島、威海衛、龍口、秦皇島の北支諸港を遙に凌いでゐるが、港としては天恵に乏しい白河々岸の河港に過ぎない。この天津の生命とも云ふべき白河は源を長城に發し天津を経て太沽口で渤海に注ぐ全長八十哩、北支唯一の海航船舶の航行出来る河川であるが主要部分はその下流三十五哩間である。河中は河口で約三百米、天津附近で二百米にも足りないので、満潮を利用して天津迄遡航し得る船舶も一千數百屯位に限られ、それ以上の船舶は河口の塘沽や太沽バーに繋船して後は北寧線又は小蒸汽船によつて天津と連絡すると云ふ不便がある。しかも黄土による河底の泥塞が甚だしく天津港の死活問題として、この浚渫が問題となつてゐる。



天津の貿易額は事變の爲め變調を示してゐるが中支の上海に對し北支第一の貿易港として活躍しつゝある點には毫も變りがない。昭和十三年度の貿易額は輸入二億三千萬元で全支の二六%、輸出は一億七千萬元で全支の二三%を占めてゐる。主なるものは輸出では棉花、獸皮、羊毛、加工卵、カーペット類、輸入では鐵及鋼、綿布、綿製品、羊毛製品、小麦、麥粉等である。

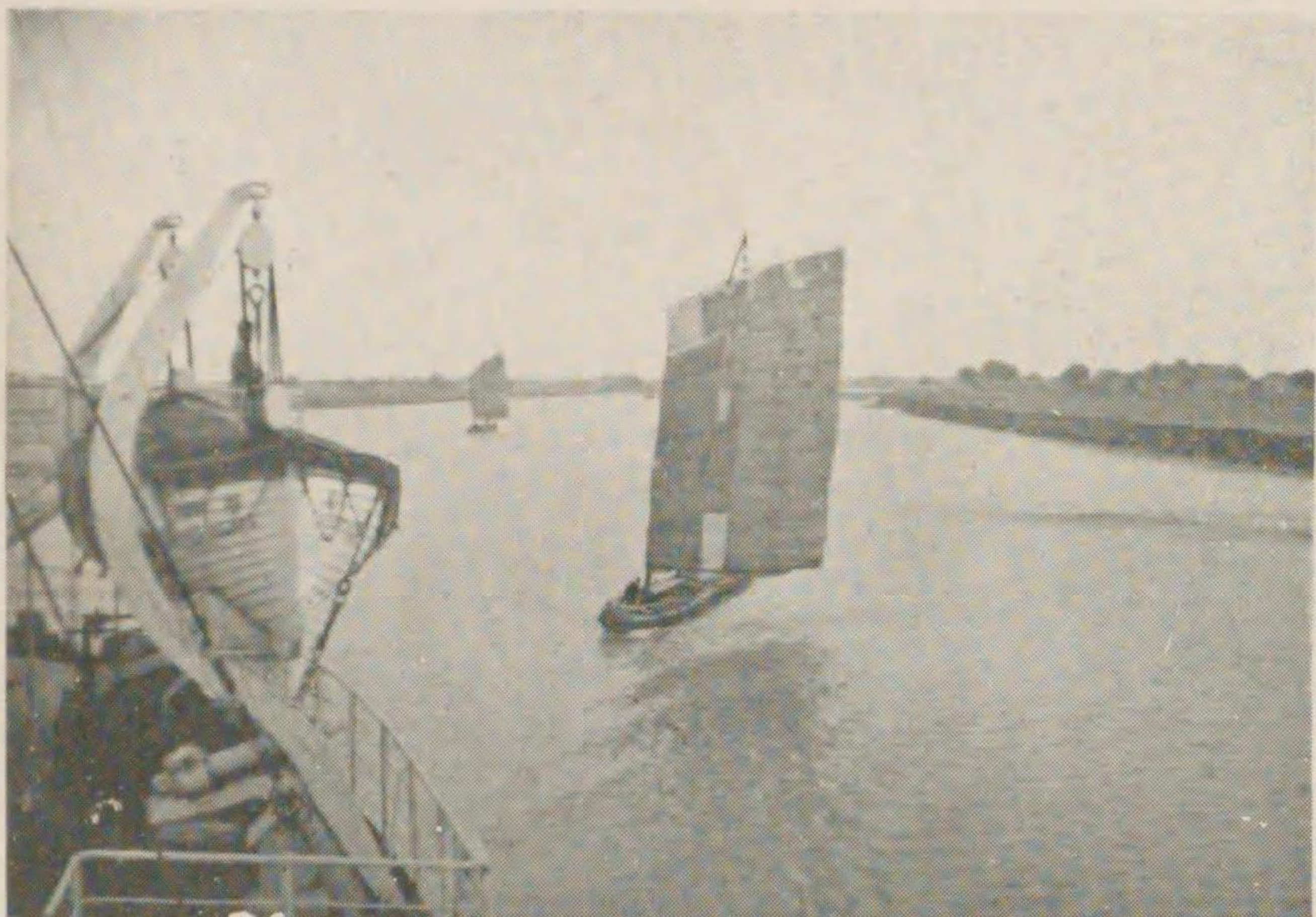
○ 天津を中心とする工業は纖維工業を初めとして曹達、燐寸、セメント、硝子、製粉、飲料、煙草の諸工業、或は簡単な機械器具、金屬製品等で重工業は未だに興つてゐない。

○ 事變前急激な發展を遂げた天津邦人紡は二十二萬錘に達し、事變による被害も殆んど皆無に近かつたので既に全部操業を見てゐるのみならず、事變後の新規許可分を加へて總操業錘数は三十二萬錘に達する盛況を呈してゐる。公大、裕豊、天津、華新その他十指を屈する諸工場の活躍は日支經濟提携の華々しき門出として謳歌されてよからう。

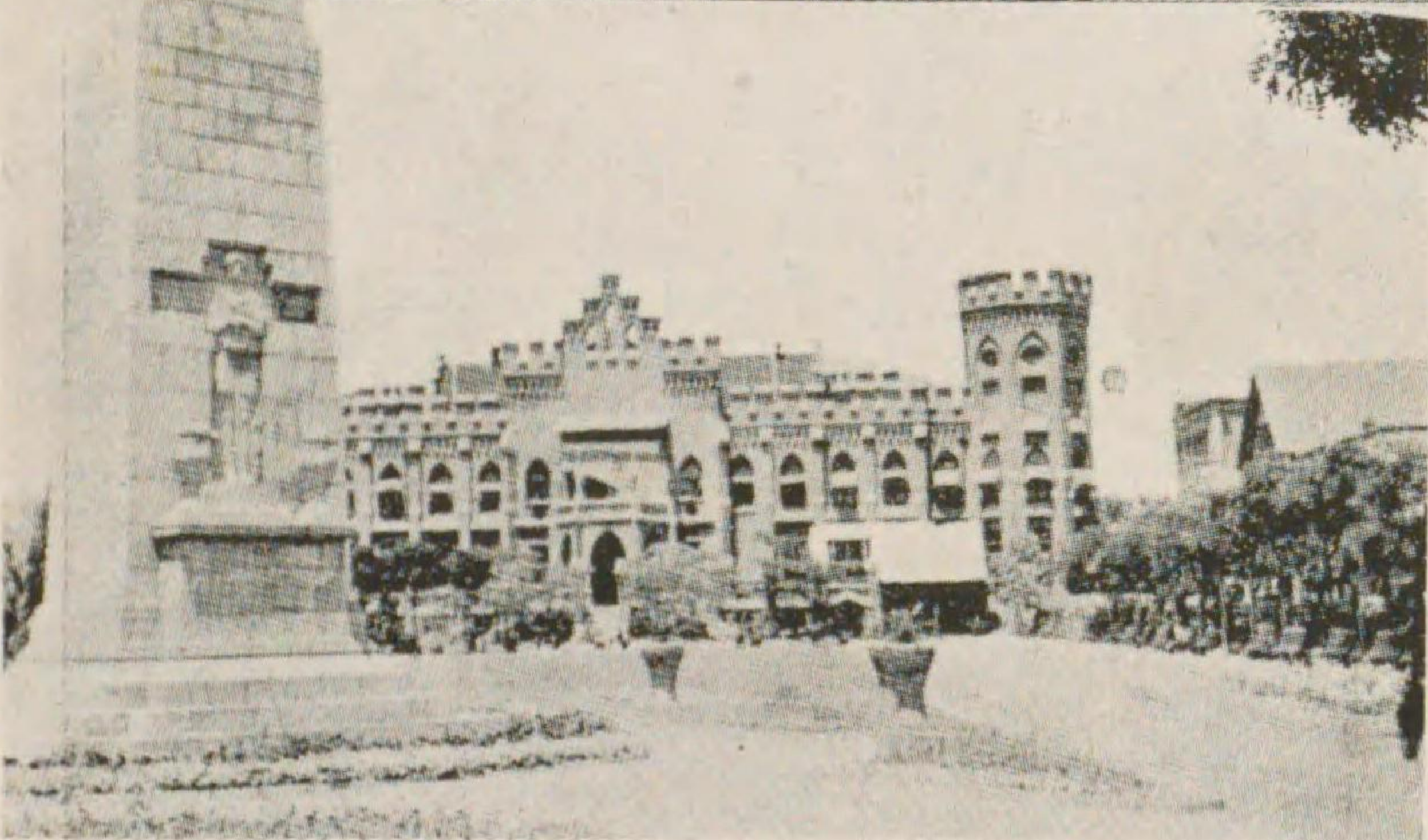
○ 天津の視察コースとしては次の様なものがある。

▼ 天 津 ▲

白 河

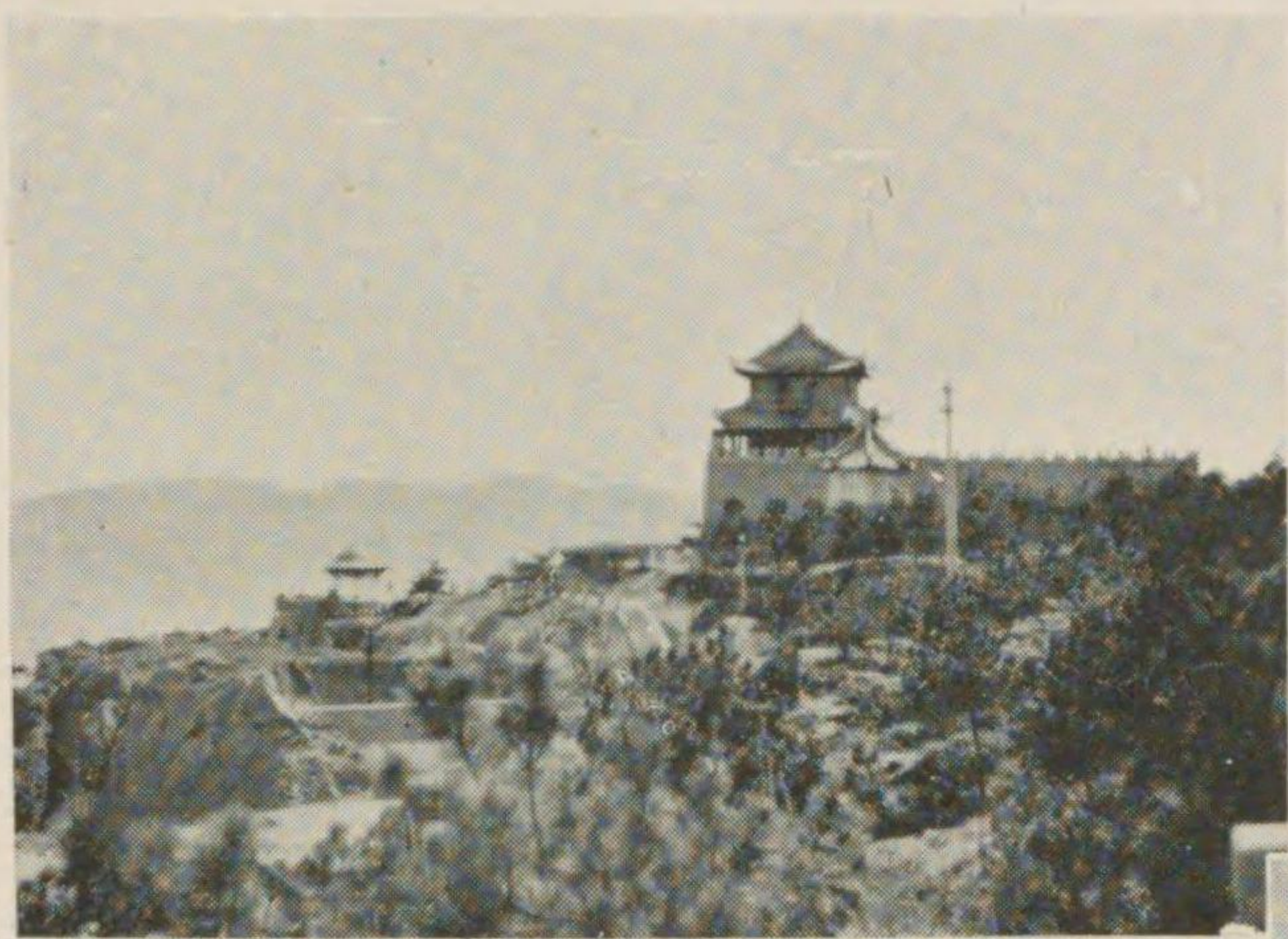


日本租界旭街

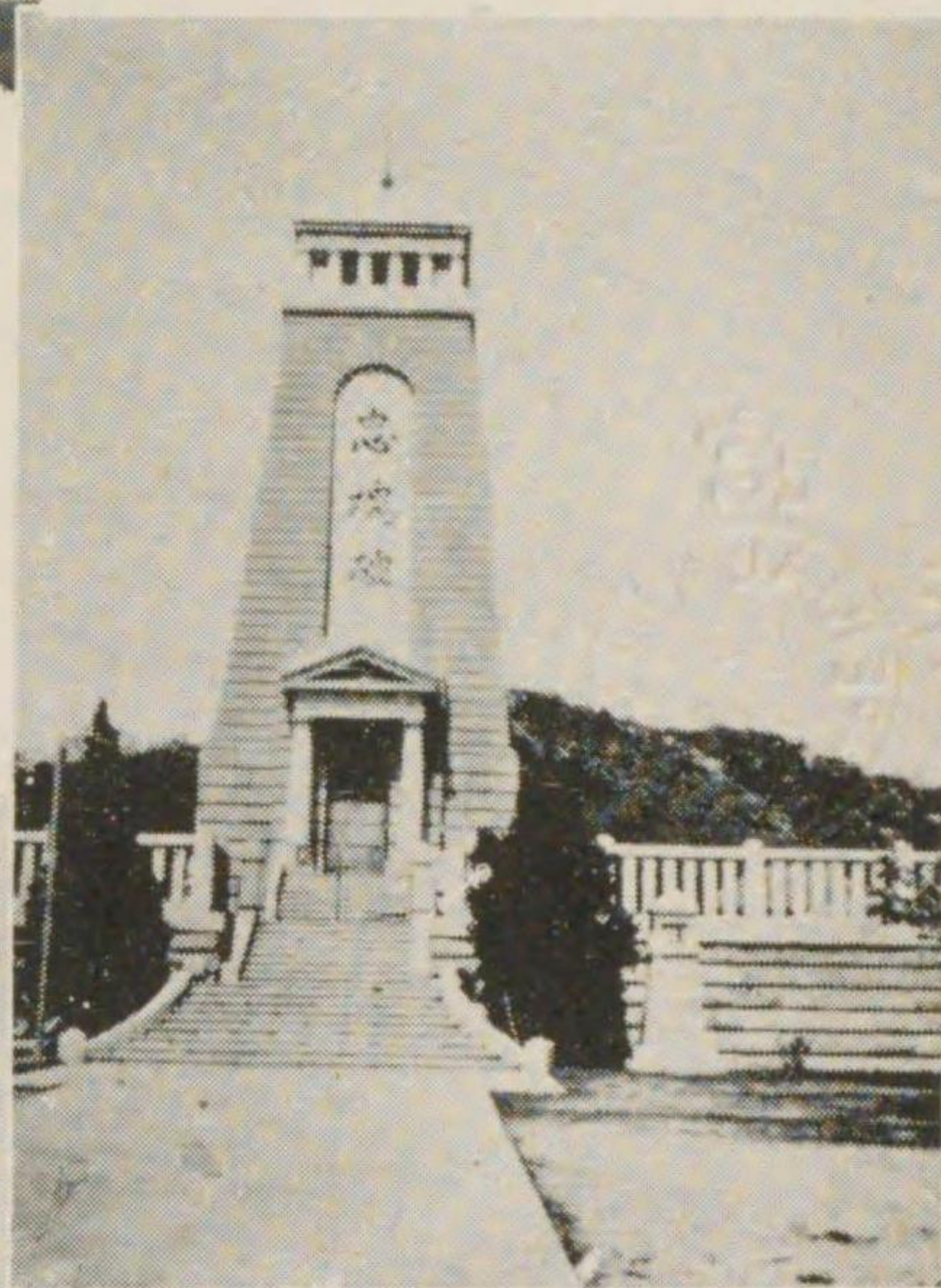


英租界ヴィクトリア公園

▼青島▲
と
▼濟南▲



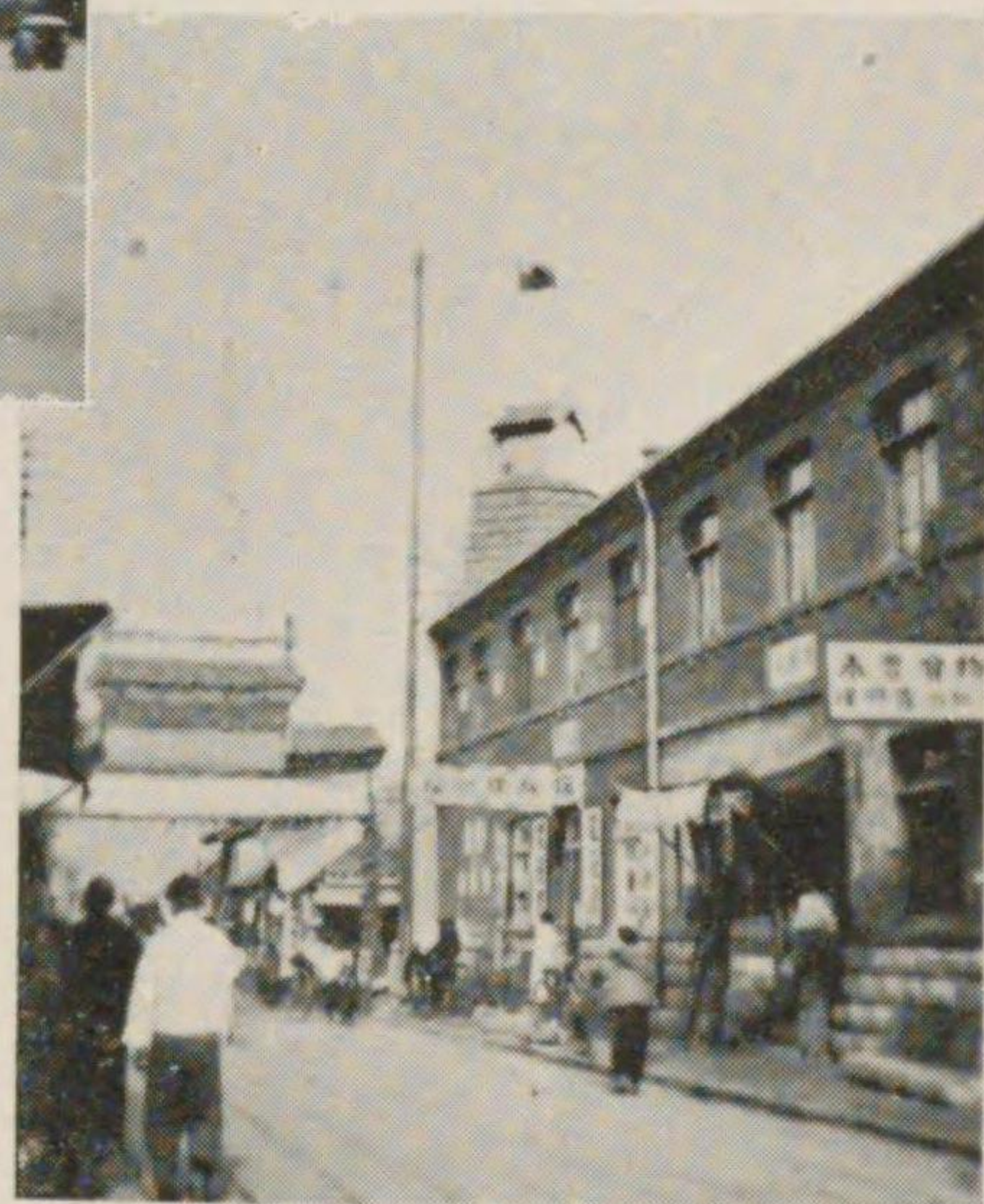
青島の風景



青島忠靈塔



濟南停車場



濟南市街

天津神社—日本總領事館—舊市政府跡—李公司—中山公園—估衣街—鼓樓—特別第二區—伊租界—
萬國橋—佛租界—英租界—日租界。

大和公園は邦人の遊歩地、園内に天津神社鎮座し、李公司は李鴻章を祀つてあるが今は荒廢にまかせてある。北清事變の戦歿將士碑は英租界の共同墓地内にあり、團匪事變に戦死せる我が將士を始め聯合各國將士を合祀してゐる。

ハイアライは伊太利租界にあり豪壯な建物の中にスペイン競技ハイアライが毎夜催され、その近傍の射的場と共に一攫千金の夢遊病者で賑つてゐるが、時局柄今は本邦人が之に近づくことを禁止されてゐる。

邦人旅館は事變前僅に六、七軒に過ぎなかつたが現在既に五十軒餘にも及んでゐる。

旅館—大和ホテル(五圓五十錢以上十五圓)、芙蓉別館(七圓—十五圓)、常盤ホテル(七圓—十五圓)、平安ホテル(九圓—十七圓)、芙蓉ホテル(四圓—十二圓)、曉ホテル(三圓—八圓)、松島館(五圓—八圓)

北 京

天津の西北百三十九軒、汽車で三時間行程の所にある。一千餘年前滿蒙地方に興つた遼がこ

都市とところどころ

の地に都を築いて以來引續き金、元、明、清の王朝が宮居した帝都で、一時國民政府の南京遷都によつて首都としての地位を失つたが、支那事變を楔機として中華民國臨時政府の所在地となり、再び支那の政治的中心地として返り咲いた。康熙、乾隆の燦然たる東洋文化の黄金時代を偲ぶに相應しい紫禁城は、幾多の内亂によつて荒廢した場所も少くはないが、老大帝國の首都としての偉觀、世界的觀光都市の面影はその一物一草に滲み出てゐる。

北京の總面積は約七百九十九平方料で丁度東京市位、人口約百五十萬人と云はれる。市街は内城と外城とより成り、内城は主として官衙、住宅街、外城は商業區となつてゐる。内城の南側の一角に東交民巷と稱する特殊區域がある。日、英、米、佛、伊、獨、白、蘭、西等の各國大使館の所在地で一種の共同租界の様なもので支那人の居住は禁止されてゐる。

○
北京は街全體が一國の名所舊蹟である。悠悠自適の見物でもしやうと思へば際限がないが大體左の様なコースが普通に選ばれてゐる。

一日で觀光の場合 景山—宮城—萬壽山—天壇

二日で觀光の場合

第一日 景山—故舊博物館—萬壽山—玉泉山

第二日 宮城—正陽門大街—天壇—北海公園—孔子廟—喇嘛廟—中央公園

一日では無理であるが二日の場合は支那事變の發端地蘆溝橋をも訪ねたいものである。

紫禁城は五百餘年以前の建築でその後明清兩朝によつて幾度か補修され、今尙黄色の屋根瓦をいただいた諸宮殿に在りし日の榮華の面影を残してゐる。城は略々南北の二部分に分れ南半は天子の朝儀に當てられた諸大殿、北半は帝后の起居された内廷の諸宮殿になつてゐる。百聞一見に如かず、豪華な大理石の基壇の上に建てられ、釉藥のかかつた黄や緑や紫色の蔓、丹精凝らした斗拱等、誠に絢爛目を奪ふものがあるが、主なき内廷の雜草に一脈の哀愁をそゝられるのも旅なればである。「國破レテ山河アリ。城春ニシテ草木深シ」感慨無量なるものがあらう。

外城には天子が祭天の儀を執行した天壇や、天神地祇を親祭した先農壇等を初め寺院、陵墓園圍等が在る。

萬壽山は北京の西郊にあり清朝の離宮として名高い。元、明の時代から景勝地として知られてゐたが、清の後年西太后が巨費を投じて大改修を加へ面目を一新した。

玉泉山は萬壽山の西方約三軒にある清の離宮址で、山紫水明、萬壽山と景勝を争ふ土地である。

蘆溝橋は昭和十二年七月七日暴戾なる支那軍の皇軍に對する不意の發砲により今次の大事變の發端をなしたところ、橋は永定河に架せられた長さ二百七十米、幅約七米の大理石造り、橋畔に「蘆溝曉月」の乾隆帝御筆の碑がある。近くの砂丘一文字山に登れば近く龍王山を臨み皇軍奮戦の跡を偲ぶことが出来る。北京より自動車によれば短時間で行ける。

以上の外北京附近には南口(明の十三陵)、八達嶺(萬里の長城)、通州等見るべき場所が多い。何れも一日行程を要する。

觀光都市北京に就いて語れば盡きるところがないが、この地が中華民國臨時政府の所在地として或は中國聯合準備銀行の所在地として、従来の觀光的地位から一躍新興支那の政治、金融の中心地として躍り出たことを見逃してはならぬ。

北京には既に事變前に比して約十倍増と云はれる三萬五千の邦人が進出してゐる。天津と同様水商賣が多く、旅館、下宿等も相當ある。城内は廣いので天津程の住宅難は訴へられてゐない。

旅館 扶桑館(五圓—十五圓)、都ホテル(八圓—四圓)、日華ホテル(八圓—五圓)、大和ホテル(八圓—四圓)、東京ホテル(六圓—五圓)、燕京ホテル(九圓—五圓)

濟 南

時に數百萬の罹災者を出す黄河の濁流も、これが支那五千年文化の母胎であることを思へば誠に皮肉な感に打たれる。天津から津浦線により南下し黄河を渡れば程なく濟南に達する。黄河の氾濫によつて運ばれた肥沃な黄土地帯の中心地で人口約四十四萬人、邦人は既に七千人に達し、北支に於ては北京、天津に次ぐ大都會である。現に山東省の省城で、青島に通ずる膠濟鐵道と、南京の對岸浦口に至る津浦線との接合點であるばかりでなく、黄河水運の要地として交通經濟の中心地である。濟南の位置は天津へ三五七軒、青島へ四一二軒の地點にあるが、青島の良港を控へてゐる關係上、濟南に集散する特産物の大部分は青島から輸出される。例年青島の貿易額の二分の一は濟南を経由する物資と見てよい。

輸出品の主なるものは落花生、落花生油、棉花、生牛、牛皮、羊毛、豚毛、麻、大麻、果實類、輸入品は主として綿糸布、煙草、砂糖、石油、紙、燐寸、海産物、人絹等である。

工業としては製粉、紡績、燐寸等があるが未だ規模も貧弱である。併し乍ら背後に豊富なる資源を擁し、低廉豊富な労働力を持つ濟南は水陸交通の至便と相俟つて多分に大工業の勃興する可能性を持つてゐる。

少々距離があるが津浦線を南下すると泰山と曲阜とがある。泰山は支那第一の名山（海拔千八百米）、曲阜は孔子の廟で知られてゐる。

旅館Ⅱ大和ホテル（五圓—七圓）

青 島

青島が天津に次ぐ北支の大貿易港であることは今更述べる迄もないが、天津が不便なる河港であるのに反して青島は天恵の良港で優に一萬噸級の繋船が可能である。

事變下の青島の貿易は昭和十二年輸出五千八百萬元、輸入四千九百萬元、昭和十三年輸出三千一百萬元、輸入四千六百萬元である。主なる輸出品は落花生、落花生油、葉煙草、加工卵、

獸皮、綿糸等、輸入品は石油、木材、鐵礦、機械工具等で、特に青島貿易の大部分が日本によつて占められてゐることは愉快的現象である。

事變前青島に於ける邦人紡の活況は誠に華々しかった。即ち原料棉花と石炭が背後地に豊富であること、労働力が低廉であること、海陸の輸送が至便である等の爲め斯業は異常な發達を示し、内外棉、大日本紡、長崎紡、富士瓦斯紡、上海製絹糸、日清紡績、上海紡織、豊田紡織等の八社が、資本約五千萬圓を投じ年産綿糸三十萬梱、綿布四百萬反を生産しつゝあつたのであるが、今回の事變によつて邦人紡工場は完膚なき迄に破壊された。然し乍ら一旦根を下した邦人紡は目下復興を急ぎ既に二十萬錘の操業を見つゝあるので、舊日の盛觀に歸る日もさして遠いことではなからう。

人口は事變前租借地全體で四十八萬餘、この中邦人は約一萬三千人内外であつたが、現在邦人數は將に二萬人にも達せんとしてゐる。

旅館Ⅱ大和ホテル（五圓—十圓）、グランドホテル（七圓—十三圓）、大和ホテル別館（五圓—八圓）、

東洋ホテル（三圓—八圓）、中央ホテル（四圓—七圓）、松茂里旅館（四圓—六圓）

保定

北京から京漢線を南下すること約百四十軒にして河北省政府の所在地保定に達する。京漢鐵道沿線中北京、天津に次ぐ河北省第三の都會で人口約二十五萬、商業都市として知られてゐる。同地が陥落したのは昭和十二年九月二十四日で在留邦人の當地進出も一時旺んであつたが、今では更に一步南下した石家莊に街の繁榮が移らうとしてゐる。在留邦人約一千人である。因みに事變前此處には二十九軍が駐屯し、有名な軍官學校があつた。

石家莊

保定より京漢線を更に南下すること百三十軒にして石家莊である。北京を朝出ると夕刻に街に着く。保定に次ぐ都市で人口約五萬、昭和十二年十月十日皇軍入城以來、交通、軍事の要衝として街は保定を凌ぐ活況を呈し、邦人は五千五百人餘に達し、日本人小學校も開校した。

當地を起點とし山西省太原に至る正太鐵道は山西炭輸送を主眼とした狹軌鐵道で、本線二百四十三軒、支線五十九軒である。物資の集散は正太線井陘の石炭を初めとし、河北平野の豊富なる棉花等である。

旅館 松菊旅館(三圓—十圓)

太原

太原は正太鐵道の終點、石家莊から約二百四十軒、汽車で十二、三時間、山西省政府の所在地で所謂閻錫山の山西モンロー主義の本據として、政治、産業、財政、教育に特色ある發展を示してゐた。又この地は近年特に抗日赤化の都となり、周圍の自然の要害と相俟つて抗日戰の爲め總ての準備工作が施され、今度の事變に際しても皇軍に向ひ敵ながらも天晴な抗戰を敢てした所であるが、昭和十二年十一月九日太原陥落以來皇軍の宣撫に眼覺めた省民は赤化の桎梏から脱れて新興太原建設の意氣に燃えてゐる。

市街は四里に亘る城壁を以て圍まれ、人口は事變前十三萬、現在八萬、三千餘の邦人が進出して營々として諸事業の復興に従事してゐる。支那奥地稀に見る近代的諸設備、即ち山西大學、兵器廠、火力發電所を初め燐寸、印刷、セメント、皮革、製紙、鐵鋼、紡織、煙草等諸工場の整備は流石閻錫山の施政の片鱗を示すもので、目下諸工場の多くは軍管理の下に着々復舊されつゝあるので、その將來は大に注目しやう。

尙石家莊から太原に入るにはこの正太線による外、同蒲線により大同から雁門關を越えて行く一つの通路がある。後者は昨年末初めて軍の手により全通したもので大同、朔縣間は廣軌、朔縣から寧武、源平鎮を経て太原迄は狹軌で未だ一般營業をしてゐない。大同、太原間には鐵道の外昨年十月からトラックの定期運行が營業され、現在は滿鐵の華北及び蒙疆汽車公司が一週間に一往復の程度で貨客の輸送に當つてゐる。これが爲め事變後専ら正太線のみによつてゐた山西の物資移出入難は蒙疆方面との交通路の恢復に伴つて徐々に緩和されてゐる。

(二) 蒙 疆

北京の南豊台驛から河北の平原地帯を北上して八達嶺を越えると察南に入るが、南口鎮、青龍橋の邊は進撃する皇軍を惱した險阻の處である。そして萬里の長城はこの邊でその完全なる姿を残してゐる。察南から晋北に、更に蒙古地方に入つて包頭に終る京包鐵道は延長八百十六軒、支那に於て支那人の手で建設された最初にして最大の鐵道であるが、事變以來西北支那開發の幹線として益々その重要性を増したばかりでなく、防共第一線として政治的、軍事的に一

段とその存在の意義を深めてゐる。

この鐵道の通過する一圓の地域が所謂蒙疆で、平原、沙丘、放牧、西すれば西する程北支とは異つた風景が展開する。蒙疆方面は事變以來幾多の角度から紹介され相當知られて來たが、旅の常識として一應之等の地方の概念を述べて見やう。

蒙疆新政權 北支事變發生以來蒙疆地方は最も迅速に皇軍の進撃が行はれ、事變發生の年、即ち昭和十二年の十月十七日には既に包頭が皇軍の占領するところとなつてゐた。而も恩威兼ね備はれる皇軍の占領地域には相次いで治安維持會が續々結成され、更に進んで三自治政府の樹立となつた。同年九月四日察哈爾省二百萬民衆の總意によつて察南自治政府が張家口に生れ十月十五日には山西省北部百五十萬民衆の手によつて晋北自治政府が大同に樹立され、更に十月二十八日には綏遠に於て蒙漢兩民族三百萬民衆の熱望によつて蒙古聯盟自治政府樹立の宣言が發せられた。蓋し蒙古聯盟自治政府の誕生こそは忘れ得ない成吉思汗への思慕を抱き永い苦闘を経て來た蒙古民族にとつて實に貴重なる甦生の第一歩であつた。

この三自治政府は成立當初は夫々独自の立場を取つて來たが、東洋平和を指す三政府の指

導精神が、防共、民族協和、民生向上の三點に於て全く合致し、その他産業、經濟、金融に於ても共通する點が尠くないので、昭和十二年十一月二十二日三自治政府代表は張家口に會して一つの委員會を組織した。即ち蒙疆聯合委員會でその傘下六百五十萬民衆は民族的嫉視と鬭争をかなぐり棄て、明朗蒙疆樂土の建設にいそしむこととなつたのである。

○

産業と資源 蒙疆一帯は鑛産、農産、畜産の豊富なる資源に恵まれてゐるが、交通不便、軍閥政治等に禍されて産業の發達は微々として振はない。目下聯合委員會に於て産業開發につき諸般の調査立案が進められてゐるが、大同の石炭、龍煙の鐵鑛、畜産資源の維持改善等着々具體化されてゐるので、遠からず面目を一新するに至るものと思はれる。

鑛産に就いて見ると大同の石炭、龍煙の鐵鑛が二大双璧をなしてゐる。

大同 炭 石炭の埋藏量は大同の百二十億噸、察南、蒙古聯盟自治政府兩者で十億噸位で先づ蒙疆の石炭と云へば大同炭と云はれる。大同炭坑は大同の西南約二十軒の口泉鎮一帯の鑛區で年額約四十萬噸を京津地方へ移出してゐた。豊富なる埋藏量と良好なる炭質と低廉なる採炭費用等經濟的諸條件を備へた北

支蒙疆を通じての屈指の炭坑である。事變以來蒙疆聯合委員會の管理に屬し、目下滿鐵に於て受託經營に當つてゐる。

龍煙鐵鑛 鐵鑛は察哈爾に九千萬噸、綏遠に一千萬噸、合計一億噸内外の埋藏量を有するものと推定されてゐる。龍煙鐵鑛は察哈爾省宣化縣煙筒山が代表的で蒙疆聯合委員會の管理下に置かれ、目下滿鐵に於て受託經營の衝に當つてゐる。交通不便の爲め採掘は尙不充分であるが、現在日産二千噸を算し、北京西郊石景山製鐵所を初め八幡製鐵所への搬出を開始した。鑛質甚だ優良にして品位は赤鐵鑛四〇―六〇%、磁鐵鑛六五%、熔解し易く、我が鐵鋼需要の益々増大されつゝある折柄貢獻するところ大なるものがあらう。

この外鑛産は石棉、アンチモニー、蒙古聯盟の豊富な湖鹽等がある。

農業は漢民族の移住により漸く開拓されつゝある程度で察哈爾の南半、蒙古の五原地方に行はれ、大部分乾地農業、その一割内外が水田である。作物の主なるものは粟、高粱、豆類、小麦、亞麻等に過ぎないが、蒙疆地方には甘草を初め各種藥用植物が多い。

畜産は蒙疆の重要資源の一つで、綏遠、察哈爾兩省の家畜數に就いては羊百六十萬頭、山羊七十七萬頭、牛四十萬頭、騾驢二十一萬頭、馬十八萬頭と云ふ様な數字が擧げられてゐる。従つて獸毛就中羊毛の産額が最も多く昭和七年の京包線經由移出高は二萬五千噸に達してゐる。

蒙疆に於ける羊の飼養は食用が主とされてゐる爲め毛質は粗剛で高級織物には不適當であるが、之に改良を加ふればその前途は洋々たるものがある。

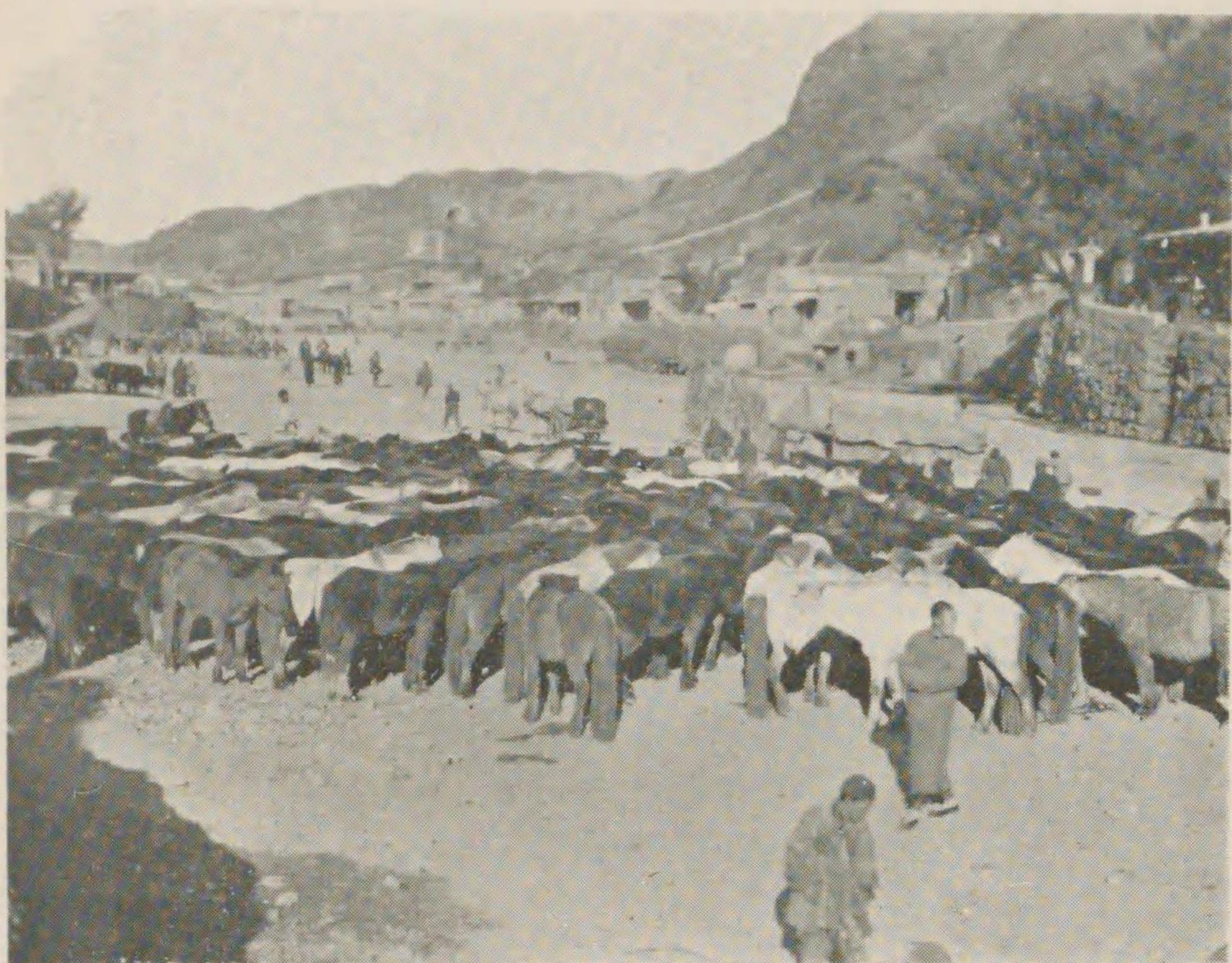
工業は未だ原始的家内工業の域を脱してゐないが、製毡、製革、曹達、鹽等は原料極めて潤澤であるので、之に適當の資本と技術を加へたならば充分發展の可能性が存在する。

張 家 口

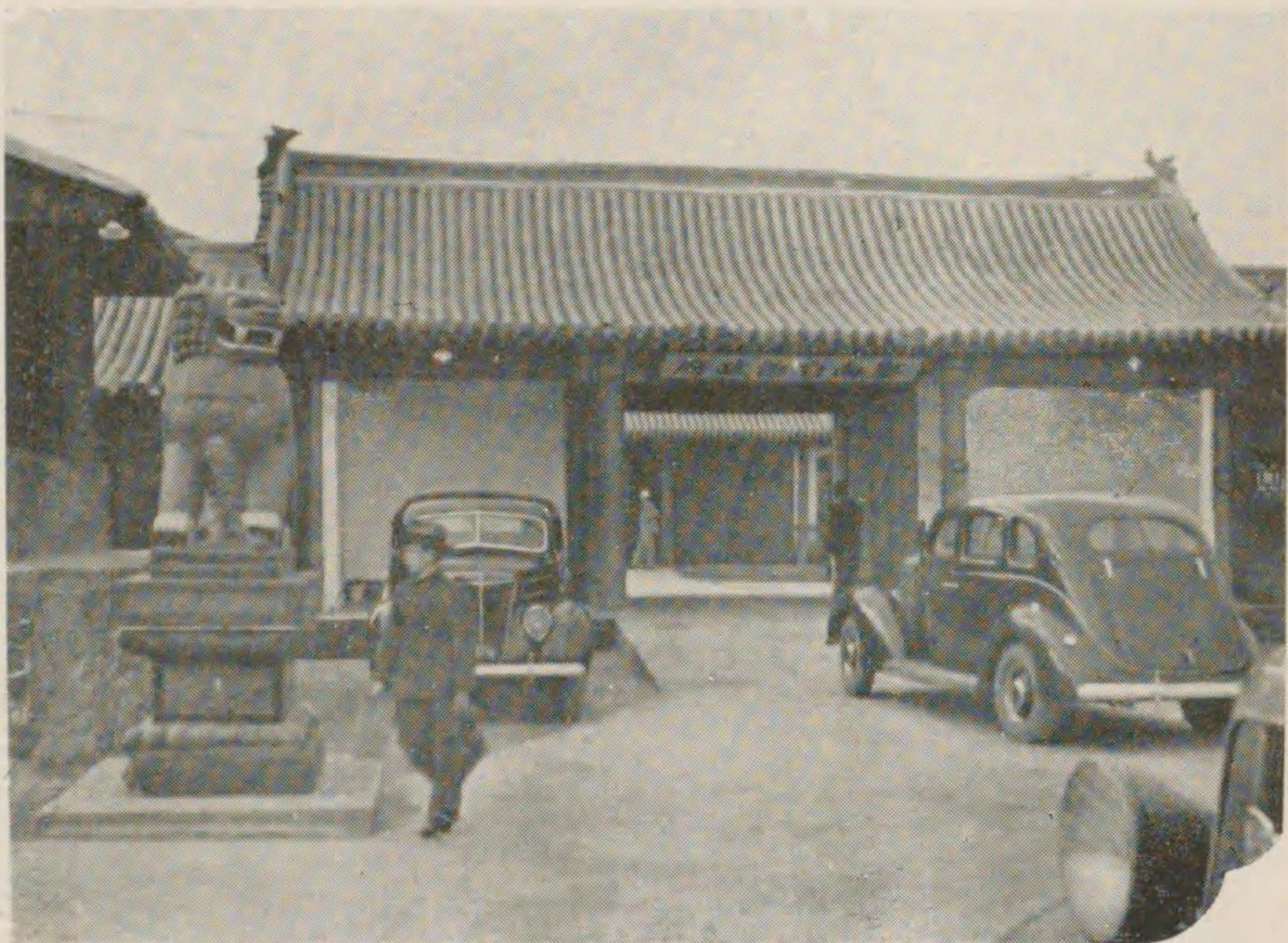
張家口は一名カルガンとも呼ばれて居り、支那本部と内外蒙古を結ぶ軍事、經濟上の要地である。明治三十五年露支條約によつて商埠地として開放され、對蒙古交易の大集散市場となつたが、外蒙獨立以後は商況落調に轉じた。

然し乍ら事變以來察南自治政府、蒙疆聯合委員會、蒙疆銀行の所在地となり、その更生振りは優に往年の盛況を凌駕するものがある。人口約十萬、蒙古人一割、回教徒一割餘、日本人の進出する者五千人に垂んとし更に躍進の趨勢を示してゐる。當地の産業としては小規模ながら天然曹達の精製、製革、製粉、製油、蒙古靴及毛毡の製造が行はれてゐるが、多くは家内工業の域を脱せず未だ見るべきものはない。

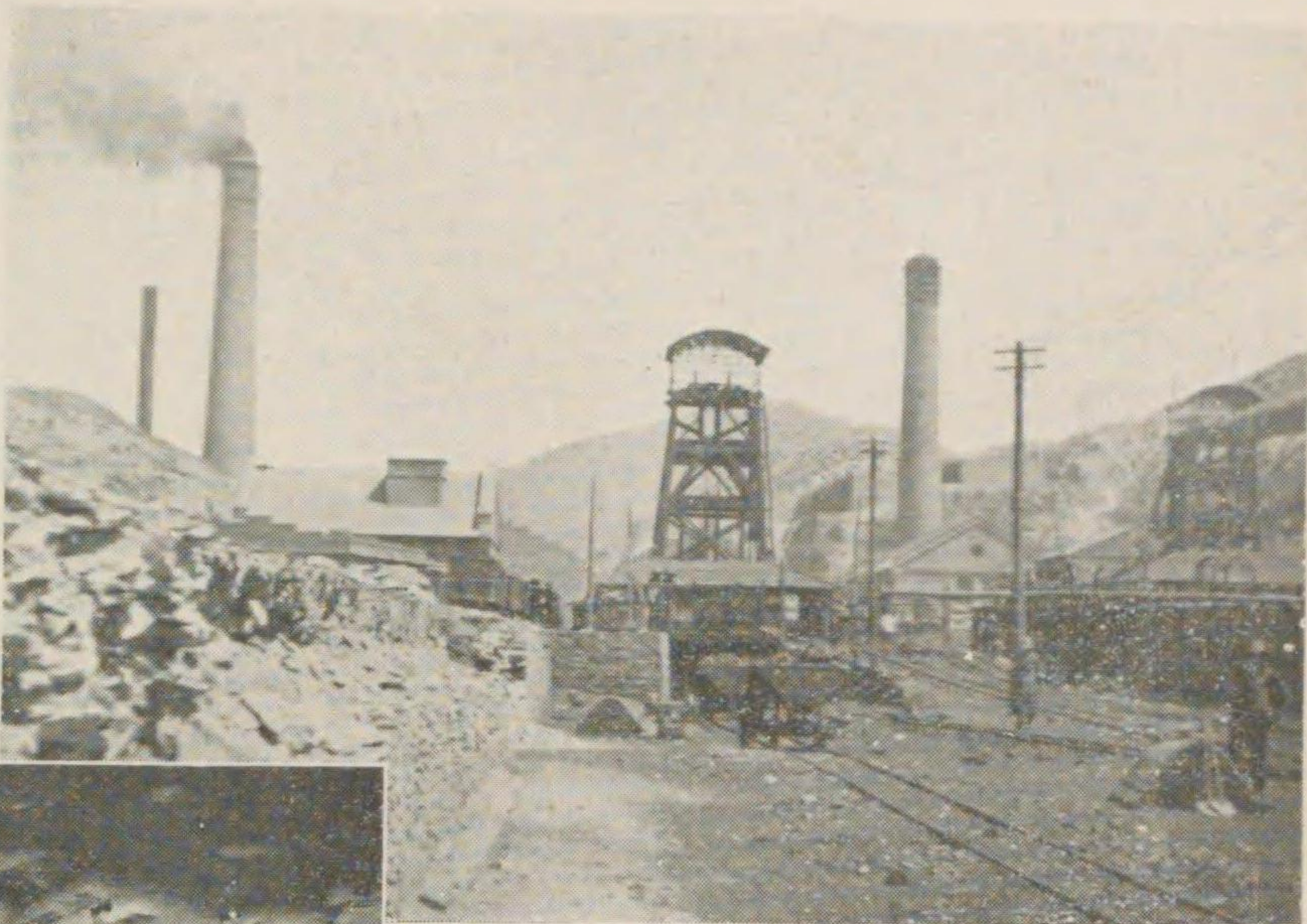
▼ 張 家 口 ▲



馬 市



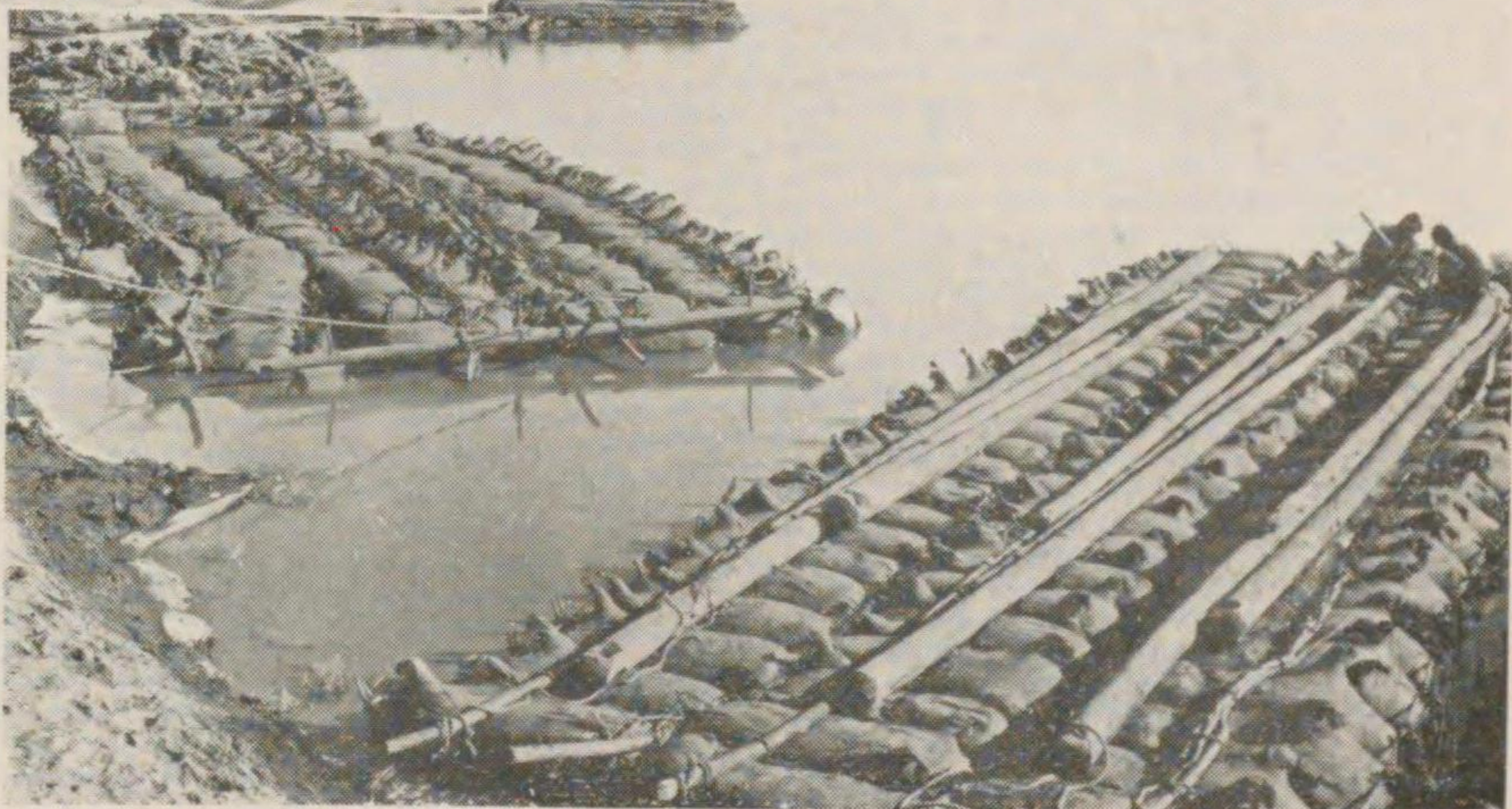
察南自治政府



大同炭坑



大同石佛



包頭の皮筏

▼大同▲
と
▼包頭▲

對蒙古交易の主なるものは、蒙古方面から皮革、獸毛皮、羊毛、駱駝毛、生畜類、天然曹達、鹽、甘草等がこの地に集り、蒙古方面へは綿布、砂糖、煙草、石油、蠟燭、磚茶、蒙古靴、馬具、銅器が仕向けられる。近時外蒙からの駱駝毛、羊毛の入荷なく、その出廻數量は従前に比し激減し昭和十一年張家口驛の駱駝毛、羊毛出荷數量は僅に四千噸に過ぎなかつた。

旅館Ⅱ福榮旅館(三圓—八圓)、察南ホテル(三圓—六圓)

大同

北京から約三百八十軒、汽車で約十四時間で大同に着く。大同盆地の中心地で人口約六萬餘、邦人約二千、太原に次ぐ山西第二の都會として今は新生蒙疆政權の一翼たる晋北自治政府の首都となつてゐる。近くに大同炭の名を以て知られてゐる有数の産炭地を控へ、工業上極めて有利な地位にあるので將來工業都市として有望視されてゐる。現在毛織工場、製粉業、酒精工場等相當の設備を有し、銅器、粗陶器等の産がある。駱駝、羊毛の集散、豆類、亞麻仁、煙草、果物等の移出も尠くない。

この外大同は所謂同蒲線の起點で本線は未だ一般營業を見るに至つてゐないが一部假營業が

行はれて居り、蒙疆汽車公司による大同、太原間のバスが通じてゐる。京包線の支線大同線は大同炭輸送の爲め敷設されたもので延長十九軒餘である。

晋北の政治、經濟、交通の中心地たる大同は近郊の雲崗石佛を以て汎く知られてゐる。

この雲崗の石佛は東西十數町に亘る絶壁の岩石に佛像を彫み込んだもので今を去る千五百年前の作品であると云はれる。その年代の古きこと、多數であること、竝にその一つ一つの彫刻に溢れる藝術的氣品は誠に「世界の奇蹟地」の名に相應しい。大同より貸切りバスの便があり普通三時間で到達出来る。是非一應は歩を運ばせて置くべきであらう。大同炭に就いては既述した通りである。

旅館 晋北ホテル(五圓—十五圓)、山西ホテル(三圓—十圓)

厚 和

大同から更に京包線を進むと汽車で約十時間にして蒙古聯盟自治政府の所在地厚和に入る。當地は正式に厚和豪特と云ひ、綏遠城と歸化城の總稱で約九萬の人口を包擁し、漢人が壓倒的に多く約九割を占め、回教徒一割弱、蒙古人は僅少で、邦人は一千二百名を超えてゐる。

新城即ち綏遠城は蒙古聯盟自治政府を初め主として官廳街として發展し、舊城即ち歸化城は商業地域として繁榮した。近年交易市場として稍不振を傳へられてゐるが、商賣は依然殷盛を極めて居り商業の要地であることを示してゐる。道路網は本市を中心として廣く各方面に展開され事變前各地に自動車の運行を見てゐたが、事變發生以來治安その他の關係からこの運行は大部分杜絶した。

産業としては綏遠電灯公司、製粉工場、綏遠毛織股份有限公司(滿蒙毛織)等二、三近代設備を有するものがあるが、全般的に見て尙低調で、製紙、製革、硝子、卵黃白、醸造等何れも手工業の域を脱してゐない。尙附近は農産物が比較的豊富で殊に小麥が多く京包沿線最大の移出地と云はれてゐる。麥に次いで粟、雜穀が多く、羊毛の集散も相當旺んでゐる。

旅館 歸化城内 綏遠ホテル(五圓)
綏遠城内 厚和ホテル

包 頭

北京の近く豊台に發した京包線は包頭で終る。汽車で一晝夜三時間餘である。砂漠質の土

地、粗生した雑草、如何にも塞外荒涼の感があるが、人口約七萬に達し西北支那要衝の地として占める價値は極めて大きい。この地が皇軍の手に歸したのは事變發生の年の十月十七日以下五百餘の邦人が西北支那進出の第一線に活動してゐる。

此處は京包線の外に街の近郊を流れる黄河によつてその交通は比較的援けられてゐる。上流寧夏との交通は冬は餘りに來往がないが解氷期からは寧夏との間に水運が開け、牛、羊等の皮製の浮袋を連ねた皮筏、羊皮船は當地方の名物である。この水路の外に陝西、甘肅、新疆の諸省や、内外蒙古、伊犁、ウリヤスタイ方面にも駱駝による交通路が開け、その交易額は一千萬元にも及ぶと云はれる。

北京、天津方面への輸出の主なるものは皮毛（年産牛皮十五萬枚、羊皮十萬枚、雜皮三十萬枚、羊毛七百萬斤、駱駝毛二百五十萬斤）、羊腸、雜骨、甘草、雜穀類で、同方面よりの輸入品は綿糸布、海産物、燐寸、石油、茶等である。尙蒙古、新疆、伊犁方面からは湖鹽、乾葡萄、乾瓜、乾茸、棉花等がこの地に集り、寧夏からは白米、煙草葉、麥、豆類、青海方面からは木材、甘肅方面からは阿片が流入し、包頭からは山西産の磁器、河南の水煙草、この近傍より産

する石炭等を送つてゐる。

旅館 包頭ホテル（三圓—五圓）

(三) 中 支

長崎から上海迄海上僅に二十六時間、日本郵船の日支聯絡船上海丸、長崎丸の外、神戸、門司からも定期客船の航路がある。長崎を出てから一晝夜、大陸に近づくに従つて海水が濁つて來る。實に揚子江の濁流は上海の沖合百五十哩にも達すると云ふ。海とも河とも分らぬ揚子江を溯つてやがてその支流黃浦江に入ると右手は吳淞の戰蹟、幾多殉國の英靈の冥福を祈りつゝ、所狭き迄往來するジャンクや、各國船艦の間を縫ふて進めば程なく碼頭に着く。これが中支の表玄關上海である。

中華民國維新政府 皇軍の中支方面に於ける作戰進展に伴ひ各地の自治團體の間に中支政權を要望する聲高まり、之と共に豫て在上海有力支那人の間に進められてゐた新政權樹立の計劃は進展し、昭和十三年三月二十八日南京舊國民政府大禮堂に於て中華民國維新政府の誕生を見

ることゝなつた。

同政府は日・滿・支の提携、共産黨排撃を旗印とし、東亞和平の再現を期すると共に蔣政權の壓制下にある中南支一帯にも更生支那建設の喜びを分たんとする高遠なる理想を以て誕生したもので、差當り江蘇、安徽、浙江三省に省政を布き中支再建設の途に上ることゝなつた。

爾來同政府は北支臨時政府と相呼應して順調なる進展を遂げ、同年五月二日には上海々關に關する日英覺書發表によつて同海關の正式接收を行ひ、次いで六月一日より北支と歩を一にして一大關稅改正を實施した。云ふ迄もなく支那海關の管理は英國の一大特權であるので、これが新政權の下に歸屬したことに就いては尠なからぬ經緯があつたのであるが、歸する所は英國の一步退却であつた譯で、これによつて新政權は政治的、財政的基礎に一層の強味を加へた。

中支と揚子江 上海は中支の表玄關である。そしてこの玄關は揚子江を通じて限りなき奧地に通じてゐる。上海の繁榮はこの揚子江あつてこそ齎されたものと云ふも過言でなからう。悠久四千年北方黄河の古代文明に對する揚子江の文化史は新しいが、新興支那の爲めに果してゐる政治的、經濟的役割は誠に大きい。そしてその反面この揚子江が反つて新支那の植民地化に

なくてはならぬ列強の通路となつてゐることを思へば誠に皮肉な對照である。

揚子江の貫く中南支八省は面積にして七十萬平方哩、人口は支那の半ば約二億と云はれ、流程三千哩餘は舟の航行自由で特に下流六百哩餘は一年を通じ六千噸級の外洋汽船の遡航さへ可能である。脈々盡きることなきこの流れは、沿岸に幾多の都市を育てあげると共にその下流には所謂江南と呼ぶ豊沃なる沖積層を築き上げた。南京も蘇州も、そして國際都市上海も總てその沖積する土の上に立ち、その水によつて孕まれたと云ふも過言でない。

従つてそれだけ揚子江を繞る列國の勢力争ひも烈しかつた。一八五八年英清天津條約によつて英國船舶が漢口迄の内河航行權獲得に成功するや、列國は何れもその例に倣ひ俄然航行權を繞つて列國の目まぐるしい競争が行はれた。資源も豊である。のみならず二億の人口を控へた消費市場を目標とする列國がその商權把握に熱中したのも當然領ける。

而してこの競争に斷然優勢を示したのは勿論先鞭をつけた英國である。事變前の揚子江に於ける列國勢力分野は英國四割、日本三割、支那三割の割合であつたが、現在では著しくこの情勢は變つてゐる。英國がその勢力の失墜を恐れて旺んに揚子江の開放を迫るのも一理が存する。

揚子江航行権問題は中支の通貨と共にその解決は今後に残されてゐる。然し乍ら揚子江筋の貨物の約五、六割が日本に向ひ、日本から上海への貨物の七割が揚子江を通じて奥地に入つて行くことを思へばこの航行権問題は慢然と看過すべきでなからう。

○

産業と資源 中支も亦農業が主産業で兩湖の米、江蘇、浙江の棉花、生糸、その他各地の小麥、大豆、胡麻、茶、湖南、四川の桐油、柏油等仲々豊富である。更に牛皮、水牛皮、山羊皮、豚毛、豚腸、雞卵等の畜産物も亦中支を特色づける産物である。

鑛業は幾多の世界的特産物を持つてゐる。湖南及び江西兩省を主産地とするアンチモニー、タングステン、マンガンを初め鉛、錫は治安の關係上急激な出廻りは望めないが將にその將來は刮目に價しやう。又長江筋の豊富なる鐵鑛山は北支の鑛山が所謂眠れる資源なるに反して既に着々稼行されてゐる。湖北省の大冶鐵山、安徽省の桃冲鐵山、太平鐵山等我國鐵鋼業と淺からぬ關係を有してゐることは周知されてゐる。

大冶鐵山は全支鐵鑛の四割を出す支那最大の鐵山で、埋藏量は一億噸と推定され現在迄の調査で確實と見

られてゐる數量だけでも五六千萬噸は下らぬとされてゐる。日清戦争後我が國はこの鑛山の經營主體である漢冶萍煤鐵公司に四千萬圓を貸付けそれが元利積つて七千萬圓となり、現在では日鐵が會計並に經營權を得てその衝に當つてゐる。探鑛は一ヶ年八十萬噸と云ふ記録があるが、大體五十萬噸位で一昨年は五十萬噸日本へ向け輸出してゐる。今後積極的開發方針をとつて進むならば二、三ヶ年後には二百萬噸探掘を實現することも容易であらう。鐵鋼増産計劃の遂行に伴ひ二千萬噸の鐵鑛を必要とする現狀に於て、大冶鐵山が我が業界の要望に應へんとするところ實に大きな期待が持てる。

工業は交通、地理等總ゆる自然の好條件に恵まれて、上海を中心とする長江デルタ一帯には近代工業が發展した。統計は些か古いが昭和九年調査によると工場法による全支工場數二千四百餘の中一千二百餘工場が上海地方に密集してゐたと云ふからその活況の一端が窺へやう。工業の最筆頭に立つものは云ふ迄もなく紡績業で、續いて製粉、煙草、燐寸、セメント、硝子、石鹼、飲食料、鐵工、機械器具、紙、ゴム製品、皮革、製材等廣汎に亘つてゐるが、何と云つても紡績業が絶對優勢である。上海に於ける邦人金融業者も、貿易業者も一般商店も大なり小なり紡績業と關係を持ち、また之に依存してゐる。

上海方面に於ける紡績設備は日英支合して三百四十萬錠、織機三萬九千臺内外と云はれ、こ

の中邦商紡は五割、華商紡四割三分、英人紡七分の勢力分野であつたが、今回の事變による影響は邦商紡は精紡機一割二分、織機二割餘、華商紡は五割、英人紡は殆んど被害無しと云ふ状態であつたので勢力分野は一大變化を示したのみならず、華商紡の我が委任經營に歸するもの漸増の形勢にあるので我が紡績業は益々強固となつて來た。目下上海邦商紡は略々百三十萬錘操業を見て居り、事變前の百五十萬錘復舊も遠くはあるまいと云はれてゐる。

最後に鹽業に就いて見るに江蘇省淮北及び淮南は中支に於ける海鹽の唯一の産地で事變前は年産六百七十萬石餘に達してゐた。事變發生以來製鹽業者の多くが避難して産額は激減してゐたが、最近關係業者の復歸も漸増するに至つたので、中支に於ける鹽の供給問題も解決されることゝなつた。

○

中支振興會社の現状 破壊から建設へのモットーの下に今上海は日一日と眼覺しい復興振を示してゐるが、中でも日支經濟提携を目指して我が中支振興會社は華々しい活躍を續けてゐる。同社は昭和十三年十一月七日創立總會を開催して呱呱の聲を擧げたが、既に同社の子會社とし

て復興事業の先鞭をつけたものも尠くない。今上海に根據を有する八子會社は左の如くである。

華中鐵礦株式會社	昭和十三年四月八日設立	資本金 一千萬圓
華中水電株式會社	同 年六月三十日設立	〃 二千五百萬圓
上海内河汽船會社	同 年七月二十八日設立	〃 二百萬圓
華中電氣通信株式會社	同 年七月三十一日設立	〃 一千五百萬圓
上海恒産株式會社	同 年九月十日設立	〃 二千萬圓
華中都市自動車株式會社	同 年十一月五日設立	〃 三百萬圓
華中水産株式會社	同 年十一月六日設立	〃 三百六十萬圓
大上海瓦斯株式會社	同 年十二月二十七日設立	〃 三百萬圓

○

貿易 揚子江が占める經濟的重要性は一言したが、これを貿易上から見れば更に一層明瞭となる。即ち上海を筆頭に中支十三港の貿易額を事變發生の前年である昭和十一年に就いて見ると、輸出は三億八千萬円で全支の五三%を占め、輸入は六億二千萬元で實に六六%を占めてゐる。揚子江沿岸各港が開放されて僅に八十有餘年にして今日の盛大を致したことを思へば、

如何に中支諸港が支那貿易上重要な地位を占めてゐるか、首肯される。品別貿易に就いて云へば輸出では油脂及蠟、動物及動物産品、紡織用繊維、鑛及金屬、皮革及同製品、茶、種子、織物類、輸入では金屬及鑛、紙類、蠟燭、石鹼、毛及毛織物、機械器具類、化學藥品、染料、顔料、塗料、車輛類である。

因みに昨年度は揚子江が封鎖されてゐた爲め、中支貿易は殆んど上海に限られてゐる譯であるが、同年度の輸出額は二億二千萬元、輸入額は二億七千四百萬元で前年に比し激減した。この中對日輸出は郵船取扱によるもの九十八萬圓餘で、棉花が主位で豆粕、麩、牛骨、麻苧等が之に次いで多く、輸入品では酒、麥酒、罐詰食料品、砂糖、紙、工業藥品、セメント、材木等が多い。

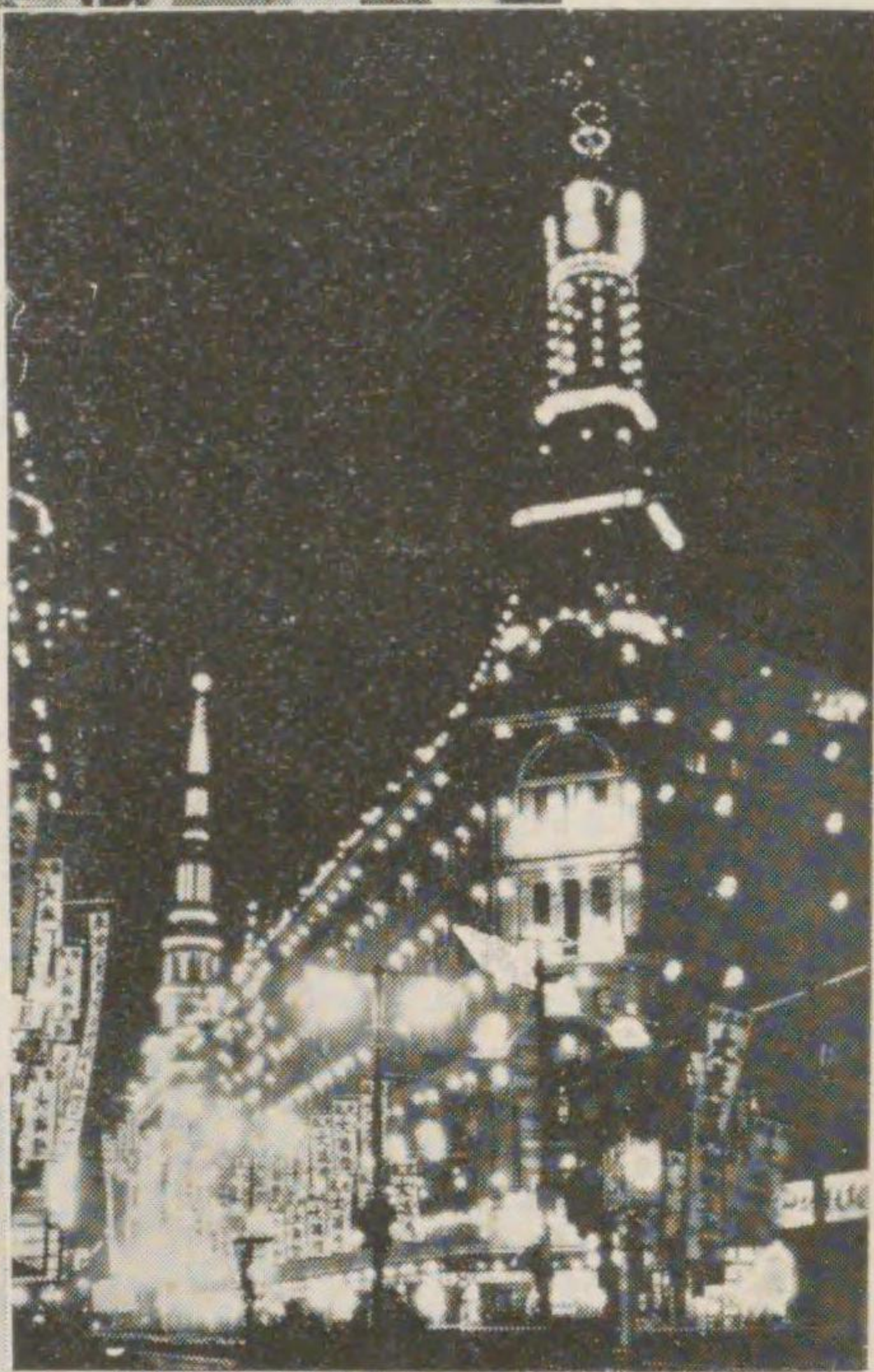
上海

一年前には死の街であつた北四川路にめまぐるしいネオンがきらめき、自動車、黄包車の雑然たる流れの中に急激に邦人が増加した。昨十三年末現在では在留日本人が九千七百七十一世帯、三萬六千四百五十三人に上り、事變前に比べて約一萬人の増加と云はれ、今も尙便船毎に増加する邦人数は夥しい數にのぼつてゐる。復興景氣とでも云ふのであらうか。共同租界の皇

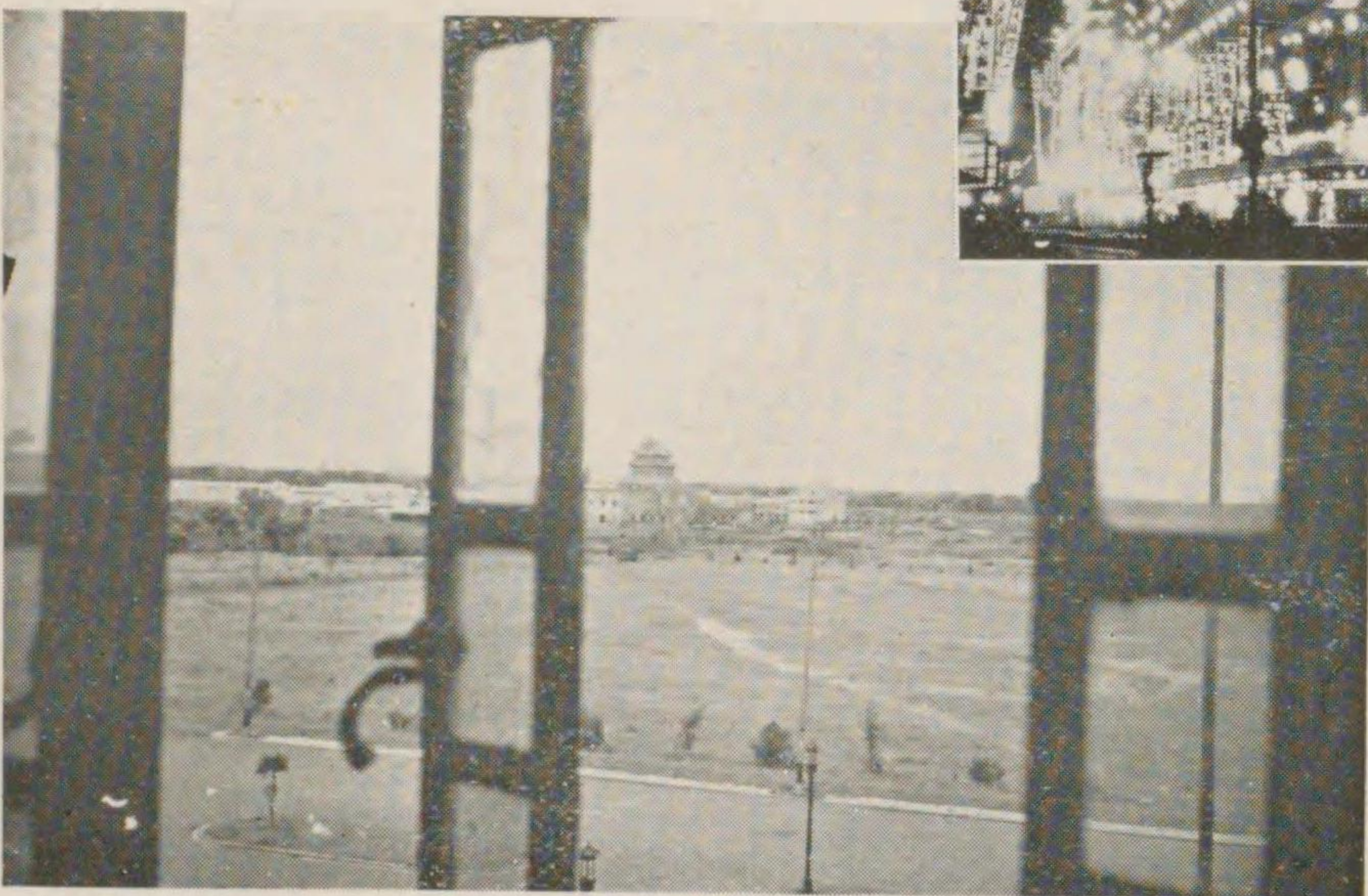
上海



バンド



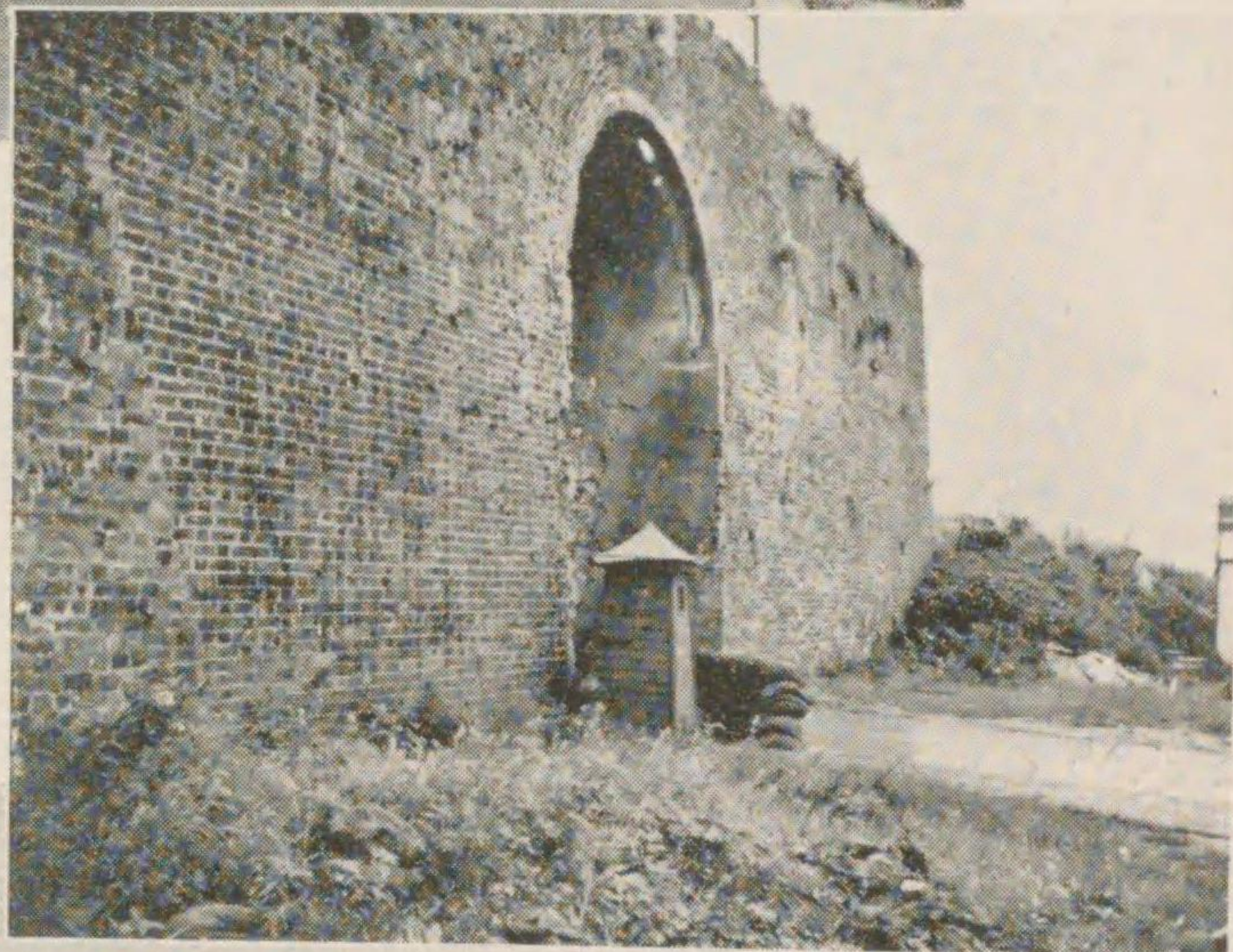
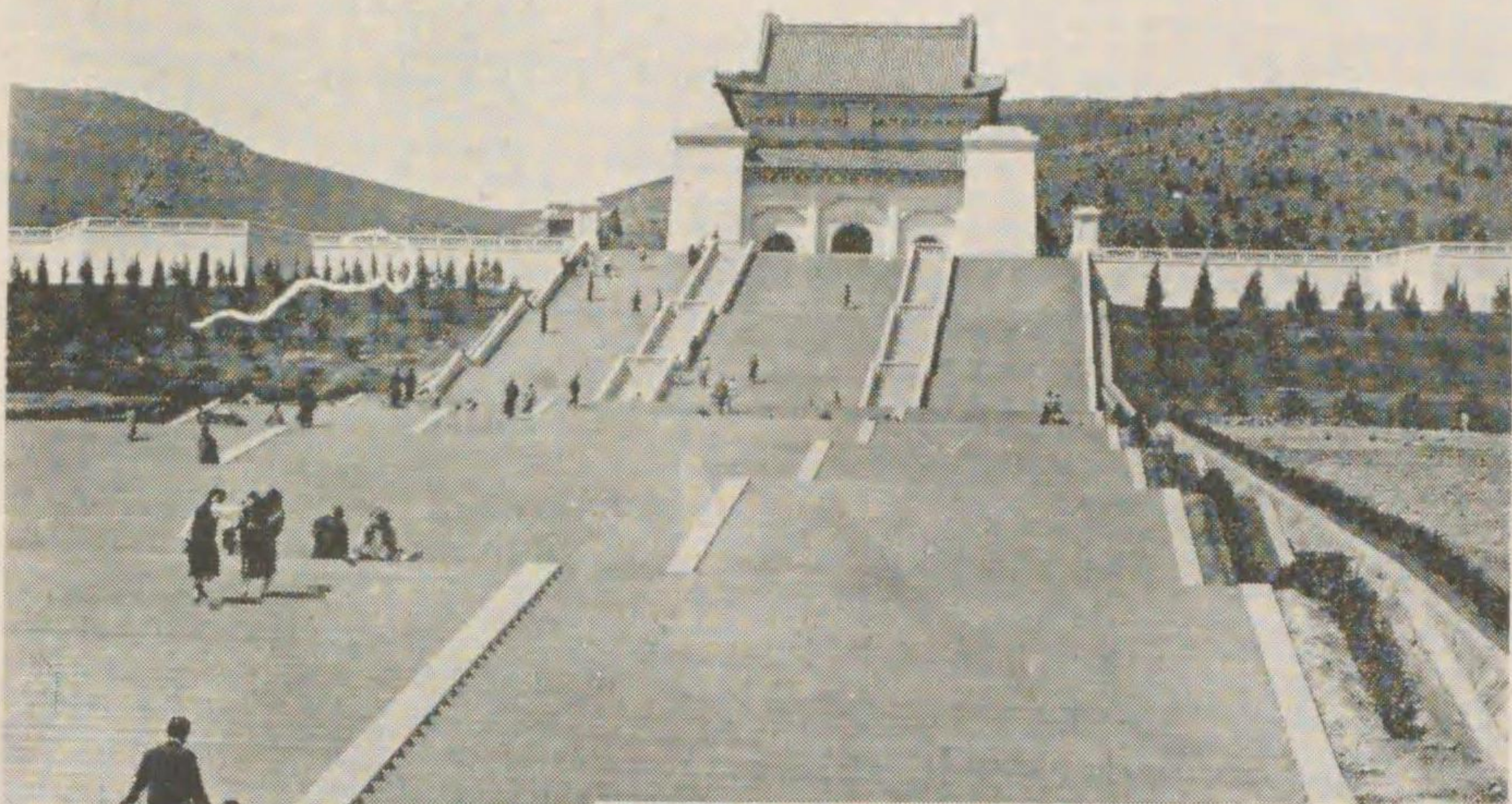
夜の南京路



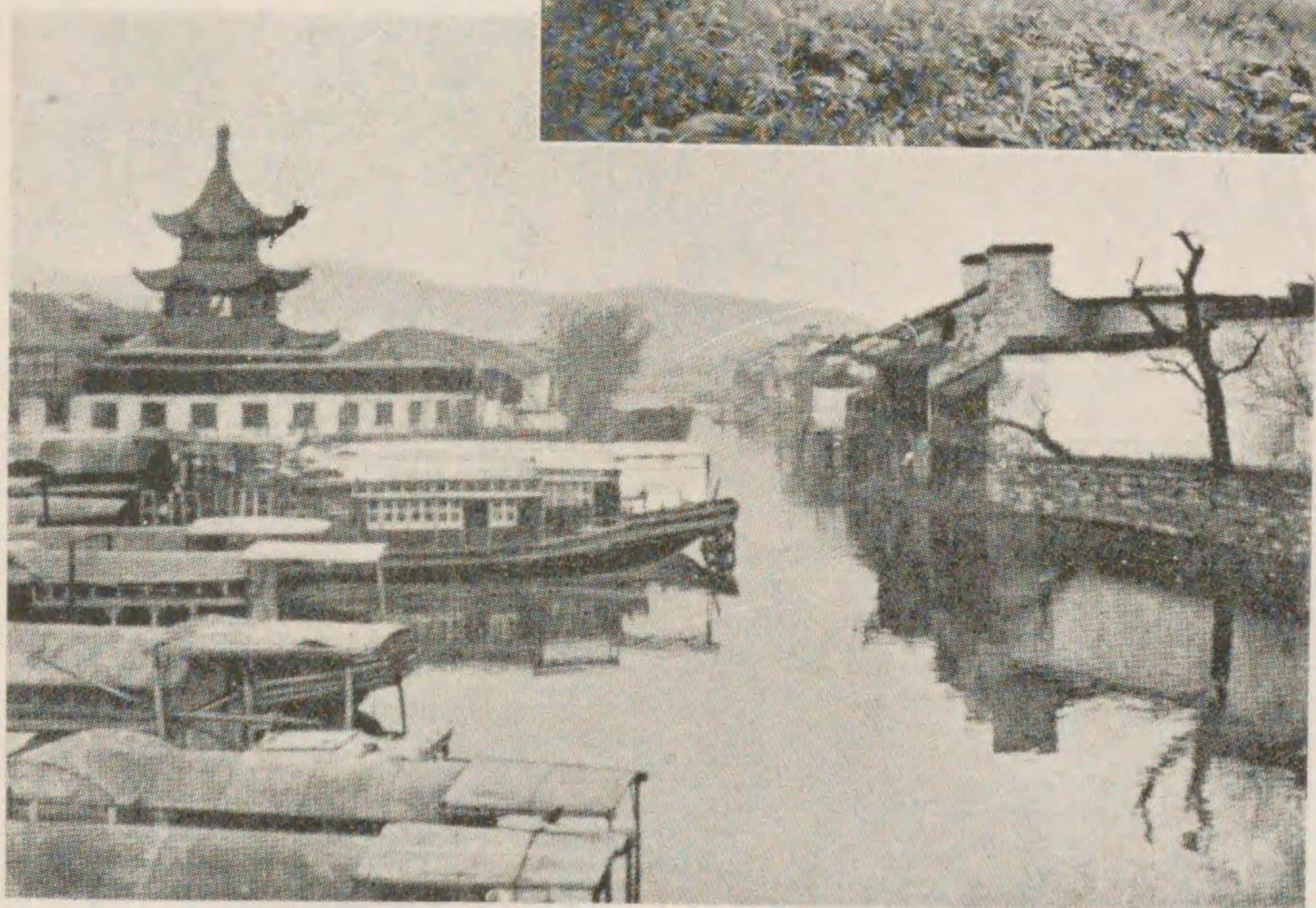
市政府附近

▼南京▲

中山陵



光華門



秦淮の河畔

軍占領地区即ち蘇州河の北側虹口一帯は日本人商店の復興に賑ひ、生活必需品を賣る店、飲食店料理屋等の開店が日に日に増加するし、一方蘇州河を隔てた河向ふの共同租界、佛租界は避難民の激増で人口は事變前の三百萬から四百萬人に飛躍した。この避難民の中には戦火を避けて集つた地方の富裕なる階級も尠くないので此處にも亦一種の戦争景氣が浮び出てゐる。

○ 上海の見物場所は人にもより滞在日數にもよるが左の場所が普通に選ばれる。

競馬場、公園、百貨店（先施、永安、新々、大新）、黃浦灘路（普通バンドと云ふ商業區の中心）、大世界、虹口マーケット、舊城内（支那人街で支那固有の風俗、習慣を見るに至便であるが尙治安の關係上單獨行動は危い）、龍華の塔及桃林。

この外昭和七年の上海事變、今次の日支事變に皇軍の活躍した新戰場、廟行鎮、江灣、大場鎮を訪ねて陣歿勇士の遺靈を弔ひ、新東亞建設への思ひを新にすべきであらう。これ等の戦蹟は上海から自動車で行けば簡單に行けるが軍當局の許可を要する所は前以てその注意が肝要である。上海の見物場所としてはこんなものであるが、國際都市上海は事變發生以來幾多の問題

を投げかけてゐる。

○
上海で絶えず問題になるのは外國租界の存在である。上海の佛租界及共同租界は天津の租界以上國際色豊かであり、支那の文化向上に貢献した點尠くないが、今日では不逞分子の巢窟の様な觀を呈し反つて興亞聖業達成の大障害となつてゐる。

租界とは支那に於ける居留地の假稱、主權はもとより領土も支那のものだが、條約に基づき實際の行政、例へば警察、衛生、道路、建築、課税等に關する事務は外國人が行使する特殊區域である。租界には專管租界と共同租界とがあつて、前者は上海の佛租界、天津の日、英、佛などの様に條約によつて定められた一外國にだけ專屬するもの、後者は上海の共同租界の如く條約を締結した各外國、こゝでは日、英、米、伊共同のもので多くの場合締約國人で組織した共同の行政機關を設けるのが普通である。

最近の様に租界内に不祥事が起るのは租界の行政機關工部局の不誠意を物語るもので、租界當局の反省せぬ限り興亞の前途必ずしも明朗とは云へまい。

○

この外最近上海の話題を拾つて見ると住宅難と物價高とがある。事變以來戰禍を避けて集つた租界人口の激増で上海は一躍四百萬人に達し、これ等の人々によつて住宅は拂底するし、需要激増の爲めに物價は上る一方である。

この住宅難は戰禍による閘北や南市の潰滅と避難民の激増からであつて、最近では獨身者のアパートで月四十圓から六十圓位迄、二間、三間續きのアパートに湯殿、臺所がつけば百五十圓から二百圓、借家を百圓位で見つけたら幸運だとのことである。

話のついでに旅館の方を見ると邦人旅館萬歲館（五圓―十五圓）、豊陽ホテル（五圓―十二圓）、辰巳屋旅館（五圓―十圓）、日ノ丸館（四圓―十圓）等の外に外人ホテルで邦人經營に歸するものが多くなつてゐるので従來の旅館難は相當緩和された様である。即ち東洋一のホテル、ブロードウエイ・マンション及びアスター・ハウスを外人經營から日本系に買收の交渉が進んで既に後者は邦人經營で營業を開始した。

住宅難の緩和、否そんな吝かな目的でなく新東亞の大上海建設と云ふ大使命の下に今大上海都市計劃が着々進んでゐる。この計劃は蔣介石が新生活運動の爲めに立案したもので、既に市

の北郊田園の眞中に市政府の建物が出来上つてゐた。今次の計画は殆んど之を引継ぎ上海恒産會社の手で十ヶ年、一億元の工費で新しい明日の上海を築かうと云ふのである。市政府を中心とし吳淞クリークをもつと大きくして之に沿ふて工場地帯を設け、三料の近くにある黄浦江に大碼頭を築造する。住宅は高級、中流、新居區の三つに分けこの中に盛り場を設ける。租界の繁榮を奪ふ意氣込の充實した計劃である。

物價高は蘇州河以南の舊英租界、佛租界に比して同河以北就中邦人居住地域である虹口方面に激しい模様である。輸出制限と輸送難に加へて、多數の旅行者が落して行く金、その他が積り積つて圓の氾濫を捲き起して勢ひ物價高となつてゐるので、邦人商店の物價は内地に比較して見て大體四、五割は高い。

蘇州

蘇州は上海の西方約百料、汽車で二時間餘で着く。古來殷賑を極めた都市で、今回の戦禍を蒙ることも輕微であつただけに復興の速度も急ピツチである。高い城壁に圍まれた市街は平和の色が蘇つて人口約四十萬、この中五百名足らずの邦人が雜貨商その他に活躍を續けてゐる。

市街には上海同様華中市自動車の手で市内バスが動き、蘇綸紡績が内外棉の手で經營され、華中蠶糸の蘇州工場も操業を續けてゐる。兎に角蘇州の復興振は表面的にも内實的にも急ピツチである。

蘇州は地味肥沃な所謂江南平野の中にあつて米、麥、小麥を初めとして各種の農作物を産する。養蠶の旺んなることは古くから我が國で絹紬と云へばこの地を代表したことから見ても容易に想像されやう。

蘇州は又「月落ち烏啼いて霜天に滿つ」の詩に有名な寒山寺で名高い。街の郊外自動車で行けば十五分―二十分で行ける。その近くの虎邱からは蘇州の水郷が一目に見える、蘇州の風物詩は、この兩處で滿喫し得やう。

旅館 繁の家

南京

上海から汽車で約六時間、船では約一晝夜で南京に着く。昭和十二年十二月十三日皇軍の占據以來約一ヶ年餘、南京は今復興の一路を邁進してゐる。戦火に打碎かれた高樓、茅屋の姿に

流石激戦の跡が偲ばれるが、既に整理を終つたメイン・ストリート中山路を行けば南京の急速度の復興振が分る。

云ふ迄もなく國民政府亡き後には中華民國維新政府が嚴然と君臨し、陥落直前四十五萬に過ぎなかつた人口は今では六十萬に増加し、在りし日の百萬への恢復も遠くはあるまい。在留邦人も戦前僅に百二十三人に過ぎなかつたものが三千五百人餘にも増加してゐる。そして南京には上海や、天津に見る様な外國租界がないので街の治安は皇軍の手で完全に維持され人心は安定してゐる。

○
南京に第一步を踏み入れたものは周圍日本里の九里もある城壁の偉觀に接し、よくも皇軍がこれを突破したものだ、その涙ぐましい忠勇武烈さに感慨一入新なるものがあらう。

堂々たる舊國民政府の諸建物の外に中央大學、模範監獄、中央飯店等の文化施設、或は古雞鳴寺、鼓樓、明の故宮跡、古物陳列場等見るべきものが多い。

有名な中山陵と明の孝陵は城外紫金山の麓にあつて自動車で行けば約三十分餘、中山路の快

適なる道路で南京の城外を視察することが出来る。中山陵、孝陵共に蔣介石政權が拮据經營に當つた所、附近一帶の中山公園と共に南京を見物する旅行者が是非見なければならぬ場所である。中山陵の規模の壯大さは流石四百餘州を呑んでゐる感があるが、今見る脚下の南京全市には日章旗翻翻と風に翻つてゐる。地下に眠る孫文の感慨果して如何。

○
もう一つ南京には名物秦淮の畫舫が残つてゐる。千有餘年繼續して來た由緒深い夏の遊覽船に基因し、南京情緒を味ふ爲に高官、紳士淑女から旅行者迄一應はこれで飲み明かし歌ひあかすところである。月下に聞く艫の音、胡弓、明笛のさんざめき、暑い南京の銷夏法として傳統を誇るのも故ありと云へやう。事變と共に一時影を潜めた畫舫のランプにも最近復興を謳ふ灯が入つたと云ふ。先づ南京の見物は二日位を要する。

○
物價は物資の不足で著しく昂く、先づ日本内地の三倍と云ふ様な状態である。これは勿論過渡的現象ではあらうが相變らず安つばい飲食店やカフェーが多く、日本人的な火事泥式な商賣で共喰ひの醜態を演じてゐるものも尠くない。大陸政策を遂行する上に十分考慮さるべき問題

と識者から憂へられてゐる。何と云つても南京は政治の街である。

やがて對岸浦口から徐州を経て天津に通ずる津浦鐵道が復舊すれば益々その地位は重要性を増加して來るであらう。

旅館 南京ホテル、寶來館

漢

口

上海から揚子江を溯ること六百哩餘にして揚子江の經濟的生命線とも云ふべき漢口に着く。對岸の武昌、漢陽と三都を合して古くから、武漢三鎮と唱へられて來た支那中央部第一の大都會で、政治、經濟上に於ても北京、南京、上海に匹敵する地位を占めてゐる。のみならず京漢線が北京に通じ、對岸武昌からは粵漢線が南下して廣東に至る等、實に交通上から見ても、軍事上から見ても重要な都市である。

事變前の人口約九十萬と云はれ、昨年末既に治安維持會が誕生し、今では避難民の復歸するもの六、七十萬人を算し安居樂業の雰圍氣は日と共に濃くなつて來てゐる。

漢口にも外國租界があり現存するものは日本及び佛蘭西の兩租界のみで獨逸、露西亞、佛國、

英國は今支那側の手に回收され特別區となつてゐる。日本租界は十二萬四千坪、事變前の居留民は一千八百餘名に達し、大體在留外人の過半を占め、一時本邦人の黄金時代を現出したこともあつた。不幸今回の事變に際して昭和十二年八月在留邦人は數十年に互り築き上げた權益と別れを告げ悲壯なる漢口引揚を實施したのであつたが、暴戻な支那軍の手によつて日本租界は見る影もなき迄破壊された。漢口復舊なる日は果して何時であらうか。

見るべき場所としては武昌の黃鶴樓、此處は武漢三鎮が一望に治められる形勝の地である。漢陽には有名なる漢陽鐵工廠がある。大體武昌は政治都市、漢口は經濟都市、漢陽を工業地として見ればよからう。

揚子江は今尙閉されてゐるが中支の豊富なる物資はどうなつてゐるか。大體生産は事變下ながらも平年並で、治安の恢復困難なと、運輸機關の杜絶等で出廻り難くなつてゐるので、之等の障害さへ排除されたならば物資は順當に出廻つて來るだらうと見られてゐる。即ち米、小

麥、大豆、胡麻、蠶豆、棉花、苧麻、茶等の農産物、牛皮、水牛皮、山羊皮、豚毛、豚腸、雞卵等の畜産物は沙市方面迄、漆、桐油、桐油、藥材は湖北省方面、アンチモニー、タングステン、マンガン、錫、鉛等は湖南、江西方面の夫々治安確保によつて集散も容易となるであらう。

之と反對に奥地の日用物資の缺乏も當然考へられるが治安の關係上奥地との交易等は中々思ひもよらない。軍の宣撫工作と並行して奥地で最も缺乏を告げてゐる鹽、砂糖、煙草、燐寸、蠟燭、綿布、石油等を比較的治安の保たれた地方に持ち込み、農民の退藏物資と交換しようと努力されてゐる。

漢口の貿易額は上海に一籌を輸するも物資の集散地としての當地は或は上海以上かも知れない。事變前昭和十一年の貿易は輸出一千三百萬元、輸入三千二百萬元となつてゐる。

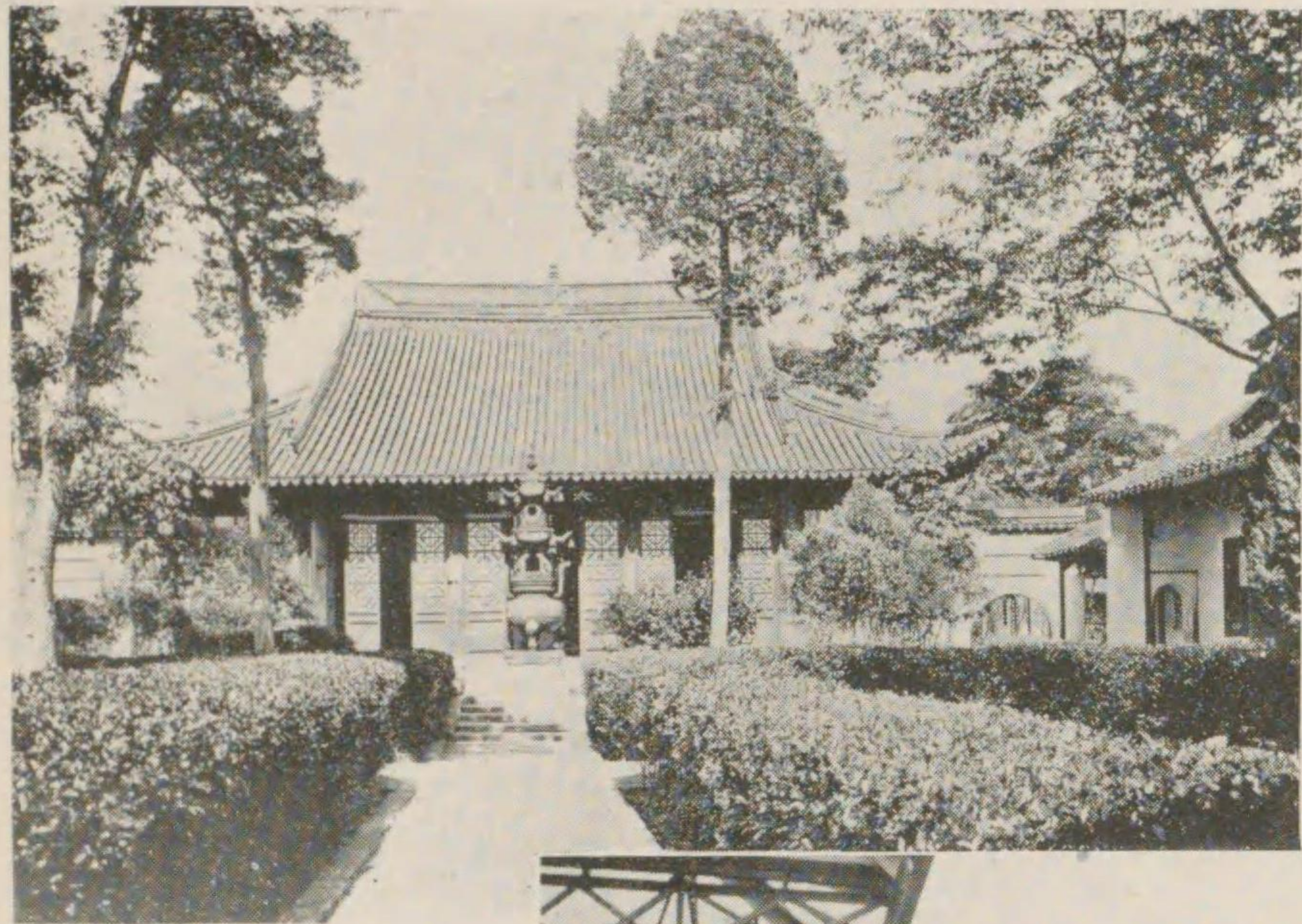
杭 州

杭州は浙江第一の都城であると共に、風光明媚な西湖の眺めを以て蘇州の寒山寺以上に知られてゐる觀光都市である。

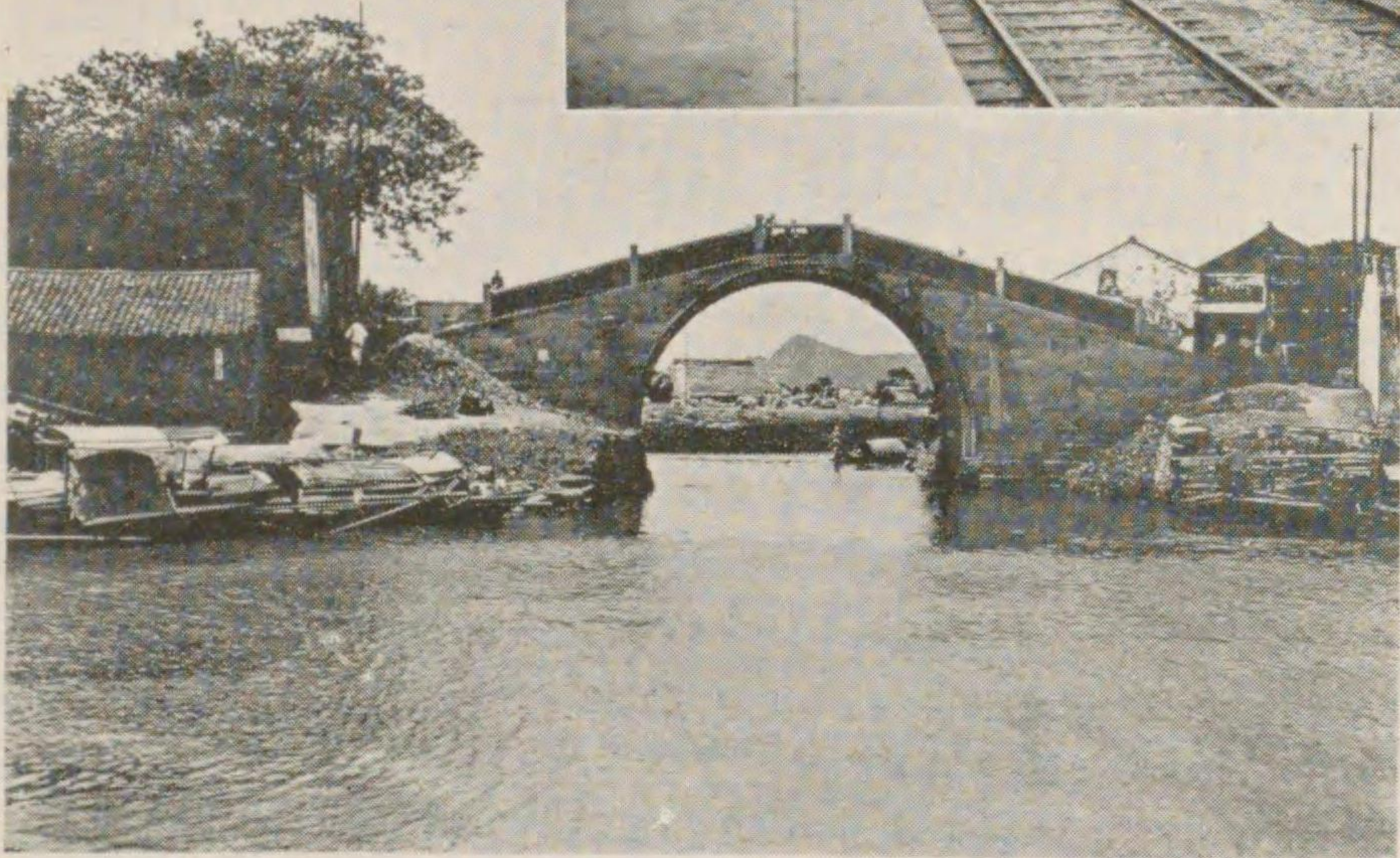
上海から海杭（元滬杭甬）鐵道によれば四時間餘で行ける。日歸りを試みるものもあるが、西

▼ 蘇 州 ▲

寒 山 寺



蘇州停車場

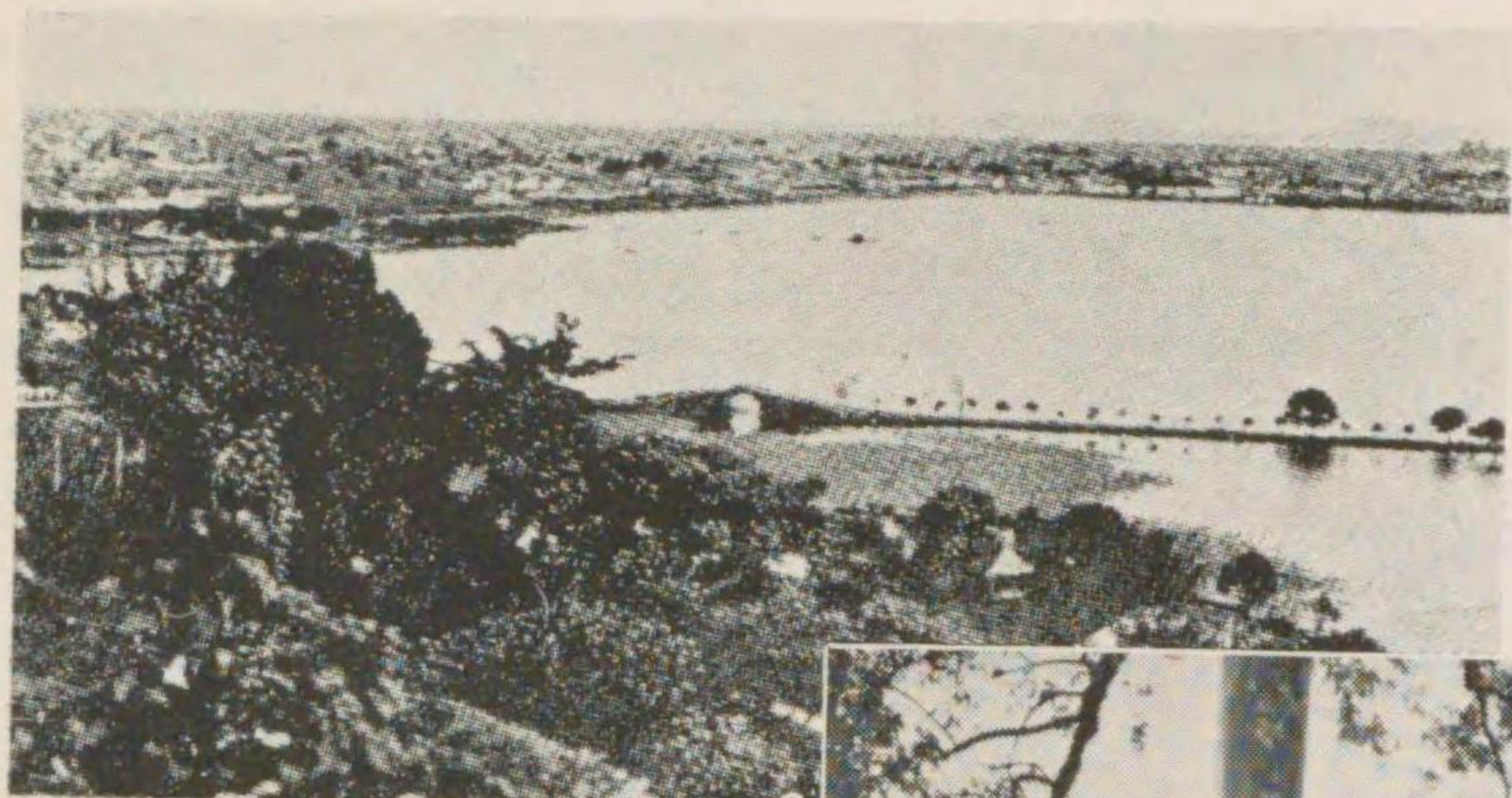


楓 橋

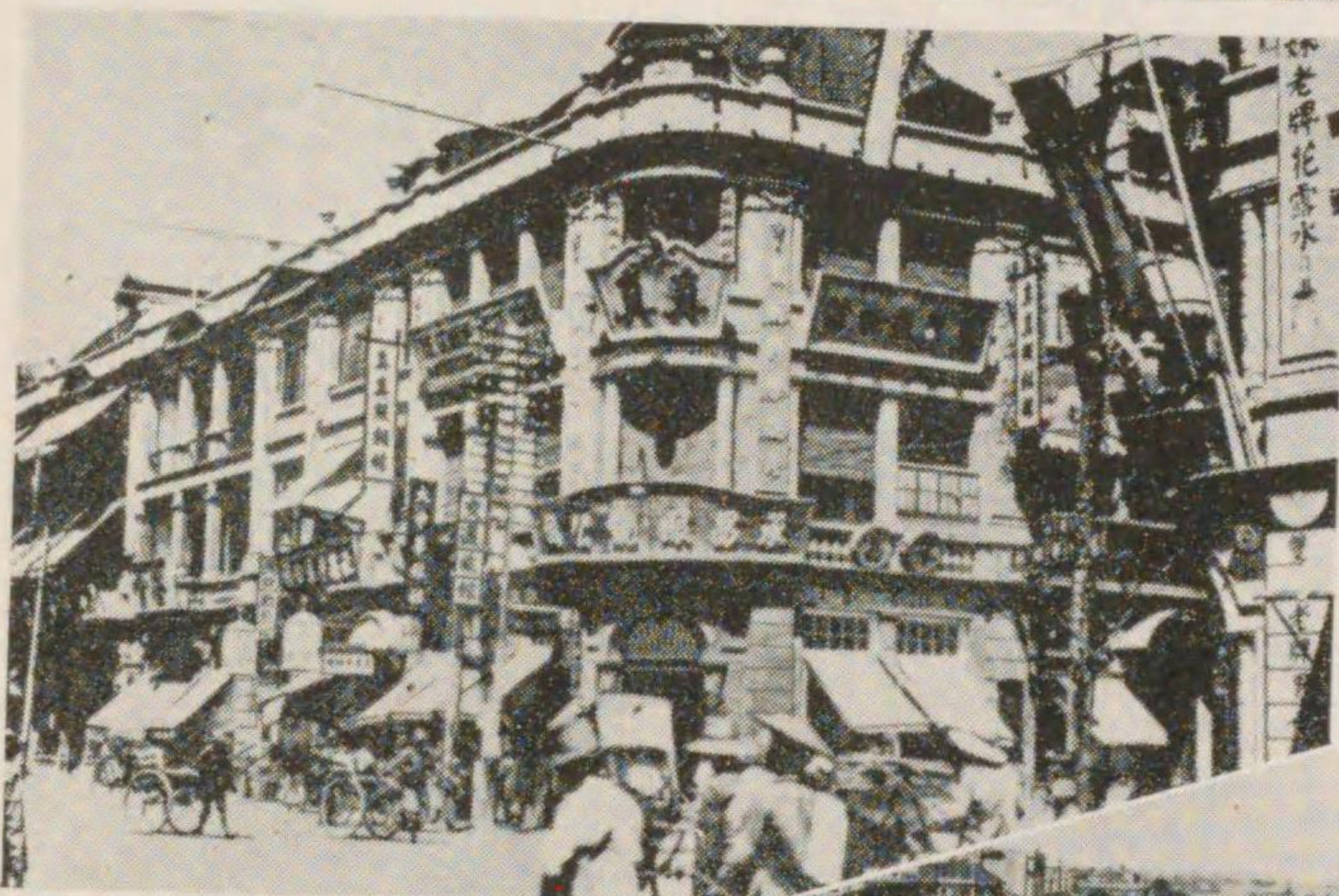
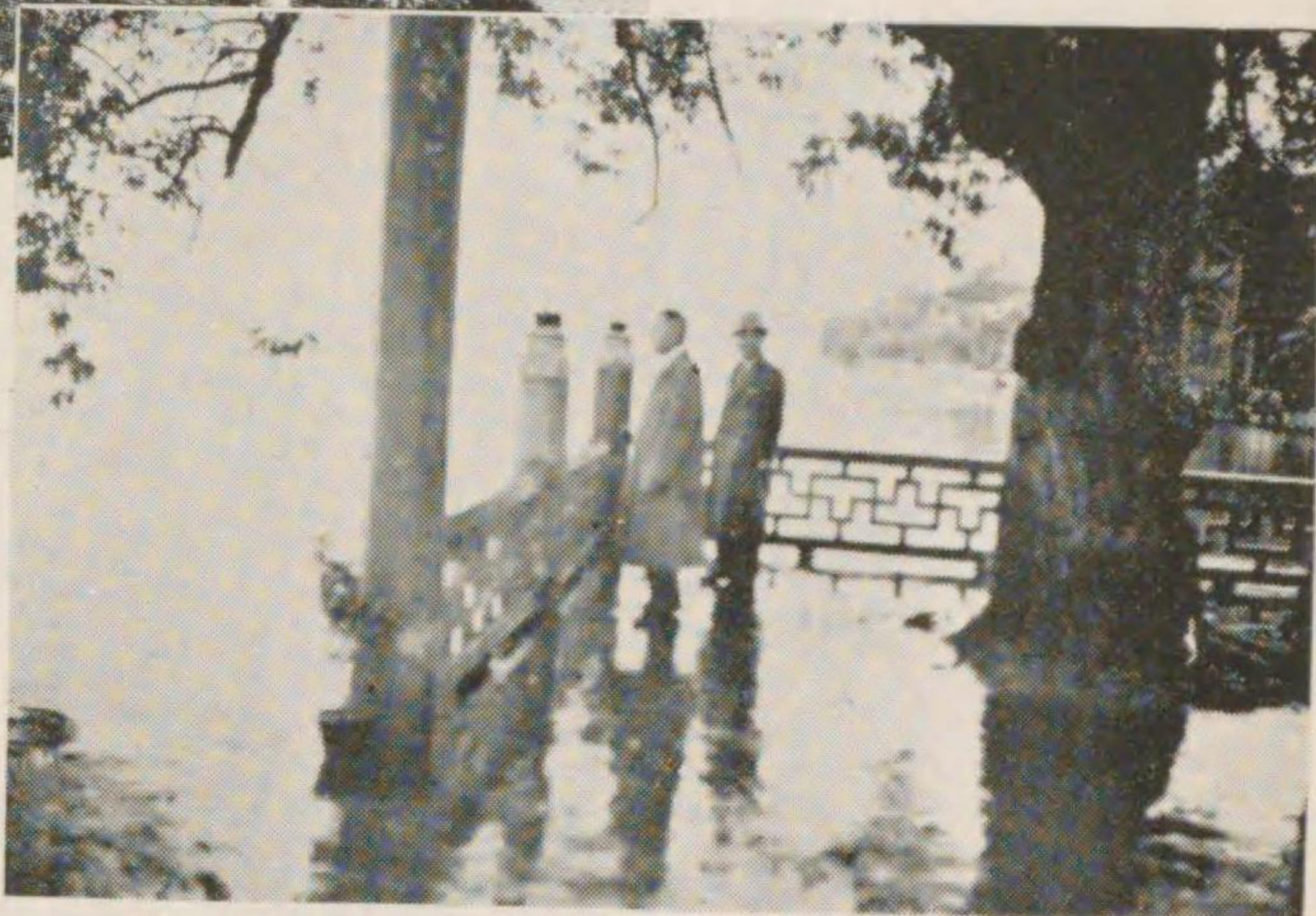
▼ 杭州 ▲

と

▼ 漢口 ▲

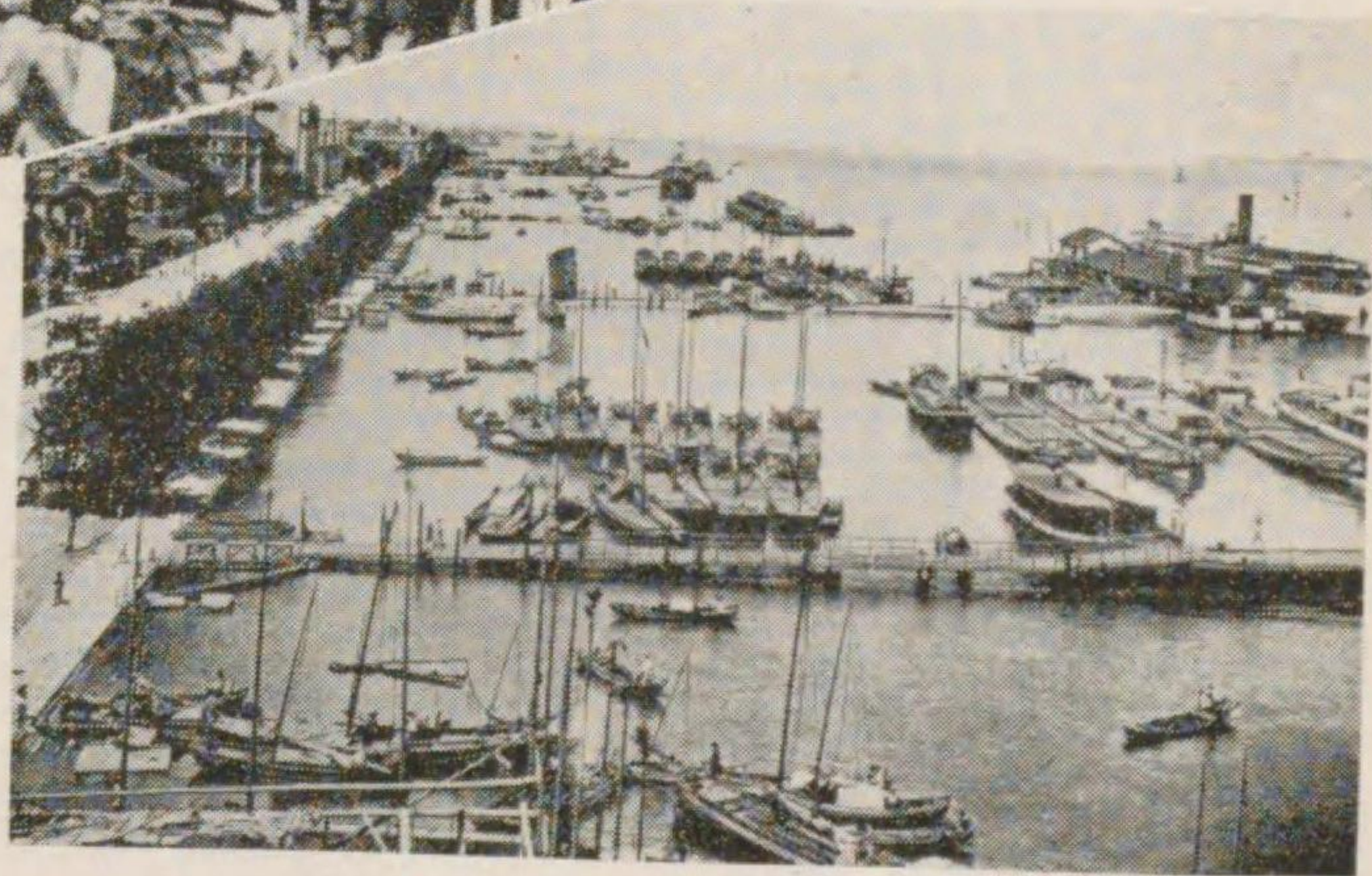


杭州西湖の風景



漢口支那市街

漢口英租界バンド



湖の味ひは尠くとも一泊は必要、文人墨客は一週間も滞在しなければ眞面目は分らぬと云ふ。見物場所は次の様なところがある。

湖上—三潭印月、湖心亭、阮公墩、孤山、白堤、蘇堤、樓外樓等々。

湖畔—日本領事館、初陽臺、保叔塔、葛嶺等々。

支那の人は死して極樂浄土に行くよりもせめて天下の名園、西湖の畔で永き眠りに入りたいと此處に墓所も求める者も尠くない。

此地が皇軍の手に歸したのは昭和十二年十一月五日の皇軍百萬杭州上陸による。爾來街の治安は確立して西湖の面には平和の小波が漂うてゐる。上海に旅する者必ず一度は訪ねる所である。

○

上海に接近してゐるので經濟的方面では見るべきものが尠い。事變前の昭和十一年貿易額は輸出皆無、輸入二百八十萬元である。

旅館—常岡ホテル、新々旅館

都市とところどころ

徐州

天津より津浦鐵道を南下するか、反對に南京の對岸浦口から津浦鐵道を北上すると隴海線との交會點に交通の要衝徐州がある。今次事變の徐州大殲滅戰で徹底的に破壊されたが、事變前は人口約四萬を擁し、附近の雜穀、牛皮、豆油等の集散地として城内は相當に繁榮した。將來治安恢復し津浦線が全通すれば中支新興都市として一躍その名を謳はれるに至るであらう。現在邦人數は定かでないが略々一千三四百人内外が進出してゐる。

開封

開封は徐州から西すること約二百七十軒餘の地點にある。事變前の人口約三十三萬餘で豊饒な河南平野の中心だけに街は繁華で、絹織物、綿布等を産出した。昨年六月六日皇軍の手に歸し同八日早くも治安維持會成立し、新生河南省の中心都市として開封の地位は益々重きを加へてゐる。今回支那元老吳佩孚將軍が新中國建設の爲め和平救國を標榜して蹶起し、その活動の根據地を此地に設定することゝなつたので著しく注目を牽くところとなつた。

(四) 南支

北、中支が可成古くから我が大陸經營の對象として重視されて來たのに反し、廣東を中心とする南支は、英國の香港、佛蘭西の廣州灣、葡萄牙の澳門經營等列強の進出に對し、我が勢力の南下に就いては何等見るべきものがなく、僅に廣東の英佛居留地沙面に總領事館、正金、臺灣の兩銀行、郵船、商船、その他少數の商社が存在するに過ぎなかつた。

然し乍ら昨年十月二十一日の廣東占據によつて局面は一轉し、排日思想を根強く植えつけられた南支住民も皇軍の恩威に靡き、既に去る一月二十日廣東治安維持會を結成して安居樂業、親日の色日々に加はつてゐる。

産業と資源

廣東は廣東、廣西、貴州、雲南、湖南、江西の廣汎なる背後地を持つてゐる。その産業は中支に比し稍々遜色を呈してゐるが、豊富なる資源に於ては決して勝るとも劣らぬ程豊饒である。



南支も亦農業が主産業で廣東省は二毛作が可能であるに拘らず、耕作技術の幼稚な爲め尙相當額の農作物を輸入してゐる。生糸は年産約十萬擔で一時輸出大宗品として米國市場に多量輸出されたが糸質不良の爲め日本品に驅逐され僅に印度方面に向けられてゐるに過ぎない。この外棉花、甘蔗、茶、煙草等生産技術の改良によつて増産を期し得るものも少くない。

鑛業は産業としては未だ幼稚であるが埋藏資源としては仲々豊富でタングステン、アンチモニー、マンガン、錫、鉛等非鐵金屬は世界的に有名である。

工業は幼稚ながらも廣東省内に近代式工業が勃興しかけてゐる。同省政府では自給自足を目標に昭和八年以來産業三ヶ年計劃、工業五ヶ年計劃を相次いで實施し、事變前にはセメント、硫酸、肥料、飲料、製紙、紡織、製麻、製糖の八種工廠の完成を見てゐた。

○

貿易 廣東の貿易は香港の活況の爲めに近年不振を啣つてゐるが、支那の四大貿易港として尙重要な地位を占めてゐる。昭和十三年の貿易額は輸出一億六百萬元(全支の一三%)、輸入五千六百萬元(全支の六%)で、主なる輸出品は生糸を首位に絹織物、タングステン、アンチモ

ニー、牛皮、桐油、輸入品は米、小麥粉、銅、鐵、石炭、石油等である。日本との貿易は香港或は上海を通じて行はれるので極めて少なく、輸入二、三十萬元、輸出三、四萬元に過ぎなかつた。

廣 東

廣東が日本軍の手に歸したのは昨年十月二十一日、既に治安維持會も成立し、百五十萬の申約五十萬の住民が復歸してゐる。退却間際の破壊によつて市内の電燈竝に水道が不通となつてゐたが最近では漸次恢復し、市内バスの運行を見る迄になつた。

粵漢、廣九、廣三、三鐵道の起點で、一八四二年南京條約により開港された交通、經濟、軍事上の重要都市、市街は支那人獨力を以て建設したもので大厦高樓多く、廣東省政府始め各政府機關何れもこの地にある。

古くから西班牙、葡萄牙との貿易によつてその文化を吸収し、近くは英佛等の近代文明に接し、我が國とも貿易を通じて漸次關係を生ずるに至つた。一八四二年開港以來貿易港として漸次繁榮し、上海、天津、漢口と共に四大貿易港の一として活動を続け、更に近年香港に對抗す

べく大黄埔港築造計劃を樹立してゐたが由なき抗日の爲めにこの遠大なる計劃も一場の夢と化し去つたのは惜しまれる。

沙面

廣東に接した一島嶼で英國橋、佛國橋の二橋を以て廣東市と通じてゐる。一八五八年英國船内の支那船員を海賊と稱して捕縛したのと、佛國の宣教師が廣西省内で殺害されたのが起因で兩國は共同して廣東を攻め、その後平和條約によつてこの沙面を兩國の居留地とすることゝした。樹木の少い廣東市内に比し榕樹繁茂し、宛然瀟洒な一公國をなし、争亂絶え間なき廣東の安全地帯となつてゐる。我が領事館、商社がこの地にあることは一言したが、支那人の居住は禁止されてゐる。

香港

壯麗なビル街、商店街、さては背後の山の頂上に迄建ち竝んだ豪華な住宅街、何一つとして英國經營百年の跡を物語らないものはない。實に英國が支那をしてその割讓に成功せしめたのは一八四二年である。爾來英國が東洋根據地として孜孜營々遂に世界の自由港として今日の盛

▼ 廣東 ▲

珠江



民 蛋



廣東市街(大馬路)

75
31

▼ 香 港 ▲

表 通



裏 街



況を齎したものである。昭和十二年度に於ける輸出入額は十億八千四百萬弗、同出入船舶三千四百餘萬噸の中、英國は實にその五割二分を占め、斷然他國を壓してゐる。單に貿易のみでなく金融方面を見ても資本金二千萬弗を擁する香港上海銀行を初め渣打銀行、有利銀行があり、支那金融界に隱然たる勢力を有することは、その支配下にある支那の通貨法幣が潰えんとして潰えざるを見ても明らかである。

今次の事變に際し英國は此處を根據として蔣政權に多量の武器彈藥を供給し我が國民の感情を激化せしめたが、島内の多數支那人は英國の親蔣的態度を奇貨とし猛烈なる排日運動を試み、在留邦人を引揚げの餘儀なきに至らしめた。事變前の在留邦人千五、六百人は現在五百人以下に減少してゐる。

事變以來全く南支から獨立した香港が果して従前の繁榮を維持して行けるかどうか、香港と南支の聯絡路廣九鐵道も、海上珠江の航行も全く遮斷された香港としてはその將來に幾多の暗雲が漲つてゐる。然し乍ら香港は獨り南支の香港ではなく世界の香港であり、百年の暖簾を誇る香港である。今急にその盛衰を云々するは早計たるを免れないであらう。

751

311

751
311

旅の資料

上 <small>シヤン</small>	夜 <small>イ</small>	晩 <small>ワ</small>	响 <small>シヤン</small>	早 <small>ワ</small>	票 <small>ビヤウ</small>	銀 <small>イ</small>	銅 <small>ト</small>	一 <small>イ</small>	兩 <small>リヤン</small>	一 <small>イ</small>	塊 <small>クワイ</small>	半 <small>パン</small>	錢 <small>チエン</small>
午 <small>ウ</small>	裏 <small>リ</small>	上 <small>シヤン</small>	午 <small>ウ</small>	起 <small>チ</small>	子 <small>ツ</small>	元 <small>ユヅン</small>	兒 <small>ル</small>	分 <small>フン</small>	五 <small>ウ</small>	錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>		
午 <small>ウ</small>	夜 <small>イ</small>	夕 <small>シヤク</small>	晝 <small>シヤク</small>	朝 <small>チヤウ</small>	紙 <small>チ</small>	銀 <small>イ</small>	銅 <small>ト</small>	一 <small>イ</small>	二 <small>ニ</small>	十 <small>シ</small>	一 <small>イ</small>	圓 <small>ユヅン</small>	五 <small>ウ</small>
前 <small>チヤン</small>	方 <small>フヤウ</small>				幣 <small>ビ</small>	貨 <small>フヅ</small>	貨 <small>フヅ</small>	錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>		

○方位氣象

禮 <small>リ</small>	禮 <small>リ</small>	禮 <small>リ</small>	三 <small>サン</small>	二 <small>ニ</small>	一 <small>イ</small>	一 <small>イ</small>	前 <small>チヤン</small>	昨 <small>ツォ</small>	後 <small>ホウ</small>	明 <small>ミン</small>	今 <small>チン</small>	下 <small>シヤ</small>
拜 <small>バイ</small>	拜 <small>バイ</small>	拜 <small>バイ</small>	月 <small>ユヅン</small>	號 <small>ハウ</small>	號 <small>ハウ</small>	號 <small>ハウ</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	午 <small>ウ</small>
二 <small>ニ</small>	一 <small>イ</small>	日 <small>ジツ</small>	三 <small>サン</small>	號 <small>ハウ</small>	號 <small>ハウ</small>	號 <small>ハウ</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	午 <small>ウ</small>
火 <small>カ</small>	月 <small>グヱツ</small>	日 <small>ジツ</small>	三 <small>サン</small>	二 <small>ニ</small>	一 <small>イ</small>	一 <small>イ</small>	昨 <small>ツォ</small>	明 <small>ミン</small>	明 <small>ミン</small>	今 <small>チン</small>	今 <small>チン</small>	午 <small>ウ</small>
曜 <small>ユウ</small>	曜 <small>ユウ</small>	曜 <small>ユウ</small>	月 <small>ユヅン</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	後 <small>ゴ</small>
日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	日 <small>ジツ</small>	後 <small>ゴ</small>

下 <small>シヤ</small>	雪 <small>シユヱ</small>	風 <small>フウ</small>	雨 <small>ウ</small>	陰 <small>イン</small>	晴 <small>チン</small>	天 <small>テン</small>	左 <small>ツァ</small>	右 <small>ユウ</small>	北 <small>ペイ</small>	南 <small>ナン</small>	西 <small>シ</small>	東 <small>トウ</small>
雨 <small>ウ</small>				天 <small>テン</small>	天 <small>テン</small>	氣 <small>キ</small>						
雨 <small>ウ</small>	雪 <small>シユヱ</small>	風 <small>フウ</small>	雨 <small>ウ</small>	曇 <small>トン</small>	晴 <small>チン</small>	天 <small>テン</small>	左 <small>ツァ</small>	右 <small>ユウ</small>	北 <small>ペイ</small>	南 <small>ナン</small>	西 <small>シ</small>	東 <small>トウ</small>
雨 <small>ウ</small>	雪 <small>シユヱ</small>	風 <small>フウ</small>	雨 <small>ウ</small>	曇 <small>トン</small>	晴 <small>チン</small>	天 <small>テン</small>	左 <small>ツァ</small>	右 <small>ユウ</small>	北 <small>ペイ</small>	南 <small>ナン</small>	西 <small>シ</small>	東 <small>トウ</small>
雨 <small>ウ</small>	雪 <small>シユヱ</small>	風 <small>フウ</small>	雨 <small>ウ</small>	曇 <small>トン</small>	晴 <small>チン</small>	天 <small>テン</small>	左 <small>ツァ</small>	右 <small>ユウ</small>	北 <small>ペイ</small>	南 <small>ナン</small>	西 <small>シ</small>	東 <small>トウ</small>
雨 <small>ウ</small>	雪 <small>シユヱ</small>	風 <small>フウ</small>	雨 <small>ウ</small>	曇 <small>トン</small>	晴 <small>チン</small>	天 <small>テン</small>	左 <small>ツァ</small>	右 <small>ユウ</small>	北 <small>ペイ</small>	南 <small>ナン</small>	西 <small>シ</small>	東 <small>トウ</small>

八一

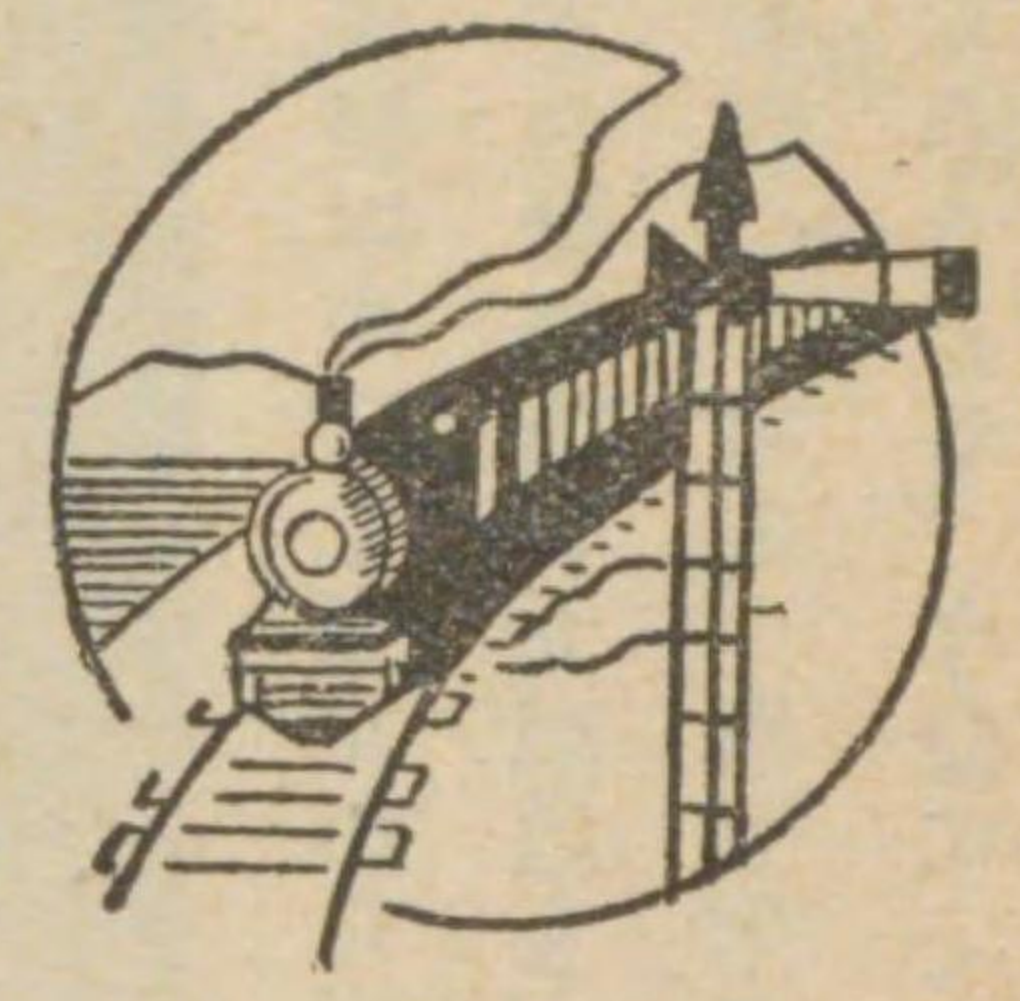
一 <small>イ</small>	二 <small>ニ</small>	十 <small>シ</small>	七 <small>チ</small>	四 <small>ス</small>	一 <small>イ</small>
百 <small>バイ</small>	十 <small>シ</small>				
		十 <small>シ</small>	八 <small>パ</small>	五 <small>ウ</small>	二 <small>ニ</small>
		一 <small>イ</small>			
一 <small>イ</small>	二 <small>ニ</small>	十 <small>シ</small>	九 <small>ヂウ</small>	六 <small>リウ</small>	三 <small>サン</small>
千 <small>チン</small>	一 <small>イ</small>	二 <small>ニ</small>			

○人稱

爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	幾 <small>チ</small>	幾 <small>チ</small>	一 <small>イ</small>
爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	個人 <small>コジン</small>	個人 <small>コジン</small>	個 <small>コ</small>
爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	幾 <small>チ</small>	幾 <small>チ</small>	個 <small>コ</small>
爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	幾 <small>チ</small>	幾 <small>チ</small>	個 <small>コ</small>
爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	幾 <small>チ</small>	幾 <small>チ</small>	個 <small>コ</small>
爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	幾 <small>チ</small>	幾 <small>チ</small>	個 <small>コ</small>

○金錢

一 <small>イ</small>	多 <small>トウ</small>	爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	他 <small>タ</small>
塊 <small>クワイ</small>	少 <small>シヤウ</small>	爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	他 <small>タ</small>
錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>	爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	他 <small>タ</small>
錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>	爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	他 <small>タ</small>
錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>	爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	他 <small>タ</small>
錢 <small>チエン</small>	錢 <small>チエン</small>	爾 <small>ニ</small>	我 <small>ウオ</small>	他 <small>タ</small>



◇簡単な支那語◇

旅の資料

旅の資料

八〇

751
311

旅の資料

鏡眼 鐘手 手手 襪靴 帽 香開 涼汽
 子鏡 表 帕 巾 子 子 子 雜 煙 水 水 水
 鏡眼 時 手 靴 靴 帽 卷 白 冷 サイ
 鏡 鏡 計 ハンカチ 拭 下 子 煙 湯 水 ダー
 郵信 信 紙 自 鋼 鉛 筆 洋 牙 刷 洗 胰
 封 來 筆 筆 筆 火 子 子 盆 子
 切封 書 紙 萬 べ 鉛 筆 マ 齒 刷 洗 石
 手筒 翰 箋 年 ン 筆 チ 子 子 器 鹼
 茅客 澡 雜 藥 油 錢 報 雜 洋 墨 明
 店 店 堂 貨 舖 舖 店 舖 誌 水 信
 廁 店 子 舖 舖 店 舖 誌 水 片
 便 店 子 舖 舖 店 舖 誌 水 片
 所 宿 風 雜 藥 食 兩 新 雜 イ 墨 葉
 屋 呂 貨 料 替 聞 誌 キ 書

八三

响早 租碼 河胡 馬路 道 熱冷 廳
 飯飯 界頭 同 路 地 風
 畫朝 居 波 河 橫 大 道 熱 寒 風
 飯飯 留 止 町 通 路 い い が吹く
 猪牛 雞 雞 點 饅 麵 麵 大 大 中 日 晚
 肉 肉 肉 蛋 心 頭 包 飯 菜 菜 菜 飯
 豚牛 雞 卵 菓 饅 ぱ う 米 西 支 日 晚
 肉 肉 肉 子 頭 ン どん 飯 洋 那 本 料 料 料 飯
 珈紅 茶 牛 日 啤 紹 酒 糖 白 醬 魚 菓
 琲 茶 奶 酒 酒 酒 鹽 油 子
 コーヒー 紅茶 牛乳 日本酒 ビール 紹興酒 砂糖 鹽 醬油 魚物

旅の資料

八二

751
311

自來水 水道
自來火 瓦斯
○交通
人力車
汽車 自動車
火車 汽車
快車 急行
慢車 普通車
頭等車 一等車
二等車 二等車
三等車 三等車
開車表 時間表
乘車券

◇ 簡単な支那語會話 ◇

是 是
謝々 謝々
不是 不是
這個 這個
那個 那個
有 有
沒有 沒有
有麼(有沒有) 有麼(有沒有)
それです
有難う
そいでない
これ
あれ
ある
ない
あるか
要る
要らない
要るか
よろしい
いけない
買ふ
買はぬ
買ふか
要る
要らない
要るか
よろしい
いけない
買ふ
買はぬ
買ふか
一寸待て
言葉が判らぬ
○挨拶
如何ですか
相變らずです、
あなた
どうぞお掛け下
さい
お歸りですか
左様なら
再見

您起來了
起來了
吃飯了麼
偏過了
請喝茶
請吃點心
您別客氣

お早う
お早う(答)
今日は
今日は(答)

○買
買甚麼
買這個
多少錢
三毛錢
那貴一點兒

お茶を召上れ
お菓子をお摘
み下さい
どうぞ御遠慮
なく
物
何を買ふか
これを買ふ
いくらか
三十錢です
それは少し高
い

少了行不行
可以賣給您了
開賬來

少しまけられ
ぬか
よろしい、賣
りませう
勘定して呉れ

○人力車

洋車!
到火車站去多少錢

おい!人力車
停車場迄いくらか

給兩毛錢
那太貴給一毛錢罷
それは高過ぎる十錢やらう
給多一點兒
那麼不要
好、您上車罷

二十錢下さい
もう少し下さい
そんならいらぬ
よろしい、お
乗り下さい

○宿屋

有間屋子沒有
住一天要多少錢
給我快預備飯
茅廁在那兒
給我沏茶來

空間があるか
一泊いくらか
早く飯を支度して呉れ
便所は何處
茶を持って来て呉れ
酒を持って來い

拿酒來
給我開賬來
這是酒錢

勘定をして呉れ
これは酒手だ

◇ 船舶發着時刻と船賃 ◇

(天津航路)

(イ)

大阪商船 長江丸(二、六一三噸)、長城丸(二、五九四噸)、長沙丸(二、六一二噸)

天	津	向
神	門	天
戸	司	津
第一日	第二日	第五日
正午發	早朝着 午後二時發	午前着
内	地	向
青	門	神
島	司	戸
第一日	第四日	第五日
午前發	早朝着 午前十一時四十分發	早朝着

神戸、天津間運賃

一等 (A) 八〇圓 (洋食) 二等 (B) 七〇圓 (洋食) 三等 (C) 五八圓 (洋食) 四八圓 (和食) 二二圓 (和食)

(ロ)

近海郵船 北嶺丸(二、〇八六噸)、南嶺丸(二、〇八六噸)、筑前丸

天	津	向
神	門	天
戸	司	津
第一日	第二日	第五日
正午發	午前九時着 正午發	午前着
内	地	向
青	門	神
島	司	戸
第一日	第四日	第五日
午前發	午前九時着 正午發	午前九時着

(青島航路)

大阪商船 泰山丸(三、九三〇噸)

青	島	向
神	門	青
戸	司	島
第一日	第二日	第四日
午前十一時發	早朝着 午後一時三十分發	早朝着
内	地	向
青	門	神
島	司	戸
第一日	第三日	第四日
午前十一時發	早朝着 午後二時半發	早朝着

神戸、天津間運賃 一等 (A) 八〇圓 (洋食) 二等 (B) 七〇圓 (洋食) 三等 (C) 五三圓 (和食) 但筑前丸 (和食) 三等 (BA) 寢臺室 二九圓 (南嶺丸、北嶺丸) 二二圓 (南嶺丸、北嶺丸、筑前丸) 一七圓五〇錢 (筑前丸)

(上海航路)

日本郵船 長崎丸(五、三〇〇噸)、上海丸(五、三〇〇噸)

上海	向
長崎	上海
第一日	第二日
午前十一時發	午後一時着
内	地
上海	長崎
第一日	第二日
午前九時發	正午着

長崎、上海間運賃

一等 (特別室) 一人使用 一五〇圓 二人使用 各八八圓 BA 二人室及四人室 五〇圓 三等 一八圓 この外日本郵船には大阪—神戸—上海線、横濱—上海線があり、歐洲航路客船、米國航路客船は往復共に定期上海に寄港する。



◇ 定期航空路と料金 ◇

最近定期航空路の躍進によつて快適な大陸への旅を樂める様になつた。詳細は必ず大日本航空株式會社に聞き合すべきであるが大略を記すと次の通りである。

(1) 旅客運賃

(上海、南京方面)	大阪—福岡—上海—南京—大阪、上海間	三五圓—八五圓—二五圓—一二〇圓
(青島、天津、北京方面)	大阪—福岡—青島—天津—北京—大阪、青島間	三五圓—八五圓—五〇圓—一五圓—一二〇圓

因みに大阪、福岡間普通便は前表より五圓安

(2) 發着時間表

(上海南京方面)	大阪發午前八、三〇 福岡	着午前一一、〇〇	上海	着午後二、五〇	南京着午後四、一〇	
	南京發午後四、二〇 上海	着午後五、一〇	福岡	着午後三、五〇	大阪着午後二、五〇	
(天津北京方面)	大阪發午前八、三〇 福岡	着午前一一、〇〇	青島	着午後二、三〇	天津	着午後四、一五
	北京發午前七、五五 天津	着午前八、一五	青島	着午前九、四〇	福岡	着午後一、二〇

◇ 支那主要資源と生産額 ◇

(鑛産 一九三六年生産額、但マンガン鑛は同年輸出額)

石	炭	一五、〇三四噸	石	油	一一、六一三樽(一九三五年産額)
銑	鐵	一五六噸	マンガン鑛		二三、八〇〇噸
タングステン鑛		七、〇五〇噸	アンチモニー		一七、三一二噸
金		六、二二一庇	銀		四、六六六庇

尙推定埋藏量は石炭一千三百九十億噸、鐵鑛三億二千萬噸と云はれる。

(農産 一九三五年産額)

米	六〇、八一二、九二六軒	小	麥	三一、四一九、〇〇八軒
棉花	四九二、五〇〇噸	繭		五五、八九二噸

(畜産 一九三五年調査)

牛	一二二、六四七、〇〇〇頭	馬		四、〇八〇、〇〇〇頭
豚	六二、六三九、〇〇〇頭	綿	羊	二〇、九五七、〇〇〇頭
家	三二三、九五〇、〇〇〇羽			



支那對外貿易累年表

Table with 4 columns: Year, 純輸入額, 純輸出額, 純貿易額, 入超額. Rows for years 1934-1938.

大阪港對支貿易累年表

Table with 4 columns: Year, 輸出額, 輸入額, 總額に對する割合. Rows for years 1909-1933.

現地主要幹旋機關一覽表

大阪市貿易調査所

- List of trade investigation offices in Osaka: 上海福州路八九號, 張家口橋西東關街一七, etc.

大阪府立貿易館

- List of Osaka Prefecture Trade Center branches: 天津日本租界壽街一五, 北京西長安街七二號, etc.

日本人商工會議所

- List of Japanese Chamber of Commerce and Industry branches: 天津日本租界福島街, 青島館陶路二六號, etc.

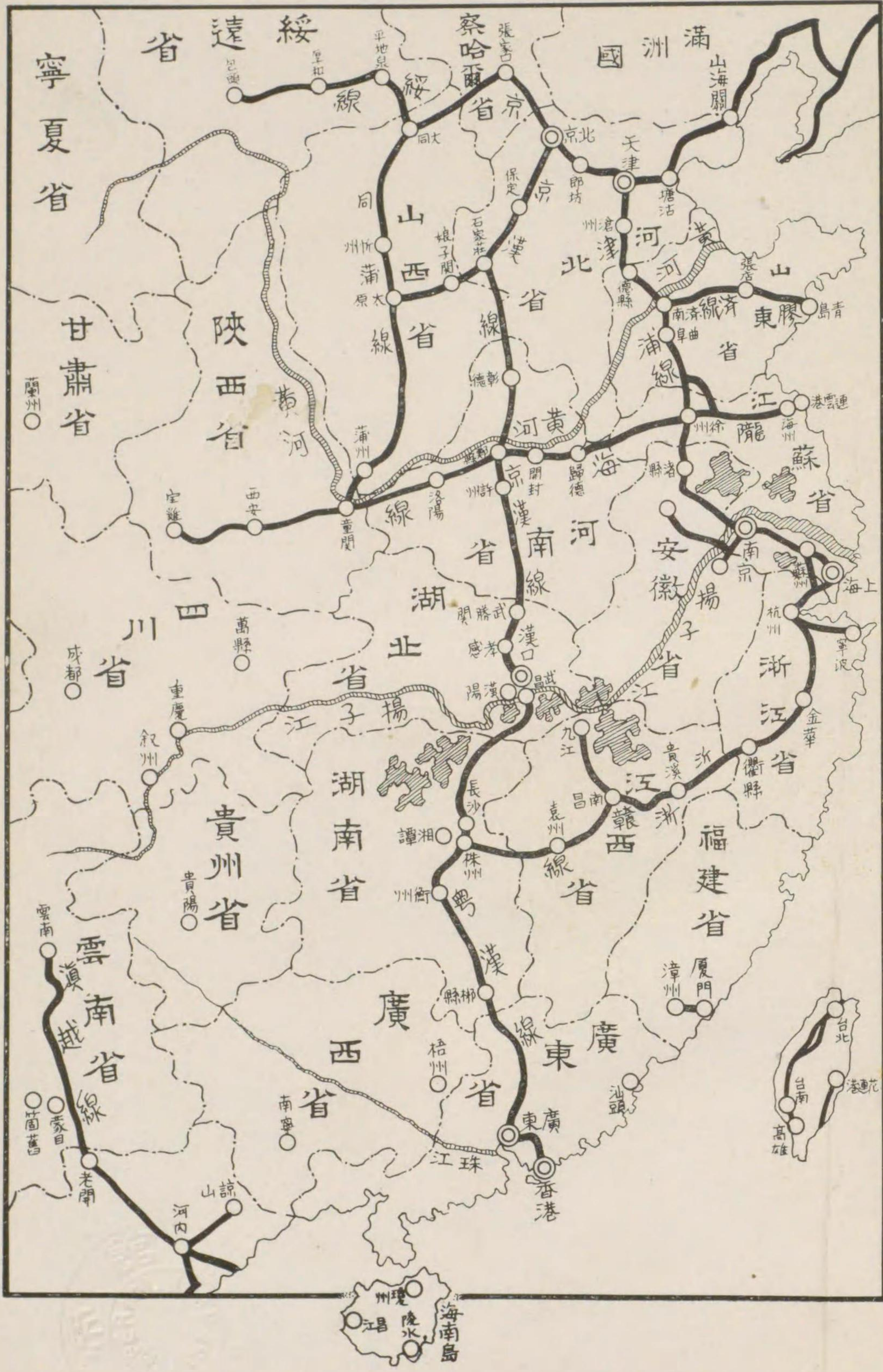
在支日本公館

- List of Japanese consulates in China: 北京東交民巷, 南京鼓樓百步坡二號, 上海公共租界黃浦路, etc.



751
311

支那本部略圖



大阪貿易助長施設要覽

貿易の斡旋

- ▽貿易に關する調査紹介
- ▽取引紹介
- ▽海外見本市、見本展示會、視察團
- ▽外國商標登録及滿洲國特許意匠出願事務代理
- ▽外國商業文の翻譯
- ▽外國旅商の案内並紹介
- ▽商品見本、型録、ポスターの蒐集
- ▽輸出補償
- ▽輸出資金前貸損失補償

貿易斡旋機關

- ▽本部 大阪市産業部貿易課
- ▽出張所 神戸、上海、哈爾濱、大連、錦州、張家口、蘇州、南京、漢口、スラバヤ、ボンベイ
- ▽囑託員 奉天、新嘉坡、盤谷、バタビヤ、桑港、ボゴタ、サンチャゴ

刊行物

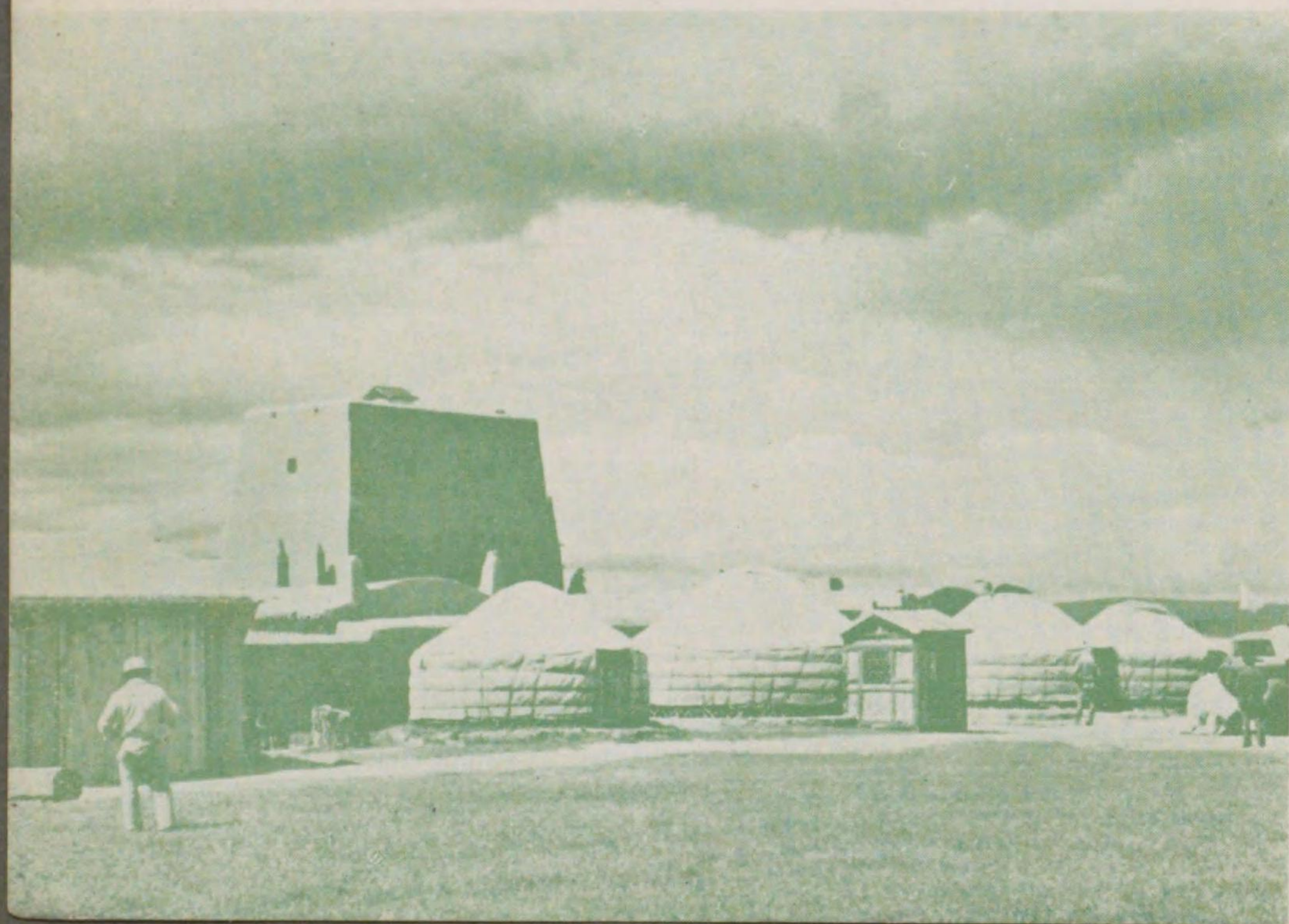
- ▽東洋貿易時報(週刊)、東洋貿易研究(月刊)
 - ▽貿易經濟叢書、産業叢書、海外商工人名錄
- (以上不定期刊)

昭和十四年三月二十日印刷
昭和十四年三月二十三日發行
編輯兼 大阪市産業部貿易課
發行人 大阪市北區芝田町六五
印刷人 小山 壽夫
大阪市北區芝田町六五
印刷所 小山 成 交 社
電話北一三三四番
電話北一三三四番

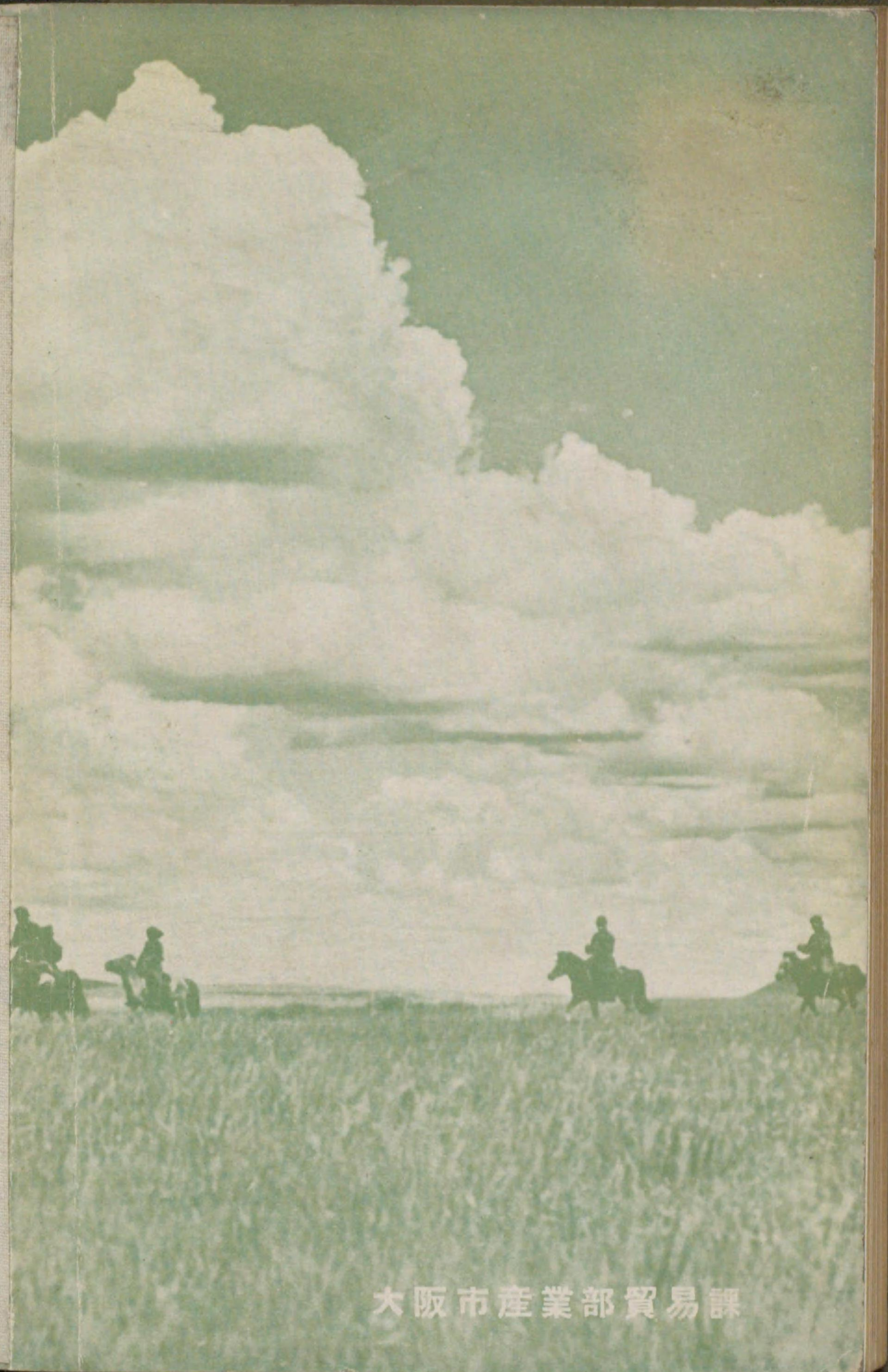
751
311

751
311

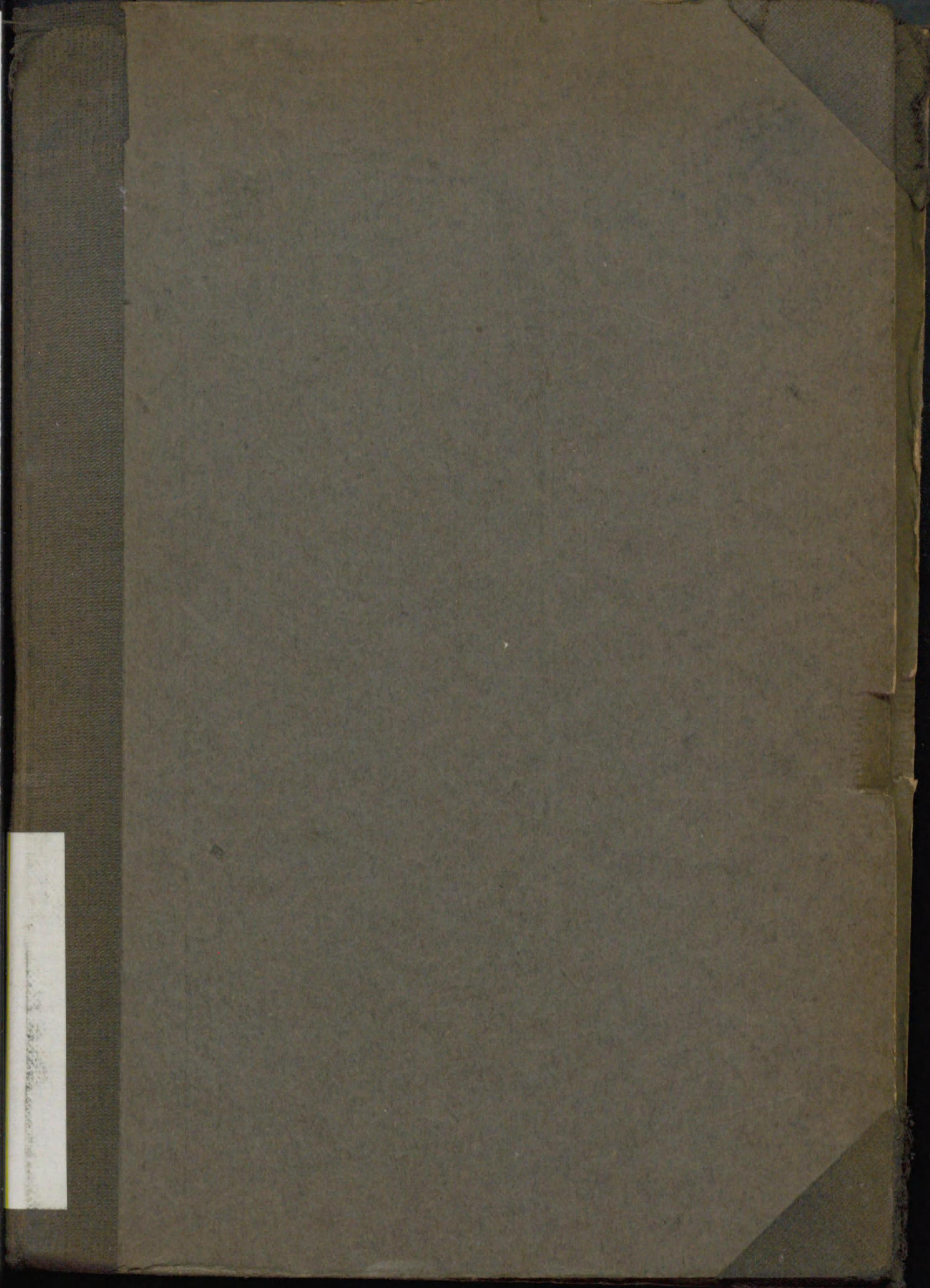
—蒙古包—



751
311



大阪市産業部貿易課

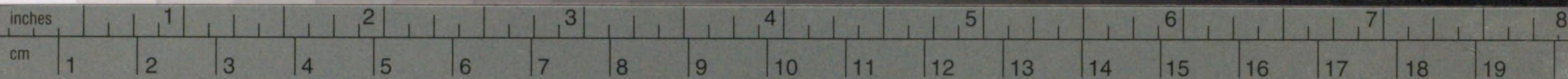


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

